

〔第二〕 醫家備考篇

第一章

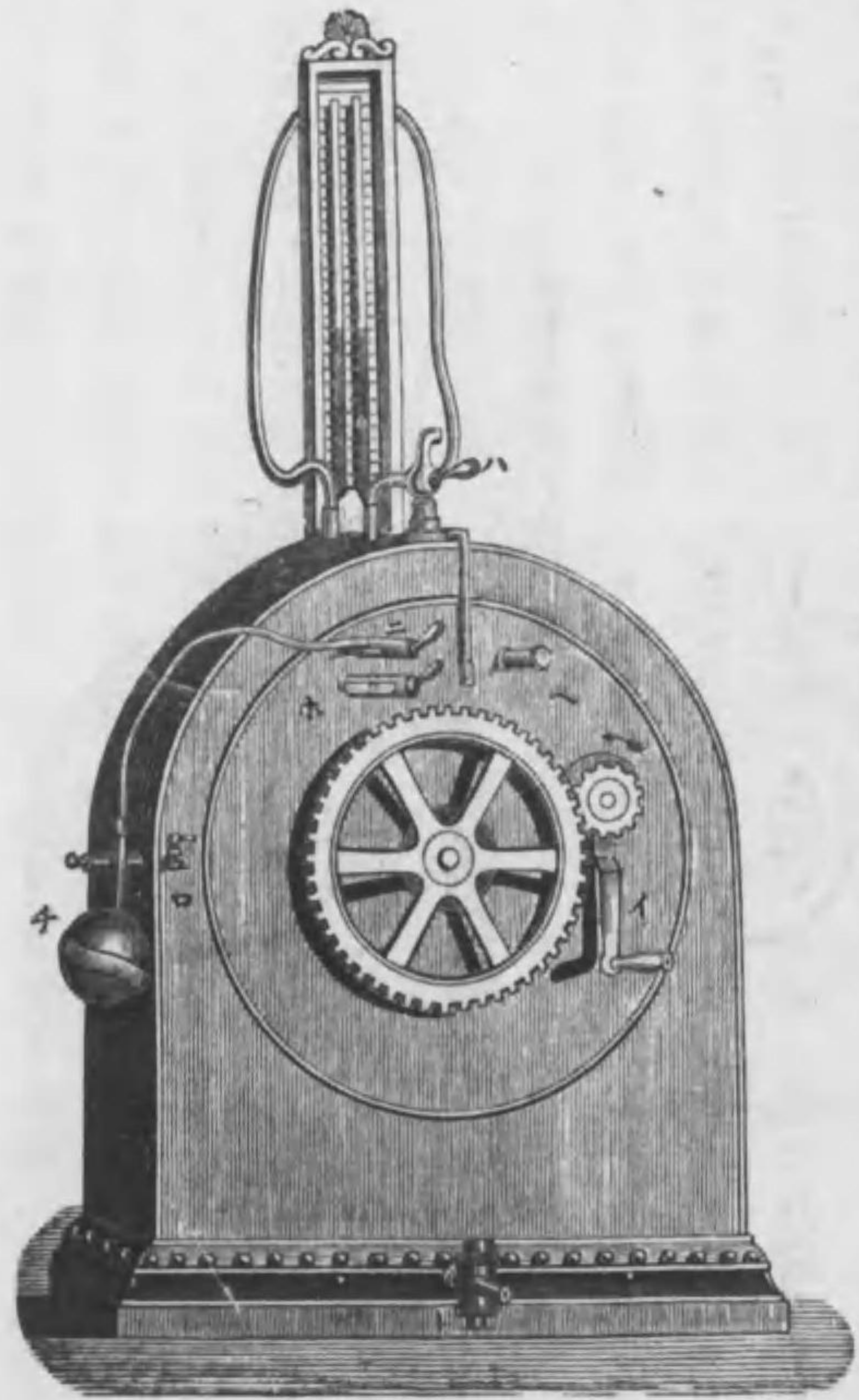
○空氣療法

空氣療法 Die Pneumatotherapie (氣候療法ト混同スル勿レ) ハ「バクテリア」ヲ含有セザル空氣ヲ治療ノ目的ニ應用スル者ニ器械的ニ其理學的性質ヲ變化スルニ由リ之ヲ濃厚或ハ稀薄トナスヲ要ス此器械的療法ハ或ハ運搬シ得ル装置ニ由リ或ハ空氣療法室ニ於テ施行スル者トス運搬的装置ハ「スピロメートル」ノ原理ニ從テ製セル者ニ肺ノ内面ニ稀薄或ハ濃厚ノ空氣ヲ觸接セシメ同時ニ身體表面ハ尋常氣壓中ニ存シ胸部ノ外面ト内面ニ向テ隨意ニ壓力ノ變異ヲ起サシムル者ナリ空氣療法室ニ在テハ壓稠セル空氣ハ變換セル壓力ヲ以テ全身ニ感應スル者ニ眞ニ血液中ニ酸素攝取ノ増加ヲ催進スルニ在リ

運搬的空氣療法装置中、吸輪通氣装置 Schöpfradventilator. 最も完全ナル者トス則チ「ガイゲル」氏及「マイル」氏ノ製セル所ニシテ最高價ナルヲ以テ其行ハル、狹隘ナルヲ免レサルヲ遺憾トス(第一圖ノ如シ)

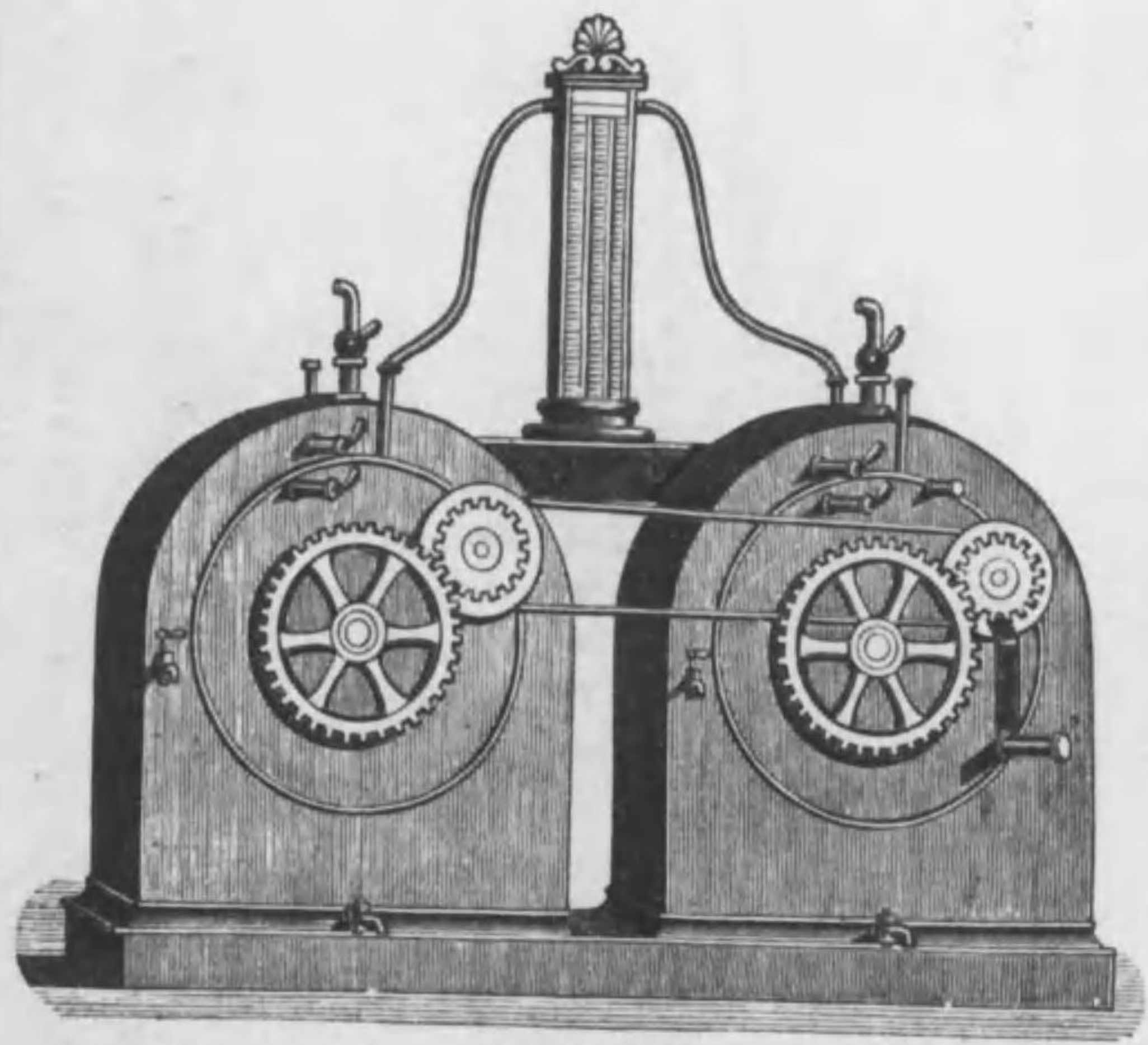
「ガイゲル、マイル」氏ノ吸輪通氣裝置ハ堅牢ノ鐵板ヨリ製造セル外套體ヨリ成リテ其内面ニハ外套體ヨリ外方ニ附着セル彎曲把柄(第一圖イ)ニ由テ吸輪ハ一部分水中ニ回轉シ外套體ノ内部ニ於テ吸輪氣槽ヲ越テ鐘腔ヲ包在ス此部ハ吸輪ヨリ攝取シ次テ水中ニ導引セル空氣ヲ捕集スル所ナリ此裝置ノ兩腔ハ嘴管(ハ乃至ヘ)ニ由テ外氣ト連通シ其(ハニ)ナル嘴管ハ外套腔(外方ニ在ル者)ト交通シ「ホヘ」ナル嘴管ハ鐘腔(内方ニ在ル者)ト交通ス而シテ(ハ)ナル螺旋嘴管ト此裝置ニ水ヲ充實スルノ用ニ供シ下方ノ流出管(ト)ハ水ヲ排漏スル者ニシテ小試檢嘴管(ロ)ハ充實スルニ當リ(ロ)ヨリ水ヲ流出シ始ムルキハ裝置ノ適當ナル水量ヲ含蓄セルヲ檢知スル者トス今若シ嘴管(ハニ)ヲ開キ(ホヘ)ヲ閉ツルトキ彎曲セル把柄(イ)ヲ矢ノ方向ニ運轉スルヤ空氣ハ外方ノ外套腔ヨリ鐘腔内ニ吸攝セラレ茲ニハ全ク逃散スル能ハサルヲ以テ把柄ヲ運轉スルニ從テ益々壓稠セラレ、者トス瓣膜ノ回轉ニ從テ外氣或ハ瓦私管及ヒ(ヘ)ヲ經テ鐘腔ノ内部ト交通スル鼻口覆接面(チ)ヲ具フル瓦私管ニ由テ(ホ)ナル嘴管ヲ結合スルキハ壓稠ナル空氣ヲ吸入シ得ベク而シテ把柄ヲ適度ニ回轉スルニ由テ吸入セル氣量ヲ益々補給スベク或ハ不變ノ度ニ於テ壓稠ナル空氣ノ壓力ヲ保持シ

第一圖



「ガイゲル、マイル」氏吸輪通氣裝置(實物十分一)

「ガイゲル、マイル」氏ノ重複吸輪通氣裝置



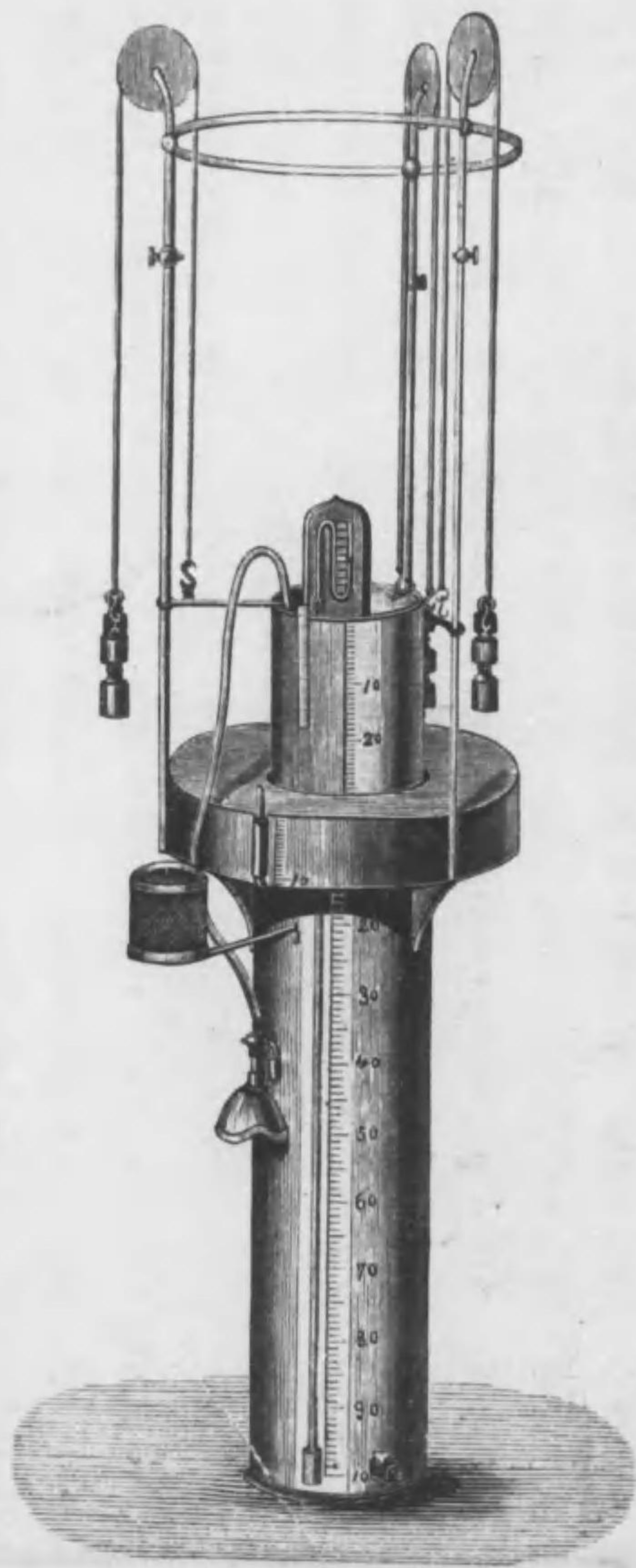
第 二 圖

得ルヲ辨識スルナリ覆ツテ(ハニ)ナル嘴管ヲ閉鎖シ(ホヘ)ヲ開通スルキハ把柄ヲ回  
 轉スル際、舊時ノ關係ヲ存ス則チ外套中ノ空氣ハ吸輪氣槽ヲ經テ鐘腔内ニ吸入セラ  
 ル、者ナリ鐘腔ヨリ空氣ハ(ホヘ)ヲ經テ逃出スル者ナリ之ニ反シテ外套腔内ニ稀薄  
 空氣ヲ進入ス護謨管ニ由テ(ニ)ト鼻口覆接面ト結合スルキハ稀氣ヲ充實セル腔内ニ  
 呼出スルヲ得ベシ空氣ノ壓稠或ハ稀薄ノ度ハ水壓計ニ由テ知ルベシ即チ其讀者ニ向  
 テ右側ニ在ル脚ハ鐘腔ト結合シ壓稠空氣ヲ發生セルキハ水柱位置ノ變化ヲ呈スト雖  
 左側ノ脚ハ外套腔ト交通シ空氣稀薄ヲ生セルキハ水柱ヲ吸攝スル者トス水壓計ノ  
 書度ハ水柱ノ位置ヲ「センチメートル」ヲ以テ示シ且氣壓ノ傳搬ヲ現ハス者トス實際  
 上、四十分一乃至三十分一ノ氣壓ノ變化ヲ最有用ナルヲ知ルベシ  
 此裝置ハ唯壓稠空氣ヲ吸入シ或ハ稀薄空氣中ニ呼出スベキノミ或ハ兩者ヲ行ハント  
 スルニハ間斷セル呼吸ヲ行フベキハ勿論ナリトス病者若シ交番ニ稀氣中ニ呼出シ密  
 氣ヲ吸入セントスルニハ唯重複通氣裝置(第二圖ノ如シ)ヲ使用スルニ在リトス則チ  
 此器ハ兩個ノ吸輪通氣裝置ヲ結合セル者ニ外ナラス其吸輪氣槽ハ兩把柄ヲ結合セル  
 一條ノ革紐ノ媒介ニ由リ把柄ヲ主宰スルナリ嘴管ハ兩裝置ニ於テ反對セル作用ヲ爲

ス者ニノ壓稠ナル空氣ヲ發生スルカ爲メ一裝置ニ於テ外套腔ノ嘴管(ハニ)ヲ開クノ際、他ノ裝置ニ於テハ恰モ外套腔ノ稀薄空氣ヲ恢復スルカ爲メ鐘腔ノ嘴管(ホヘ)ヲ開通セサル可ラス鼻口覆接面ノ兩脚ハ各一裝置ノ氣槽管及適合セル嘴管ト結合スル者トス茲ニハ此ノ簡畧ナル説明ヲ以テ満足セサル可ラス此裝置ヲ實用ニ供スルキハ忽チ明瞭ニ知悉スベキナリ

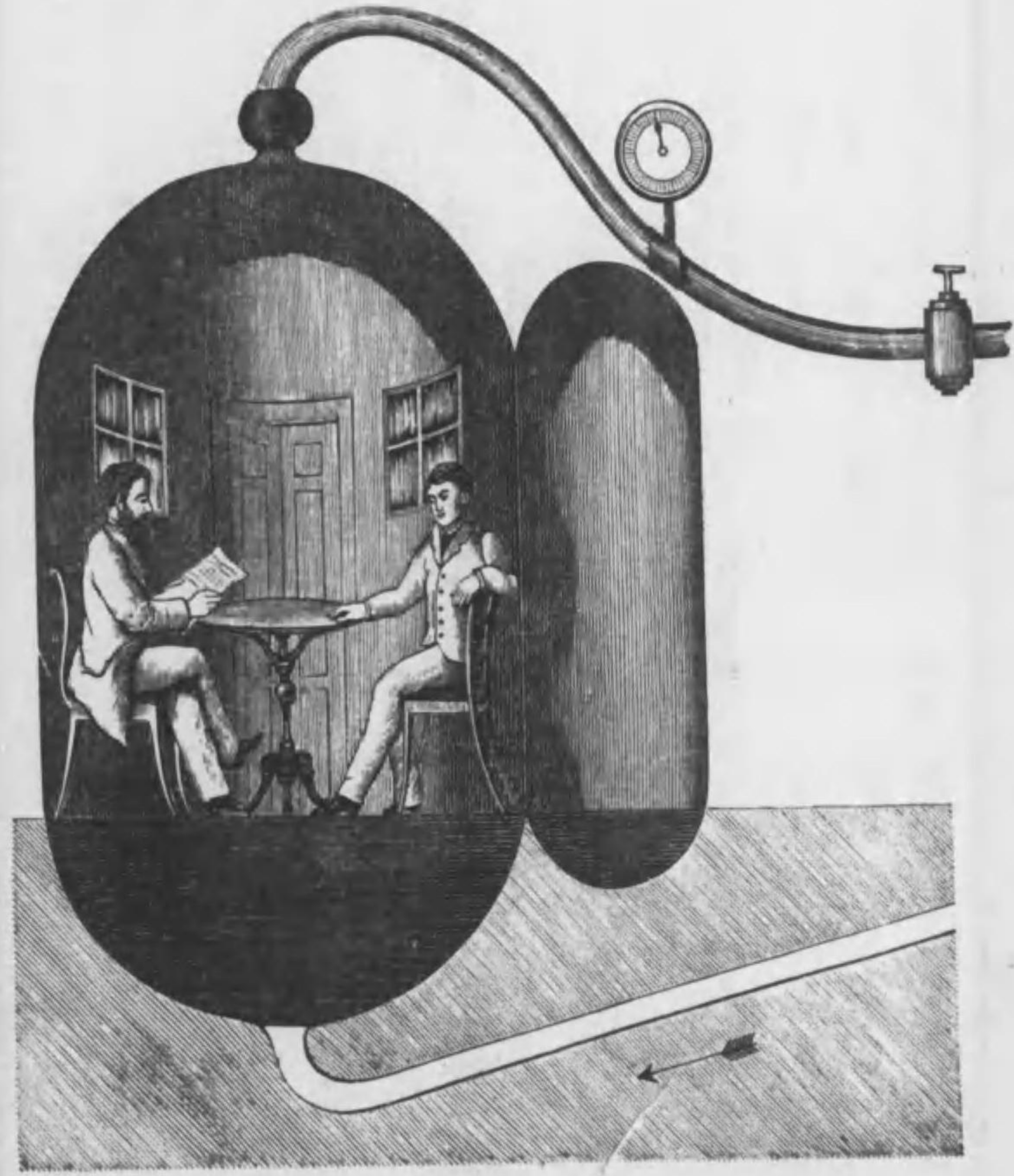
「ワルデンブルグ」氏ノ裝置ハ古來用ユル者ナレヒ稍完全ナラストス(第三圖ノ如シ)此裝置ハ片側閉鎖セル兩扁板圓筒ヨリ成ル者ニノ小内圓筒ハ外大圓筒ヲ昇降シ得ル者トス外筒ニ水ヲ充實シ其位置ハ氣壓計ニ由テ算讀スベシ内圓筒ハ瓣膜裝置ニ由テ外氣或ハ内圓筒腔ト結合シ得ル鼻口覆接面ト護謨管ヲ經テ結合スル者ナリ内圓筒ハ外圓筒ノ底面上ニ位シ細紐及滑車裝置ニ由テ内圓筒ノ上底ト結合スル釣ニ重錘ヲ懸垂スルキハ内圓筒ヲ昇騰セシメントシ之ニ保有セル空氣ヲ稀薄ナラシム、此際病者ハ正ク覆接面ヲ經由シテ内圓筒腔内ニ呼吸スルキハ均ク稀氣ニ於テ呼出スル者ナリ之ニ反シテ内圓筒ヲ可及的、高昇シ次テ其上蓋ニ重錘ヲ置クキハ之ニ由テ内圓筒中ニ含蓄セル空氣ヲ壓稠シ且吸入シ得ベシ空氣稀濃ノ度ハ内圓筒ト結合セル水銀氣

第三圖



「ワルデンブルグ」氏運搬的吸入氣槽(實物十五分一)

第 四 圖  
「リバー」氏ノ空氣療法的鐘室



壓計ヲ以テ計知スベシ  
「シユニツレル」氏ハ「ワルデンプルグ」氏氣槽ヲ全ク改良セリト雖凡茲ニ之ヲ論及セザルベシ

空氣療法的鐘室 Pneumatischen Cabineten (Glocken, Kammern.)ヲ使用スルキハ空氣ノ器械的作用ハ全ク運搬性装置ニ異ナレルヲ看過ス可ラス蓋シ此法ハ獨、肺ニ限局セシテ廣ク全身ノ表面ニ蔓及スレバナリ而シテ唯稠密ノ空氣ヲ供用スルノミニノ病者ハ壓稠セル空氣ヲ吸入シ亦其中ニ呼出スル者トス病者ハ初ノ一時間、后ニハ一時半乃至二時間氣室内ニ留息セシムルヲ適當トス

「タバリー」氏ノ原装置ハ泳氣鐘ヲ模造セル者ナリキ(第四圖ノ如シ)堅固ナル鍛鐵板ヨリ楕圓形ノ空室ヲ構造シ四人乃至十二人ヲ容ル、ニ足ル者ナリ空室ノ下三分一ハ地下ニ存在ス其基礎ヲ越テ數回地平ニ穿通セル床底ヲ附着シ孔口ニ由テ鐘室ノ上部及下部ヲ交互結合スル者ナリ空室ハ家具及極テ厚キ硝子板ヲ嵌入セル窓ヲ備フ其窓戸ハ内方ヨリ開クベシ下方ノ一管ハ鐘内ニ空氣ヲ送入スルカ爲メニ開口スト雖凡上方ノ一管ハ空氣ノ排除ニ供スルナリ空氣ハ下方ヨリ蒸氣機械ニ頼リテ輸送スル者ト

ス今ヤ嘴管装置ニ由テ上管ノ空氣排除ヲ制限スルルハ多ク空氣ヲ下方ヨリ流入シ來リ、上方鐘室ヲ排除スルルハ鐘内ニ含蓄スル空氣ヲシテ益々稠密トナラシムルヲ得ベシ其稠厚ノ度ハ氣壓計ニ由テ知ルベシ

空氣療法の鐘室ハ其構造非常ニ巨費ヲ要スト雖近時殊ニ「ライヘンハル」ノ「リービイヒ」氏ハ眞ニ完全ノ者ヲ設ケタリ加之、「マテルスブルク」ノ「シモノツフ」氏ハ石造ノ鐘室ヲ構造シ尋常家屋ト外見上ヨリ辨別シ難キ所ナリ

運搬の装置ノ作用ハ唯呼吸ノ局所性ノミニ關スレド空氣療法室ノ内ニ生息セシムルハ全身ニ感作スル者ナリ之ニ反シテ濃厚若クハ稀薄ナル空氣ノ治療的感應ハ兩法共ニ同一ナリ

生理的ニ濃厚空氣ノ感應ハ胸廓ノ展開ヲ喚起シ通氣セサル肺部分ヲ再ヒ呼吸ヲ營爲セシムル者ナリ然レド濃厚空氣ハ肺ノ患部ニ到達スルヤ否、疑ナキ能ハス稀薄空氣ハ胸廓ヲ變狭シ呼吸筋ノ機能ヲ奮起シ大動脈血壓ヲ減少シ以テ新陳代謝及榮養ヲ佳良ナラシム、其希望セル作用ニ從テ醫家タル者ハ濃厚空氣ヲ吸入シ稀薄空氣中ニ呼出スルヲ命スベシ

空氣療法ハ氣管枝加答兒ニ持續セル良効ヲ奏シ急慢兩性ノ症ニ於テ祛痰及治癒ヲ催ス者トス其運搬の装置ニ於テ稀氣或ハ濃氣ヲ用ユヘキヤ否ハ吸氣或呼氣ノ何レカ困難ナル者ニ從テ定ムベシ吸氣ニ妨害アルルハ壓稠セル空氣ヲ吸入セシメ、呼氣著ク延長シ多量ノ水泡音ヲ發スルルハ稀薄空氣中ニ呼出セシム可シ呼吸共ニ困難ナルルハ二個ノ装置ヲ以テ交替稀氣及密氣ヲ呼吸セシムル者トス驚クベキ顯著ノ速効ヲ奏スルヲ少カラス

此装置ヲ使用スルニ臨テハ六乃至八週間、一日一回乃至二回、三十乃至百回ノ呼吸ヲ營マシメ以テ症狀ノ輕快スルニ至ルベシ氣室ニ至テハ病者ヲシテ數週間、毎日一時乃至一時半、生息セシメ茲ニ最多ク濃厚ノ空氣ヲ吸入セシムベシ肺氣腫、氣管枝喘息、氣管枝加答兒初起肺勞ニ於テハ濃氣ヲ吸入セシメ腦充血、右心半部疾患、腹部血管ノ充血、萎黃病、貧血、榮養障礙ニ於テハ稀氣ノ吸入ヲ行ハシム

## 第二章

### ○體操法

體操法 Die Gymnastik. ハ適應ノ方式ニ從テ身體諸部殊ニ筋肉及關節ヲ練操スルニ在リ其用務タルヤ二様アリ一方ニハ人ヲシテ身體及精神ヲ健全ニ保持セシムルト(衛生的、豫防的)他方ニハ病者ヲシテ治療ヲ得セシムルト(治療的)ニ在リトス衛生的ニハ學校ニ在テ空手ト用器トニ由テ體操ヲ行ハシムル者是ナリ治療的體操法ニ至テハ獨逸式ニ從テ室內體操(「シユレベル」、「シルドバツハ」、「フロム」、「アングルス」、「グイン」、「エツケル」氏)ニ由リ或ハ「スイデン」式ノ治療的體操ニ由テ治効ヲ奏セシムベシ室內體操法ハ患部ノ位置ニ從テ適度ニ操練(自動的)スレバ卓効アリト雖モ「スイデン」式治療體操法ハ自動及他動的ニ行ヒ運動抵抗ヲ生スル者ニシテ此練習ハ病者一己ノミ行フ能ハス却テ醫家或ハ體操家ニ取テ病者ニ希望セル運動ニ抵抗ヲ生ス例之、屈筋ノ高度ニ鈍麻或ハ疲弱セルキハ病者ヲ之ヲ行ハシムルモ體操家ノ之ヲ行フキハ展伸筋ニ由テ抵抗ヲ起ス者ニシテ覆テ伸筋ノ麻痺セル者ハ屈筋ノ抵抗ヲ起ス者トス體操法ノ生理的感應ハ其衛生的及ヒ治療的ニ拘ハラズ呼吸及血行ニ影響スル者ニシテ強盛疾速トナシ消化ヲ佳良トナシ排泄ヲ増加シ發温ヲ調節シ新陳代謝ヲ亢盛シ精神機能ヲ和調ナラシメ神經機能ヲ旺盛トナス者ナリ

此法ハ身體末梢部ノ鬱血、麻痺患者、呼吸筋虛弱ノ者、初起肺勞(他ノ治法ト共行ス)消化障礙、便秘、痔出血ノ催起、神經性違調、不眠、身體ノ不良位置、脊柱ノ差轉、初起側彎、后彎、前彎、內翻足、馬蹄足、外翻足ニ應用スベシ治療的體操法ハ久時間、毎日、食前半時間、或ハ器械ヲ用ヒス或ハ之ヲ用ヒ(棍棒、等)行ハシムト雖モ「スイデン」流、治療的體操法ハ數月間、毎日一二時間、五分時ノ休歇ヲ以テ行フベシ體操ニ代エテ「スイデン」ニ於テハ「ツァンデル」氏ハ蒸氣力ヲ以テ運轉スル機關ヲ用ヒ發起セル抵抗ヲ制御セントセリ「スイデン」、佛國、獨逸ニ於テハ此器械ヲ應用シ發起スル運動抵抗ヲ器械ニ由テ之ヲ掃去スルニハ醫家ノ監督ヲ要ス此療法ノ生理的効用及適症ニ至テハ公平ノ判定ヲ與フルカ爲メ未タ充分ニ研究セサル所ナリ

## 第二章

### ○按摩法

按摩法 Die Massage. ハ「アムステルダム」ノ「メツゲル」氏新ニ生理的原由ニ據リ行ヒテ近時流行シ數々應用スル治療法ニシテ病的身體部分ヲ按摩、捏捻、打撞轉回シ

以テ治効ヲ奏セシムルニ在リ、醫家、按摩者ノ手或ハ指尖ニ油類、「ワセリン」或ハ「テ  
ノリン」ヲ浸シ此術ヲ施行スルコト毎日一回乃至二回十乃至三十分間ニテ之ヲ持續シ  
テ一月或ハ數月ニ及フベシ  
按摩スルニハ術者ハ指尖或ハ全手ヲ患部ノ中心ニ壓迫シ之ヲ末梢ニ向テ撫シ去ルベ  
シ  
捏捻スルニハ患部ヲ把握、壓迫シ數分間、持續セル運動ニ由テ末梢ヨリ中心ニ向テ行  
フベシ  
打撞スルニハ脂油ニ塗レル指ヲ以テ多クハ手ノ稜角部ヲ以テ行ヒ患部ノ淺深ニ從テ  
或ハ弱ク或ハ強ク打撃スベシ  
轉回スルニハ術者ノ手ヲ以テ患部ヲ屈曲、展伸シ行フベシ  
按摩ヲ行ヘル后チ、按摩シタル身體部分ハ「プリスニッツ」氏ノ冷捲法或ハ微温捲法ヲ  
行ヒ被包スベシ生髮セル部分ハ豫メ剃毛シ術者ハ爪尖ヲ切去シ置クベシ  
按摩ノ生理的作用ハ林巴及血行ノ前進ヲ疾速ナラシメ血液循環ヲ増盛シ滲出物ヲ吸  
収セシメ炎症ト温度亢進ヲ防止シ疼痛ヲ減退シ攣縮、鈍麻ハ勿論、麻痺ヲ掃去スルニ

在リトス此法ハ消炎法トナリ吸收催進法トナリ強壯法トナス而シテ新發ノ挫傷、轉傷、  
腺腫脹、攣縮、慢性筋肉及關節痲痺質斯、腱鞘ノ疾患、滲出物ノ神經ヲ壓迫スルカ爲メ  
ニ來ル末梢神經痛、脱臼、靜脈瘤、消化障礙、便秘ニ適當スル者ナリ讚賞家ハ此法ヲ稱  
讚スト雖モ諸粘膜、喉頭、眼目ノ諸症、女性生殖器、中樞神經系統ノ諸病ニハ其効、疑  
シキ者トス現今、教育ヲ受ケサル無識人物ノ行ヘル按摩法ニ就テハ其危害ヲ生セシ  
メサルカ爲メ將タ然ラサルモ此法ヲ過度ニ應用シ且俗間ニ於テ其効用ヲ過賞スルヨ  
リ其信用ヲ減失スルノ恐アルヲ以テ醫家タル者之ヲ警醒スルヲ必要トナス

#### 第四章

##### ○矯正治法

矯正治法 Die orthopädische Heilmethode. ハ體操及按摩ヲ行ニ拘ラス脊柱并ニ關節  
ノ短縮ヲ掃去スル爲メニ器械ヲ使用シ副木、「コルセット」ト「ギブス」、皮革等ヲ屢加  
用スル者ナリ往時使用セル展伸臥床ハ直伸器ノ應用ニ由リ「コルセット」(胴衣)ヲ缺  
クモ可ナリ之ニ由テ病者ヲシテ運動セシムベク新鮮空氣中ニ生息セシムルヲ得ベシ



生理的ニ此装置ハ患部ヲ漸次屈曲、展伸、直位及固定スルノ効アリ斜頸、側彎、前彎、  
后彎、初起ノ「ポット」氏病、塊足、并ニ足、膝及上肢ノ他ノ畸形ニ於テ之ヲ行フヘシ決  
シテ醫家ヲノ茲ニ應用スル副木ノ調製ヲ通常製造家ニ放任セスシテ其製造前、之ト  
商議シ運動ノ生理的原則并ニ現在ノ疾患ニ就テ必ス參省ヲ要スル者ナリ

### 第五章

#### ○新藥編

近來ノ發明ニ係レル新藥ノ主治、用量及ヒ處方ヲ纂者譯述ノ新藥纂論(新藥百數十種  
ノ詳論)ヨリ抄録ス是レ固ヨリ其一斑ノミ若シ詳説ヲ窺ハントセハ同書ヲ參觀スベ  
シ

○イヒチオール

〔主治〕 諸般ノ皮膚病、癩瘡、癩病、

〔用量〕 ○、二五—一、〇即四八半—十六八

〔處方〕 ○イヒチオール 五、〇 ラノリン 五〇、〇

右塗布料 〔皮膚諸病〕

○イヒチオール 三〇、〇 パラフィン軟膏 一〇〇、〇

右塗布料 〔慢性關節癱瘓質斯〕

○イヒチオール 〔每一個〇、二五〕

右一日四五個服用 〔癩病〕

○イヒチオール 五、〇 ザルチール酸 三、〇 屈利設林 二〇、〇

酒精 一〇〇、〇

右塗布料 〔創傷治癒期〕

○イヒチオール 一〇、〇 昇汞 一、〇 韶水 九〇、〇

右塗布料 〔瘰癧、癩病、狼瘡〕

○ハゼリ子

〔主治〕 諸般ノ出血

〔用量〕 五滴乃至十五滴

〔處方〕 ○ハゼリ子 三、〇 單舎 一五、〇 水 一〇〇、〇

右每二時一食匙 〔子宮出血〕

○パラアルデヒット

〔主治〕 麻醉ヲ要スル諸病

〔用量〕 二、〇—五、〇即三十二氏—一ノ十六氏

〔處方〕 ○パラアルデヒット 四、〇 餾水 一〇〇、〇 白糖 一〇、〇

右二回ニ分服 〔胆石痙〕

○ババイン

〔主治〕 消化不良、實布埜利亞、

〔用量〕 〇、一—〇、五即一氏半—八氏

〔處方〕 ○ババイン 〇、二 酒精 〇、二五 硼砂 〇、二五 餾水 七、五

右外用 〔實布埜利亞〕

○ニトログリセリン

〔主効〕 麻醉

〔用量〕 二乃至十滴 (一九〇、〇〇〇五ノ者ヲ適當トス)

〔處方〕 ○「ニトログリセリン」 〇、一 薄荷油 一〇、〇

右混和一日數回 二乃至十滴 〔喘息、絞心症〕

○「ニトログリセリン」 〇、一 再餾酒精 一〇、〇

右混和 一日數回 二乃至十滴 〔痙攣性偏頭痛〕

○ホモアトロピン

〔主治〕 瞳孔散大、麻醉、

〔用量〕 水溶液一分ト百分ノ比例

〔處方〕 ○貌魯謨水素酸ホモアトロピン 〇、三 餾水 一〇、〇

右半筒乃至一筒皮下注射 〔盜汗〕

○貌魯謨水素酸ホモアトロピン 〇、一 餾水 一〇、〇

右點眼料 〔虹彩炎〕

○ペレナ—ーリン

〔主治〕 條蟲驅除

〔用量〕 〇、三—〇、四即五氏六氏強

〔處方〕 ○鞣酸ペレナ—ーリン 〇、一五 綿馬越幾斯 一、〇

右爲丸頓服 〔條虫〕

○スパルテイン

〔主治〕 心臟鼓舞藥、

〔用量〕 〇、三即半氏

〔處方〕 ○硫酸スパルテイン 〇、三 餾水 三〇〇、〇 單舎 三、〇〇

右一日三回一食匙宛 〔心臟病〕

○オイオニミン

〔主治〕 緩下劑、

〔用量〕 〇、一〇、四即一匁半—六匁

〔處方〕 〇オイオヨミン流動越幾斯 三〇、〇 酒精大黃丁幾 一五、〇 餽水 一〇〇、〇

右每一食匙宛 〔緩下劑〕

○カイリン

〔主治〕 解熱藥、

〔用量〕 〇、五—一、〇即八匁—十六匁

〔處方〕 〇鹽酸カイリン 白糖 各〇、二

右爲一包每一時一包宛 〔腸室扶斯〕

○加那陀ヒドラチユス越幾斯

〔主治〕 諸般ノ出血症

〔用量〕 〇、一—〇、五即一匁半—八匁

〔處方〕 〇加那陀ヒドラチユス越幾斯 六、〇 麥角越幾斯 三、〇

還元鐵 三、〇

右爲百二十九每三時三丸宛 〔出血諸症〕

○ヨドール

〔主治〕 制腐、防腐ヲ要スル諸病

〔用量〕 〇、二即三匁

〔處方〕 〇ヨドール 一、〇 酒精 一五、〇 屈利設林 三四、〇

右外用 〔防腐料〕

○ヨドール 一、〇 ヲセリン 一〇、〇

右外用 〔皮膚諸病〕

○ヨドール 一、〇 酒精 一五、〇

右注入料 〔陰囊水腫及漿液性關節炎〕

○タルリン

〔主治〕 解熱藥、

〔用量〕 〇、一—〇、五即一匁半—八匁

〔處方〕 〇五%硫酸タルリン水 一五〇、〇

右尿道注入料 〔急性淋疾〕

○レヅルチン

〔主治〕 解熱、防腐、

〔用量〕 一、〇—三、即十六匁—四十八匁

〔處方〕 〇レヅルチン 五、〇 ヲセリン 二〇、〇

右塗布料〔丹毒〕

○レアルチン 〇、五 白糖適宜

右爲一包一時一包宛〔急性關節痲痺質斯〕

○レアルチン 五、〇 餾水 一〇〇、〇

右洗滌料〔膀胱加苔兒〕

○ナフトール

〔主治〕 諸般ノ皮膚病、

〔用量〕 外用

〔處方〕○ナフトール 〇、五 ワセリン 五〇、〇

右塗布料〔皮膚諸病〕

○ナフタリン

〔主治〕 防腐、下利、

〔用量〕 〇、三—一、〇即五片—十六片

〔處方〕○ナフタリン 五、〇 亞麻仁油 五〇、〇

右塗布料〔皮膚諸病〕

○ナフタリン 二、〇 硫酸規尼涅 〇、八 阿片 〇、一 甘草末 適宜

硬脂 少許

右爲五十九一日五回五丸宛〔下利〕

○ラノリン

〔主治〕 膏藥配伍料、

〔用量〕 外用

〔處方〕○酸化亞鉛 一〇、〇 ラノリン 八〇、〇 豚脂 一〇、〇

右外用〔皮膚諸病〕

○水銀 五〇、〇 水銀軟膏 二、五 ラノリン 一、二五

右外用〔梅毒〕

○ナフトール 五、〇 綠石鹼 二五、〇 白堊 沈降硫黃 各二五、〇

ラノリン 三〇、〇

右外用〔疥癬〕

○硼酸 一、〇 豚脂 二、〇 ラノリン 七、〇

右外用〔防腐用軟膏〕

○ウレタン

〔主治〕 催眠、

〔用量〕 一、〇—二、〇—四、〇即十六氏—一了

〔處方〕〇「ウレタン」 四、〇 餛水 四〇、〇 橙皮舍 二〇、〇

右混和 每半時一食匙 睡眠スルニ至ル 〔催眠〕

〇ウレタン 〇、二 「チリヤ」水 橙花水 各二〇、〇 單舍 二〇、〇

右混和 每時一小兒匙宛 〔催眠〕

〇「クエイラヤ」皮

〔主効〕 祛痰、

〔用量〕 四、〇即一了

〔處方〕〇「クエイラヤ」皮煎 (五、〇) 一八〇、〇 橙皮舍 二〇、〇

右混和 每二時 一食匙宛 〔氣管枝加答兒〕

〇「グウヤコール」

〔主効〕 防腐、

〔用量〕 〇、一—〇、二即一氏半—三氏

〔處方〕〇「グウヤコール」 一、〇—二、〇 餛水 一八〇、〇 酒精 二〇、〇

右混和 黑色瓶ニ貯フ 一日二三回一茶匙乃至一食匙ヲ一盃ノ水ニ加ヘ

食后服用セシム 〔肺結核〕

〇マルナン

〔主治〕 消化不良、

〔用量〕 〇、一—〇、一五即一氏半—二氏半

〔處方〕〇マルナン 〇、三 ペプシン 一、五 番木甙越幾斯 〇、〇三 甘草末

適宜

右爲三包每食前一包宛 〔慢性胃加答兒〕

〇フェナチエチン

〔主治〕 解熱、

〔用量〕 〇、三—〇、七即五氏—十一氏ト三分ノ二

〔處方〕〇「フェナチエチン」 〇、五 白糖 〇、三

右爲四包 每二時一包 奏効ニ至ル 〔解熱劑〕

〇コフェイン

〔主効〕 利尿 (一般ノ効用ハ本  
文ニ詳カナリ)

〔極量〕 一回 〇、二即三氏 一日 〇、六即十氏

〔處方〕〇コフェイン 一、〇 撒兒失兒酸曹達 三、〇 水 二〇〇、〇

右二日ニ分服 〔心臟病ニ水腫ヲ兼ヌル者〕

〇コトイン

〔主治〕 止瀉藥、

〔用量〕 〇、〇〇五—〇、〇〇八即十二分氏ノ一—八分氏ノ一

○テルビンヒドラート 〔主治〕 祛痰薬、

〔用量〕 〇、一—〇、三即一氏半—五氏

〔處方〕 ○テルビンヒドラート 一、〇 甘草末 適宜

右爲十九三回二九宛 〔慢性氣管枝加苔兒〕

○アセプトール 〔主治〕 防腐、

〔用量〕 十倍「アセプトール」水トシ外用ス

○「アドニスウエルナールリス」 〔主効〕 心臓強壯薬、

〔用量〕 四、〇—八、〇即一匁—二匁

〔處方〕 ○「アドニスウエルナールリス」浸 (三、〇—五、〇) 一八〇、〇

橙皮舎 二二〇、〇

右混和 毎二時 一食匙宛 〔心臟病水腫〕

○アンチピリン 〔主治〕 解熱、痲痺質斯、

〔用量〕 〇、五—三、〇即八氏—四十八氏

〔處方〕 ○アンチピリン 〇、五

○「アスピリン」 右爲一包毎二時一包 〔腸室扶斯〕

○「アスピリン」 一、〇

右「オブライト」ニテ頓服 〔半面痛〕

○「アミールンヒドラート」 〔主効〕 能睡、

〔用量〕 三、〇—五、〇即四十八氏—一匁十六氏

〔處方〕 ○「アミールンヒドラート」 七、〇 餹水 六〇、〇

○「アミールンヒドラート」 甘草越幾斯 一〇、〇

右混和 毎夜就眼前、半量ヲ服ス 〔催睡〕

○「アミールンヒドラート」 五、〇 餹水 五〇、〇

○「アミールンヒドラート」 護謨漿 二二〇、〇

○「アミールンヒドラート」 右灌腸料 〔催睡〕

○「アミールンヒドラート」 アガリチン 〔主治〕 盜汗、

〔用量〕 〇、〇—一五即四分氏一

〔處方〕○アガリチン 〇、五 柰湧兒氏散 七、五 蜀葵根 四、〇 護謨 四、〇  
右爲百九臨臥三丸宛 〔盜汗〕

○アルブチン 〔主治〕 膀胱加答兒、

〔用量〕 〇、五—一、〇即八氏—十六氏

〔處方〕○アルブチン 一、〇 白糖 適宜

右爲一包一日三回一包宛 〔膀胱加答兒〕

○ザロール 〔主治〕 防腐、解熱、

〔用量〕 一、〇—二、〇即十六氏—三十二氏

○メントール 〔主効〕 麻醉、防腐、

〔用量〕 〇、一即一氏半

〔處方〕○メントール 二、〇 白糖 護謨末 各一、〇 餽水 適宜

右爲二十九 一日數回一丸宛 〔肺結核〕

○エトキシカツフェーン 〔主治〕 偏頭痛、

〔用量〕 〇、一五即二氏半

〔處方〕○エトキシカツフェーン 〇、二五 撒兒失兒撒曹達 〇、二五 鹽酸コカ

イン 〇、一 ナリヤ水 六〇、〇 單舎 二〇、〇

右一日三回ニ分服 〔偏頭痛〕

○ヒヨスタミン 〔主治〕 瞳孔散大、麻醉ヲ要スル諸病、

〔用量〕 〇、〇〇一—〇、〇〇四即六十分氏ノ一—六十分氏ノ四

〔處方〕○ヒヨスタミン 〇、〇一 餽水 一〇、〇

右半筒臨臥皮下注射 〔盜汗〕

○沃度水素酸ヒヨスタミン 〇、〇一 白礬土 適宜

右爲二十九毎夕一丸宛 〔盜汗〕

○沃度水素酸ヒヨスタミン 〇、〇一 餽水 五、〇

右點眼料一回一滴 〔虹彩炎〕

○沃度水素酸ヒヨスタミン 〇、一 餽水 二〇、〇

右臨臥二筒皮下注射 〔癲狂、不眠〕

○ヒプロン 〔主治〕 神經性不眠、

〔用量〕〇、〇五—〇、一五即一匁—二匁半

〔處方〕〇ヒアノン 一滴 亞爾簡兒 一、〇 橙皮舍利別 六、〇

右頓服 〔神經性不眠〕

〇ヒノリン

〔用量〕〇、五即八匁

〔處方〕〇純ヒノリン 五、〇 餛水 五〇、〇 亞爾簡兒 五〇、〇

右塗布料 〔實布埤利亞〕

〔主治〕 解熱、實布埤利亞、疫咳、

〇ビスチジャ、エリトリナ

〔用量〕 〇、三—〇、五即五匁—八匁

〔處方〕〇ビスチジャ、エリトリナ皮末 四、〇—六、〇

右爲八包一日四包 〔肺勞鎮咳〕

〔主治〕 興奮性精神病、偏頭痛、鎮咳、

〇ピクロトキシシ

〔用量〕 一日 〇、〇〇八—〇、〇一即六分匁—一分六分匁—

〇ピリジン

〔主治〕 喘息、

〔處方〕〇ピリジン四、〇—五、〇ヲ布片ニ浸シ一日三回二十乃至三十分時間嗅入

〔喘息〕

〇「ストロファンツス」丁幾

〔用量〕 四滴乃至十滴 〔一日二回乃至四回〕

〔主効〕 心臟強壯藥、

〔處方〕〇「ストロファンツス」丁幾 一〇、〇

右一日三回 五滴乃至十滴 〔心病ノ呼吸困難、心臟衰弱〕

〇實菱荅利斯浸 (一、五) 一五〇、〇 「ストロファンツス」丁幾 三、〇

醋酸加里 單含 各二〇、〇

右混和 每三時 一食匙 〔心臟辨膜病〕

〇「スルフオナール」

〔主効〕 催眠、

〔用量〕 一、〇—四、〇即十六匁—四十八匁

〔處方〕〇「スルフオナール」 二、〇

右爲一包 頓服 〔催眠劑〕



新藥極量表 (「フイシエル」氏 新藥書ニ由ル)

藥名	一回量	一日量
過「オスミユム」酸	〇、〇一五	〇、〇五
「アガリチン」	〇、〇一五	〇、〇五
「アミーレン、ヒドラート」	四、〇	八、〇
「カンナピノン」	一、〇	三、〇
「アソナブエリン」	一、〇	二、〇
「アソナブエリン」	一、〇	三、〇
鹽酸「コカイン」	〇、一	〇、三
「グアヤコール」	〇、一	〇、五
「ハマーシユ」	〇、一	〇、三
石炭酸水銀	〇、〇三	〇、一
蛋白化水銀	〇、〇三	〇、一

撒兒失兒酸水銀

「ヒドロヒノン」	〇、〇三	〇、一
「ヒアノン」	〇、八	一、五
「ヨドール」	〇、五	一、五
「オスミユム」酸加里	〇、二	一、〇
「カイリン」	〇、〇一五	〇、〇五
「メチラール」	一、〇	四、〇
「レツルチン」	四、〇	八、〇
「レツルチン」	三、〇	一〇、〇
硫酸「スバルテイン」	〇、〇三	〇、一
「スルフオナール」	四、〇	八、〇
硫酸「タルリン」	〇、五	一、五
酒石酸「タルリン」	〇、五	一、五

以上 (但本籍ニ記載セサル藥名アリ之ヲ諒セヨ)

### 第六章

#### ○眼科用藥液

此篇ハ纂者カ大學醫院ニ於テ學習セル日常同醫院眼科部ニ於テ供用ナル分量ヲ示ス者ナリ

#### 第一 塗布藥

茲ニ屬スル諸藥ハ收斂腐蝕ノ目的ヲ以テ毎日或ハ隔日一回眼瞼ヲ反轉シ其結膜及ヒ結膜囊ニ塗布シ水ヲ以テ直ニ洗滌ヲ要スル者及ヒ同上ノ目的ヲ以テ日々醫家ニ來リ診察ヲ乞フクハサル者ニ自宅點眼料トシテ與フル者ナリ

○書中%即チ「プロセント」トハ百分中ノ含有量ヲ示ス者ナリ例令ハ%トハ百瓦中一瓦ヲ含有スル者即チ百倍ニシテ0.5%トハ百瓦中半瓦ヲ含有スル者即チ二百倍ナルヲ示スカ如シ

○純硫酸銅棒

○硫酸銅水

○硫酸銅水

○硫酸銅水

○硫酸銅水

○硫酸銅水

○硫酸銅水 (自宅點眼料)

[處方] 12% 硫酸銅水

硫酸銅  
縮水  
屈利設林

一五二〇〇〇

○鉛糖水

○鉛糖水 (自宅點眼料)

[處方] 3% 鉛糖水

鉛糖  
縮水

一〇〇〇〇

○硝石加硝酸銀棒

○硝酸銀水

○硝酸銀水

○硝酸銀水

○硝酸銀水 (自宅點眼料)

〔處方〕<sup>0.5%</sup> 硝酸銀水

硝酸銀 一〇〇〇、五  
（注意シ黒色ノ瓶ニ貯フヘシ）

○ 2.0% 皓礬水

○ 1.0% 皓礬水

○ 0.5% 皓礬水

○ 0.2% 皓礬水

（自宅點眼料）〔此點眼料中、縮水ニ代ユルニ茴香水ヲ以テスルヲアリ即チ皓礬茴香水是ナリ〕

〔處方〕<sup>1.0%</sup> 皓礬水

皓礬 一〇〇、〇〇  
縮水

第二 點眼藥

茲章ニ屬スル諸藥ノ分量及ヒ點眼ノ度數ハ各病ニ由リ異ナルヲ以テ概言シ難シト雖  
ヒ點眼間ノ時ハ大抵五分乃至十分時ヲ隔テ用ユルヲ常トス〔但シ入院患者ノ點眼  
膜囊内ニ一滴ヲ點シ淚囊部ヲ示指頭ニテ暫時壓迫シ淚點ヨリ鼻淚管中ニ移流シ其ノ  
中毒症ヲ發スルヲ豫防スヘシ〕  
凡テ點眼藥ハ腐敗シ易ク若シ腐敗シタル點眼藥ヲ用ユレハ直ニ結膜炎ヲ發スルニ由

リ防腐ノ爲メ古來、石炭酸「サルチール」酸硼酸等ヲ加ヘタリト雖モ石炭酸ハ刺戟強  
キ故ニ當今專ラ百倍硼酸水ヲ使用ス其他五千倍昇汞水ヲ經驗スルニ刺戟少ナク腐敗  
セサルヲ敢テ硼酸ニ讓ラサルカ如シト云フ

○ 右ノ點眼藥ハ瞳孔散大及ヒ刺戟ヲ去ル爲メニ要スル者ナリ

○ 2.0% 亞篤魯比涅水

○ 1.0% 亞篤魯比涅水

○ 0.5% 亞篤魯比涅水

○ 0.2% 亞篤魯比涅水（自宅點眼料）

〔處方〕<sup>1.0%</sup> 亞篤魯比涅水

硫酸亞篤魯比涅 一〇〇、〇〇  
硼酸 縮水

○ 5.0% コカイン水

○ 4.0% コカイン水

○ 2.0% コカイン水

○ 1.0% コカイン水（自宅點眼料）

○0.5% コカイン水 (自宅點眼料)

[處方] 2% コカイン水 鹽酸コカイン 一〇〇、〇〇

○1% 鹽酸謨兒比涅水

[處方] 1% 鹽酸謨兒比涅水 鹽酸謨兒比涅 一〇〇、〇〇

○1% シュポイシューチ水

○0.5% シュポイシューチ水

[處方] 0.5% シュポイ、シューチ水 硫酸シュポイシューチ 一〇〇、〇五

○左ノ點眼藥ハ瞳孔收縮及ヒ眼球内壓ヲ減スル爲メニ要スル者ナリ

○1% エゼリン水

○0.5% エゼリン水

[處方] 1% エゼリン水 硫酸エゼリン 一〇〇、〇〇

○2.0% ピロカルピン水

○1% ピロカルピン水

○0.5% ピロカルピン水 (自宅點眼料)

[處方] 1% ピロカルピン水 鹽酸ピロカルピン 一〇〇、〇〇

○左ノ點眼藥ハ防腐ノ爲メニ要スル者ナリ

○[處方] 2% 硼酸水 硼酸 一〇〇、〇〇

○[處方] 0.02% 昇汞水 昇汞 一〇〇、〇〇

○[處方] 格魯兒水 攝氏十度ノ水ハ自容三倍ノ格魯兒瓦斯ヲ吸收ス之レヲ格魯兒水ト名ク用ニ望ミ製シ注意シ黑色ノ瓶ニ貯フヘシ

○[處方] 2% 規尼涅水 鹽酸規尼涅 一〇〇、〇〇

### 第三 洗眼罨法藥

洗眼及ヒ罨法スル目的ハ清潔即チ防腐、收斂、吸收ニアリ其洗眼料ニハ一日三乃至四〇〇、〇チ與ヘ數回行ハシメ罨法料トシテハ一日一五〇、〇乃至二〇〇、〇チ與ヘ晒木綿(糊ヲ除去シ十分清潔ナル小片トナス者)ニ浸シ五六回施サシム而ノ其一回中三四分時毎ニ布片ヲ藥液

ニ浸シ交換スルヲ要ス但シ藥液ハ冷ナル儘ニ於テシ或ハ氷片ヲ加ヘ或ハ微温トナシ  
罨法セシム所謂冷罨法、寒罨法、微温罨法ト稱スル者之レナリ

○左ニ記スルハ洗眼及ヒ罨法料トシテ用ユル者ナリ

○五十倍硼酸水

○百倍硼酸水

○五千倍昇汞水

○左ニ記スルハ單ニ罨法料ノミニ供スル者ニシテ前ニ記セル罨法藥ニ比ス  
レハ刺戟強キ故ニ輕ク眼瞼ヲ閉塞シ眼内ニ入ラザル様注意スヘシ又タ硝  
酸銀ヲ罨法スルトキ光線ニ觸レハ還元シテ黑色ノ斑ヲ殘ス故ニ處女等ニ  
用ユルニハ宜シク注意スヘシ

○百倍鉛醋水

○二千倍硝酸銀水

○千倍硝酸銀水

第七篇

○外科的防腐藥液

第一 二十倍石炭酸水

第二 五十倍石炭酸水

第三 百倍石炭酸水

本品ヲ溶解スルニハ通常、屈利設林、亞爾箇兒ヲ以テテスト雖モ尤モ簡ニシテ廉  
ナル法ハ一磅ノ結晶石炭酸中ニ冷水四〇、〇乃至五〇、〇ヲ加ヘ一日間放置ス  
ルニアリ然ルトキハ結晶體變シ流動體トナル此ノ流動體ヨリハ適宜ノ比例ニ  
於テ溶解シ得ルナリ

第四 十倍格魯兒亞鉛水

本品ハ冷水ニ容易ク溶解ス

第五 五百倍昇汞水

第六 千倍乃至五千倍昇汞水

本品ハ冷水ニ溶解シ難ク熱湯ニ溶解シ易シ即チ冷水十八分熱湯三分ニ溶解ス  
第七 三百倍「サリチール」酸水

本品ハ冷水ニ溶解シ難ク熱湯ニ溶解シ易シ即チ冷水五百四十分ニ溶解ス  
第八 五十倍硼酸水

本品ハ冷水ニ溶解シ難ク熱湯ニ溶解シ易シ即チ熱湯ニハ百分ニ三十分ノ比例  
チ以テ溶解ス

第九 千倍「チモール」水

本品ハ殆ド水ニ溶解セズ亞爾簡兒、依的兒、噶囉仿謨及氷醋酸ニハ極テ容易ク  
溶解ス

〔處方〕 「チモール」 一、〇 亞爾簡兒 一〇、〇 屈利設林 二〇、〇  
水 一〇〇〇、〇

第十 百倍薄荷水

第十一 五百倍薄荷水

薄荷油ハ水ニ溶解セスト雖モ酒精ニハ隨意ノ比例ニ於テ溶解ス

〔處方〕 薄荷油一〇、〇 亞爾簡兒一〇〇、〇ニ溶解シ其溶液一、〇ニ温水五〇、〇チ  
加フベシ

第八篇

○外科的防腐繃帶品

第一 精製綿即チ脫脂綿

此法ハ日本藥局方本條ニ詳カナルチ以テ茲ニ略ス又脫脂「ガーゼ」モ同シク略ス宜シ  
ク其條下チ參考スベシ

第二 沃度叻「ガーゼ」

○沃度叻 五〇、〇 依的兒 二五〇、〇 酒精 七五〇、〇  
右ノ液ニ脫脂「ガーゼ」チ浸シ室内ニ於テ乾燥スベシ (5%)

第三 昇汞「ガーゼ」

○昇汞 一、〇 屈利設林 五〇、〇 酒精 一〇〇、〇 蒸餾水 一五〇、〇  
(1/3%)

○昇汞 一、〇 屈利設林 五、〇 蒸餾水 一九〇、〇 (1/2%)

○昇汞 七、五 屈利設林 五〇、〇 酒精 一〇〇〇、〇 蒸餾水 一五〇〇、〇  
(1/4%)

○昇汞 三、〇 屈利斯林 一五〇、〇 食鹽 一〇〇、〇 蒸溜水 五〇〇、〇  
酒精 五〇〇、〇 (1/4%)

右液ニ脱脂「ガーゼ」ヲ浸シ室内ニ於テ乾燥スベシ

第四 石炭酸「ガーゼ」

○石炭酸 一〇〇、〇 細末「コロホニユム」 四〇〇、〇 屈利斯林 一四〇、〇  
酒精 二〇〇、〇

右液ニ脱脂「ガーゼ」ヲ浸スベシ

第五 撒爾矢兒酸綿

○撒酸 二、五 酒精 屈利斯林 各一〇〇、〇 (一、二五%)  
○撒酸 五〇、〇 酒精 四〇〇、〇 「リチチ」油 二〇、〇 (一%強)

右撒酸ヲ酒精ニ溶解シ之レニ屈利斯林或ハ「リチチ」油ヲ加ヘ攪拌シテ溶解セシメ此全液ヲ乾燥脱脂綿ニ吸收セシム此綿ヲシテ液ノ普ク浸潤シ易キ様綿ヲ層々投シ每層液ヲ散布シ少壓ヲ加ヘ全液ヲ注キ終リテ上下層ノ位置ヲ移轉シ每轉少壓シテ平ニ蘸潤シテ陰所ニ乾燥シ貯フベシ其他ノ綿製法之レニ倣フ

第六 安息酸綿

前法中撒酸ニ代フルニ安息酸ヲ以テスルノミ

第七 昇汞綿

昇汞 七、五 酒精 一〇〇、〇 蒸溜水 一五〇〇、〇 (1/2%弱)

第八 沃度仿謨綿

沃度仿謨 五〇、〇 依的兒 二五〇、〇 酒精 一〇〇〇、〇 (四%)

第九 硼酸綿

硼酸 一〇、〇 沸騰水 二八〇、〇 屈利斯林 二〇、〇 (十%)

第十 硼酸「リント」

硼酸綿ヲ製スル分量ヲ以テ脱脂「リント」ニ浸潤シ陰乾スベシ

第十一 外科用油紙

外科用護謨紙ハ高價ナルヲ以テ代用トシテ油紙ヲ使用ス其製法左ノ如シ  
石炭酸一、〇 亞麻仁油二〇、〇ヲ混和シ文火ニ煖メ流動スルニ至ラシメ之レヲ薄葉紙ニ塗布シ一週間以上室内ニ於テ乾燥スベシ

第十二 濕性繃帶品

石炭酸濕性「ガーゼ」ヲ製スルニハ通常ノ「ガーゼ」ヲ取り適度ノ大サニ切り能ク洗ヒ二十倍ノ石炭酸水ニ四日間以上貯フベシ又昇汞濕性「ガーゼ」ヲ製スルハ石炭酸ニ代フルニ千倍昇汞水ヲ以テスルノ差アルノミ

第九章

○哥囉仿謨麻醉法

外科家ノ手術ヲ行フヤ猶ホ航海家ノ舟ヲ行ルカ如シ舟ニ機關師、運轉師等アリテ各其技ヲ待ツテ首メテ萬里ノ怒濤ヲ凌キテ以テ目的ノ地ニ達スルナリ外科手術ニ於ケルモ亦然リトス執刀者、介者等アリテ各其心ヲ一ニシ首メテ施術ノ妙技ヲ顯スニ至ル執刀者ニ次テ訓練ヲ要スル者ハ患者ニ哥囉仿謨ヲ嗅入セシムル介者ナリ「ドクトルスクリバ」氏曰ク哥囉仿謨ヲ嗅入セシムルノ技ハ最モ難事ニシテ有名ナル大家ノ助手ト雖モ麻酔過度ニ至リテ救助ノ策ヲ施スヲ鮮カラス又ク英佛ノ諸國ニ在リテハ哥囉仿謨家ト稱シテ終身、哥囉仿謨嗅入法ニ從事シテ大手術有ル毎ニ其場ニ登用セラレテ麻酔ノ一方ノミヲ司トル者アリト何故ニ哥囉仿謨ノ嗅入法ハ此ノ如ク難事ナ

ルゾト云フニ麻酔各期ニ於テ各種ノ危險ヲ呈シテ其救急ニ暫ラクモ猶豫スヘカラス麻酔過不及ノ適度ハ實ニ只一瞬時ニシテ若シ此度ニ過クルトキハ患者危險ニ陥リ此度ニ達セサル片ハ執刀者ハ其技術ヲ施ス能ハス又此適度ニ達スル遲速ハ各人ニ於テ各異ナルヲ以テ一轍ニ用フルヲ克ハス尙ホ其他ノ困難ハ擧テ數フ可カラサルナリ

○今本論ニ先テ麻酔法ヲ施スヘキ適機ヲ解説スヘシ  
麻酔法ハ一千八百四十六年「ボストン」府ノ「モルトン」氏創メテ依的兒ヲ以テ此法ヲ行ヒ次テ一千八百四十八年英國「エヂンボルク」ノ「シンプソン」氏同一ノ目的ヲ以テ哥囉仿謨ヲ用ヒテヨリ外科社會ニ於テ無上ノ幸ヲ得ルニ至レリ

○外科手術ニ麻酔法ヲ施スハ患者ヲ知覺不仁ト爲シ疼痛ヲ自覺スルヲ克ハサシメ施行ニ當テ動躁ヲ防クカ爲メナリ故ニ哥囉仿謨ノ麻酔ニ在テハ知覺及ヒ運動ノ二種ニ區別ス故ニ奏刀手術ニ非ラサル者ニシテ特リ筋ノ攣縮ヲ緩解スルノ目的（脱臼還納法、折骨端正復法、箱頓脱腸還納法）ニ在テモ哥囉仿謨ヲ使用スル片ハ施術容易ニシテ能ク効ヲ奏スル者ナリ其他診察的ニ在テモ亦要用ナル者ニ筋ノ隨意的攣縮ヲ緩解シテ強直ノ眞偽ヲ鑑別シ又括約筋内ノ觸診等ノ目的ヲ達セシメ又裁判上ニ在テ



詐病ノ真偽ヲ断定スルコ欠ク可カラサル者ナリ  
 ○嘔嘯仿麻酔ヲ吸入セシムル患者ニハ其前日下劑及ヒ灌腸ヲ命シテ能ク腸胃ヲ掃淨シ  
 飲食ヲ禁戒スヘシ然ラサレハ麻酔ノ際ニ嘔吐ヲ催シ又興奮期延長ノ充分ナル麻酔ヲ  
 呈スルコト克ハサルニ至ル恐レアリ吸入法ヲ施スノ際ニ在テハ一介者ヲシテ絶ヘス脈  
 候ニ注意セシメ患者ヲシテ大聲ニ數ヘシムヘシ然ルトキハ呼吸緩急克ク整フテ麻酔  
 ニ至ルノ度ヲ認知スルノ便アリ即チ患者ハ數ヘテ五十乃至一百ニ至ルトキハ數系レ  
 テ以前ノ數ヲ反復シ又一息ニシテ千位ニ昇リ其狀種々ニシテ筆盡スヘカラス是レ即  
 チ興奮期ノ初メニシテ是ヨリ患者ハ暴躁ヲ爲シ手足ヲ運動シ或ハ吸入法ヲ避ケント  
 欲シ手術臺ヲ降ルノ狀ヲ呈シ或ハ手ヲ以テ吸入器ヲ握リ或ハ喃々自己ノ意思ヲ訴ヘ  
 或ハ笑ヒ或ハ泣キ其狀實ニ千種萬態記載スルコ堪ヘス此期ニ至レハ患者ノ呼吸ハ不  
 整ニシテ脈搏頻數ナリ且ツ患者ハ嘔嘯仿麻酔ノ吸入ヲ嫌忌シテ呼吸停止スルコアリ其  
 他患者ノ面色紅チ潮ス此期ニ生スル危險症ハ第一嘔吐ニシテ（此症ハ麻酔ノ初期ニ  
 發シ又末期ニ已ニ醒覺セシメントスルモ亦發スル者ニシテ甚シキモハ手術後二三  
 日間連綿持續ス此場合ニ於テハ氷片ヲ喫セシメ或ハ稀酸「セリウム」次硝酸蒼鉛等ヲ

與フ）此際患者ノ脈候不整トナリ嘔吐運動ヲナスヲ以テ知ルヘシ故ニ速ニ患者ノ頭  
 チ舉上シ同時ニ側方ニ廻轉セシムルモハ吐物ヲ口外ニ吐出スルヲ得ルナリ然ラサレ  
 ハ患者ハ吐物ヲ錯喉シテ窒息ニ陥ルノ患ヒアリテ氣管切開ニ托スニ非スハ之ヲ救  
 急スル能ハサルニ至ル

○此期ニ至リテ尙危險ナル症狀ハ即チ此期ノ最高度ニ在テ發スル窒息ニシテ患者ハ  
 咀嚼筋ニ攣急ヲ生シ呼吸停止シ面色帶青赤色トナル而シテ此原因ニ二アリ（一）ハ咽  
 頭ノ後壁ニ向テ牽引シ會厭軟骨ノ上部ニ占居シテ空氣ノ喉頭ニ竄入スルヲ妨クルニ  
 由ル者（二）ハ咀嚼筋攣急ト共ニ同時ニ會厭軟骨喉頭ノ上口ヲ壅塞スルニ由ルナラン  
 此際ニ在テ舌果シテ後方ニ牽引シタルヲ認ムルモハ直ニ之ヲ前方ヘ牽出スヘシ之レ  
 ニ要スル器ハ越斯麻兒屈氏カ特リ此目的ノ爲メニ創製セシ舌鉗子ナリ之レ通常ノ鉗  
 子ニシテ唯其兩脚ノ前端扁平ナル者ナリ若シ之レヲ欠クトキハ通常ノ麥粒鉗子ヲ用  
 ヲルモ亦佳ナリ然リト雖モ咀嚼筋攣急スルヲ以テ其口ヲ排開スルニ甚タ困難ナルヲ  
 以テ左ノ一定法ヲ行フヘシ先ツ示指ヲ前口腔内ニ入レ齒列ニ沿テ後方ニ至リ最后ノ  
 犬齒ニ達シ指尖ヲ上下顎骨ノ裂隙ニ挿入シテ下顎骨ヲ下方ヘ壓押ス茲ニ於テ示指ヲ

口腔ノ深部ニ達セシメ會厭軟骨ノ部ニ至リテ指尖ヲ彎屈シテ鈎狀トナシ舌根ヲ外方  
 へ向テ壓スヘシ然ルトキハ舌體ノ前方ニ延出スルト同時ニ會厭軟骨ノ部ヲ刺戟スル  
 ノ便アルヲ以テ患者ハ直ニ深息ヲ試ムルナリ又一法ハ多ク英國ニ於テ行ハル、者ニ  
 シテ其式ハ先ツ兩側ノ示指ヲ鈎狀トナシ兩側ノ下顎骨上行枝ノ部ヲ外方ヨリ按シテ  
 下顎骨ヲ前方ニ壓ス且ツ是レニ由テ下顎骨ノ切齒上顎ノ者ヨリモ尙前方ニ在ラシム  
 ルヘシ然ルキハ顎骨舌筋ノ前附着部ヲ前方ニ牽引スルヲ以テ舌ハ此ノ作用ニ由テ前  
 方ニ延出スルナリ此法ハ單簡ニ能ク目的ヲ達スル者ト雖モ唯其ノ瑕瑾トスル處ハ  
 前記ニ所謂呼吸ヲ促進スル所ノ刺戟ノ欠損ナリ「スクリヤ」氏ノ平常使用スルノ法ハ  
 最モ單簡ニシテ且ツ充分ナル目的ヲ達スルヲ得ル者ナリ其法ハ「ハイステル」氏ノ開  
 口器ヲ上下ノ犬齒併列部ノ裂隙ニ狹クテ口ヲ充分ニ開カシメ次テ越斯麻兒屈氏ノ鉗  
 子ヲ用ヒテ舌ヲ前方ニ延出シテ猶有柄海綿ヲ以テ會厭部ヲ刺戟スルコアルナリ  
 ○酒客ハ通常麻酔スルヲ難ク殊ニ興奮期ニ在テ其暴躁最モ甚ク且ツ危險ナル窒  
 息ヲ發起スルヲ多シ故ニ此ノ如キ患者ヲ充分ニ麻酔セシムルニハ謨兒比涅ノ皮下注  
 射ヲ同時ニ施行スヘシ此法ハ宇的兒巴兒杜氏カ創メテ行ヒシ者ニシテ同氏ハ酒客ト

否トナ問ハスシテ必ス併用シタリト云フ

○此ノ期ヲ過クルキハ患者ノ呼吸機愈々深息トナリ面色常ノ如ク四肢ノ運動モ亦停  
 止ス之レ即チ麻酔期ノ至ルノ徵ニシテ體温少シク下降シ脈搏、弱ニシテ瞳孔散大ス  
 興奮期、強劇ナルキハ此期ニ至リテ大ニ脱衰シテ速カニ危險ニ陥ルノ患ヒアリ又此  
 際口蓋弓ハ弛緩シテ吸息ノ時ニ當リ鼾聲ヲ聞ク故ニ嗅入法ヲ司ルノ際ニ在テ鼾聲ヲ  
 發スルキハ即チ麻酔期ニ達シタルヲ知ルヘシ反射的ノ興奮モ亦全ク消退シ殊ニ下肢  
 ニ初マリ漸々上進シ三叉神經ノ分布シタル部分最モ遲シ故ニ下肢ノ切斷ハ斜視眼手  
 術ニ比スルキハ尙ホ早ク行フコトヲ得ルナリ此理ニ由リ時々結膜ヲ觸診シテ其全ク  
 麻酔シタルヲ以テ麻酔期ニ至ルノ標準トナスヘシ此法ハ實ニ單簡ナルニモ拘ラス極  
 テ緊要ナル事件ニシテ介者タル者ハ銘シテ怠ルヘカラス若シ等閑ニ看過スルキハ直  
 ニ心臟ニ麻痺ヲ起シテ無上ノ危險症ニ陥リ悔ルモ亦詮ナカルヘシ心臟ノ筋質及ヒ呼  
 吸運動ヲ營爲スル筋質及ヒ平滑筋ハ麻酔期ニ至ルモ長ク自己ノ運動ヲ營爲スル者ニ  
 シテ殊ニ平滑筋ハ麻酔スルヲ僅微ナリ故ニ子宮ノ收縮及ヒ蠕動等ハ麻酔期ニ至ルモ  
 尙存在ス然リ而シテ蠕動機ハ血行遲滯スルキハ反テ亢進スル者ナリ心臟及ヒ呼吸器

筋ノ運動ハ通常ノ麻醉期ニ至テハ靜止セスシテ只少ク微弱ナルヲ覺ユ故ニ血行モ共ニ微弱トナルヲ以テ此期ニ手術スルキハ出血スルヲモ從テ少ナシトス手術及ヒ診察等ハ此期ヲ待ツテ初メテ施行スル者ニシテ此期ニ先ツ可カラス又此期ニ後ルヘカラヌ又手術久時ヲ要シ患者ノ醒覺スルノ狀ヲ認ムルキハ直ニ嗅入法ヲ行フヘシ

○此麻醉期ニ生スル危險ハ危險中ノ最大ナル者ニシテ心臓速ニ麻醉シテ一張一縮ノ機能ヲ失スルニ至ル者ナリ故ニ嘔囉仿謨ハ心臓ヲ害スル一種ノ毒物ト云フモ亦タ可ナリ其原因ハ恐クハ腦及ヒ延髓ニ在ル心臓運動中樞ヲ侵スニ由ル者ナラン此心臓靜止ハ前驅症ヲ呈セスノ劇カニ發シ瞬時ニノ脈搏及呼吸停止シ就中興奮期ニ發スル呼吸停止トハ面色ノ變更ニ由リテ區別シ得ルモノニシテハ顔面帶青赤色ヲ呈スレトモ甲ニ在テハ蒼白色ニシテ恰モ死體ノ顔面ニ異ナラス之レヲ救助スルニハ神經中樞ニ血液ヲ輸送スルニ非サレハ克ハス其法ハ先ツ患者ノ頭ヲ低下シ下肢ヲ舉上スルニ在ルナリ然ルキハ面色紅チ潮シ心臓及ヒ呼吸ノ運動等モ亦再ヒ舊ニ復ス可シ故ニ嘔囉仿謨嗅入ノ際ニハ必ス頭部ヲ少ク低クナシテ腦内ニ貧血ヲ呈セサル様、豫メ注意セサル可ラヌ又坐位ニ在テ手術ヲ施スモノハ此限リニ非ラサルヘシ心臓麻痺ヲ催進

ス可キ諸因アリ而シテ其最モ恐ル可キ者ハ患者ノ恐怖ニシテ之レカ爲メニ心臓ノ力ヲ減殺スルヲ鮮カラス由テ婦人若クハ怯感アル者ニハ尙ホ一層ノ注意ヲ要スヘシ解剖的變化假令ハ心臟辨膜病、慢性亞爾爾兒中毒等ニ由テハ危險ナル麻醉ヲ喚起ス可キ血行異狀ヲ呈スルヲ甚タ稀ナリ肺臟ニ疾患アル者ハ極テ危險ナリトス蓋シ其歸スル處ハ呼吸不利ニ非スノ血行ノ異狀ナランカ而シテ此等ノ症候必スシモ嘔囉仿謨ヲ嫌忌スヘキ適症ニアラス只麻醉ノ極端ニ達スルヲ慮ルノミ小兒ノ嘔囉仿謨ハ危險症ヲ喚起スルヲ稀ナリ如何トナレハ小兒ノ心臓ハ其運營力比較的ニ強大ナレハナリ然レモ吾人カ小兒ニ嘔囉仿謨ヲ嗅入セシムルキニ當テ殊更ニ注意スヘキヲアリ何ソヤ曰ク小兒啼泣スルキハ吸息深クノ一時ニ多量ノ嘔囉仿謨ヲ吸入スルカ故ニ危險ヲ呈スルヲアル者之ナリ又負傷者ニ在テハ震盪症及ヒ其他ノ腦症ヲ呈スル疑ヒアルキハ嗅入ヲ禁スヘシ

(救急法)此法ハ人工呼吸ニ由テ再ヒ呼吸運動ヲ喚起スルカ或ハ直ニ心臓ノ跳動ヲ促進スルノ目的ニ出ル者ナリ

人工呼吸ハ左ノ諸般ノ法ニ由テ施行シ得ル者ナリ

〔一〕横膈膜神經ノ電氣的刺戟ニ一極端ヲ頸部ノ下方ニアル胸鎖乳頭筋ノ外緣部ニ附シ横膈膜神經ヲ刺戟シ他ノ一極端ハ下肋骨ノ直下ニ附シテ横膈膜ヲ壓スルノ作用ヲナス然レトモ此法ハ効驗ヲ顯スヲ著シカラス

〔二〕ハ氣管截開ニシテ該手術ノ彈力性「カテーテル」ヲ氣管ニ送入シ肺臟ニ向テ空氣ヲ輸送シ呼吸ノ際ニ在テ下肋骨ノ部分ヲ壓スヘシ

〔三〕ハ通常ノ人工呼吸法ニシテ諸他ノ假死ニ在テ執行スル者ナリ

(詳細ハ后條ノ人工呼吸法ノ篇ヲ參觀スヘシ)

〔四〕化學的及ヒ器械的ノ刺戟ニ呼吸機ヲ反射的ニ促進スル知覺神經ノ刺戟ヲ云フナリ筆ヲ以テ鼻腔ヲ摩擦シ暗母尼亞ヲ鼻下ニ附スル等之レニ屬ス其他窓戶等ヲ開放ノ新鮮ノ空氣ヲ流通セシムルハ最モ要用ノコト此ノ救急法ノ第一着ニナス可キナリ

以上ノ諸法中ニ在テ第二法ヲ以テ最モ可トス若シ此際血液吐物或ハ急劇ニ來ル處ノ肺水腫等ニ依テ氣管枝ニ異物ヲ含蓄スルキハ送入シタル「カテーテル」ヲ以テ之ヲ吸盡シ然シテ后キ空氣ヲ送入スヘシ此法ト雖モ嘔囉仿謨中毒ノ適法トナス可ラス如何

トナレハ嘔囉仿謨ハ主トシテ心臟ヲ麻醉シテ呼吸運動停止ハ其ノ傍發症ナレハナリ心臟ヲ刺戟スルハ他ナシ前ニ所謂多量ノ血液ヲ神經中樞ニ向テ輸送スルノ法ナリ若シ此法効ナキキハ心臟ニ電氣針刺ヲ施スヘシ此法ハ心臟左右ノ兩室ニ各一針ヲ刺シテ之レニ電氣ヲ通スルナリ此法ハ執行尙ホ稀ナルカ故ニ其顯著ヲ斷言スルコト克ハス其他胸隔ヲ打撃スル等ノ法モ又心ノ跳動ヲ促進スルニ足ルモノナリ

〔附言〕「コロホルム」ヲ用ヒ麻醉セシムル分量ハ各人異ナリト雖モ平均ニ〇、〇以下ナリ然レトモ充分ノ麻醉ヲ取ルニハ一〇〇、〇ヲ備フヘシ又副効ヲ恐レ或ル人ハ依的兒或ル人ハ亞爾簡兒ヲ加ヘ用ユ即チ「リンハルト」氏ハ嘔囉仿謨三分亞爾簡兒一分ノ者ヲ用ヒ「スノウ」氏ハ依的兒、嘔囉仿謨等分ノ者ヲ用ヒ醫科大學外科教師「ドクトル、スクリヤ」氏順天堂醫院長「ドクトル」佐藤進氏醫科大學外科教授宇野朗氏ハ純品ヲ用ヒ陸軍々醫監石黒忠惠氏ハ嘔囉仿謨、依的兒等分ノ者ヲ良トセリ

〔纂者識〕

○此篇ハ醫科大學外科學教師「ドクトル、スクリヤ」氏ノ講述ヲ醫學士戶塚卷藏氏ノ筆録シタル者ナリ

## 第十章

## ○電氣兼磁石治法 (Die electrisch-magnetische Heilmethode.)

此世紀ノ中頃以來「ドヘンチ」、「レマツク」、「ブレンチル」氏等ハ學問上ニ基キ電氣磁石性ヲ實地治療上ニ應用シタリ電氣ハ往時、電氣器ニ由テ使用セシモ爾後、等間ニ附シ來リシカー一二年來、再ヒ「シャルコー」、「オイレンブルグ」、「スタイン」氏ハ「ホルツ」氏感磁器ヲ以テ使用スルコ至レリ「電流ハ則チ交互並列シ交互金屬線ニ由テ結合セル「エレメント」ヨリ成レル電源ニ由テ發起セシム其「エレメント」ハ種々ノ金屬及液體ヨリ構成セラレ各異ノ電氣發動力ヲ具フ者トス則チ「グローヴェ」氏、「ダニール」氏、「アンゼン」氏「シューメンズ」氏「レ、ランヘ」氏ノ「エレメント」ハ最著明ナル者ナリ電源ヲ製造スルコハ理學上ノ學識アル器械家ニヨリ已ニ卓越ナル數人ヲ掲クレバ「ヒルシユマン」、「ステーレル」、「スパーメル」、「ライニーゲル」氏トス「ガルハニ」氏平流電氣ハ「ファラデー」氏感傳電氣ヨリ區別スヘキ者ニ平流電氣ハ感傳電氣ヨリモ屢應用スル者ナリ銅線ニ由テ最初ノ「エレメント」ト最終ノ者ト結合スルキハ流通ヲ閉鎖セル者トス人身體ニ電氣ヲ輸入スルニハ電氣導子、金屬板、小球子、刷導子、亦硬化セ

ル炭末ヲ要スル者ニノ金屬線ヨリ製シ「グツタペルカ」ヲ以テ被包セル紐繩、金屬鉗或ハ針條ニ由テ「エレメント」ト連結スベシ木柄ヲ具フル電氣導子ヲ用ユルニハ乾燥セル皮膚ハ抗抵アルヲ以テ強流ヲ通スルカ爲メ食鹽水中ニ浸シ導子ヲ濕潤スベシ銅板ハ積極ヲ呈シ亞鉛極ハ消極ヲ現ハス者ニノ強流ヲ身體ニ輸入ス而シテ開時及閉時ノ搖動并ニ上行流及下行流トチ區別シ以テ銅極即積極ヲ上方、項部ニ貼シ亞鉛極即消極ヲ腰部ニ貼スル流通ヲ下行流ト云ヒ覆テ之ヲ行フキハ上行流ト名クル者ナリ「此流通ハ「エレメント」強度ヲ乘算セル數ヲ導達抗抵ニ由テ除算シ「ミリアマペルス」ニ由テ定算スルナリ流通ヲ出入セシムル部分ニ於テハ電氣性ハ大ニ濃度ヲ存スル者ニノ病部ニ強ク電氣ヲ通セント欲スルキハ濕潤セル海綿ヲ具フル消極ヲ以テ病患部ニ接着シ他極ハ刺戟少キ部ニ貼スベシ「チームセン」氏ノ報セルカ如ク流通ノ進入ニ向テ感受スル部位ハ皮表面ニ多ク神經ノ存スルノ部分ナリ流通ハ固定ナルベキ者ニノ電氣導子ヲ以テ堅ク壓迫シ患部ニ於テ之ヲ久時、接着スルカ或ハ諸方ニ轉接シツ、靜ニ電氣導子ヲ皮表面上ニ轉動スルニ在リ

此裝置ヲ製スルニ或ハ運搬的裝置トナシ或ハ固定裝置トナス裝置ヲ保持スルヲ清淨

ナルニ從テ益々久シク流通ヲ應用スルヲ得ベシ

診斷上及治療上ノ目的ニ向テ電氣ヲ供用スルコト左式ノ如シ

(イ)電氣ニ由テ光線ヲ發セシメ以テ醫家ノ咽喉、喉頭、膀胱、腔、子宮直腸ハ勿論、胃ヲ照輝スルニ用ユ

(ロ)診斷上ニ於テ神經及筋肉ノ關係ヲ試驗スルニ在リ

(ハ)「ガルハニ」燒灼法ニ於テ稍大ナル「エレメント」ニ由テ熱灼ヲ發生セシメ交互其導子間ヲ新銀、白金ノ蹄係或ハ縫糸ニ由テ結合シ流通ヲ發スルニ至ルマテ白熾熱ヲ發セシムベシ此處置ハ膿腫ノ切開、瘻管ノ穿開、茸腫及他ノ小腫瘍ヲ除去シ痔結節ヲ削平シ扁桃腺ヲ縮小セシメ鼻粘膜ヲ腐蝕スル等ニ供用スル者トス

(ニ)電氣的針刺分解法トシテ囊腫ノ破壊、動脈瘤、卵巢腫瘍、子宮纖維腫(「アボスリ」氏)林巴腺腫、攝護腺腫(「ビードルト」氏)「カスマル」氏)ニ應用ス

(ホ)感傳或ハ平流電氣トナシ局所或ハ全身(電氣的水治浴)ニ用スルコト最多シ

感傳電氣ハ麻痺ヲ掃去スルニ用ヒ平流電氣ハ神經痛、神經衰弱家、歇私的里、依ト昆垓里ノ知覺脫失、脊髓勞、他ノ脊髓病、「バセドウ」氏病(此際、交感神經ニ平流電氣ヲ

通ス)榮養障礙、萎縮症、精神病、官能的(非器質性)腦髓障礙、喉頭筋麻痺、五官器病、腹部諸病、并ニ婦人生殖器病ニ應用スル者トス

○尙次章ニ掲載セル電氣應用法ヲ參觀セザル可ラス

### 第十一章

#### ○電氣應用法

此法ハ「フアラデ」氏(即チ感傳)及「ガルハニ」氏(平流)ノ電流ヲ以テ施行シ且ツ直接ニ筋肉ニ應用シ或ハ間接ニ神經ヨリ筋ヲ刺戟スルモノトス一個ノ中立極(大ナル平板狀ノ電氣導子)ヲ使用點(胸骨、脊髓)ニ置キ他ノ差異極ヲ檢セントスル神經或ハ筋肉ニ接スヘシ差異極ハ細小ナル結頭狀電氣導子ヲ用ユヘシ蓋シ初メニ電氣刺戟ノ成績ニ向テ電流ハ可及的、大ナル濃度ニ於テ刺戟スベキ點ヲ分ツベキヲ檢知スレバナリ然レハ濃度(D)ハ流通ノ強度(即チ強弱、J)愈々大ニシテ使用部ニ於テ導子ノ斷面(Q)愈々小ナルトキハ益々大ナリトス則チ左ノ如シ  $D \propto \frac{1}{Q}$  電氣導子及病者ノ皮膚ハ温水ヲ以テ好ク滋潤セサル可カラス筋或ハ神經ヲ刺戟セン

トスル應用點ノ位置ハ左ノ諸圖ニ就テ知ルベシ則チ茲ニ於テ電氣流ヲ最初ハ最低度ノ筋收縮ヲ發スル者ニ由テ弱キ者ヨリ強流ニ至ルマテ増加スベキ者トス

○「ファラデー」氏電氣流中其第二螺旋ノ流通ヲ以テ檢査チ初ム而シテ流通ノ強度ヲ測度スルニハ螺旋距離ノ「ミリメートル」ニ於テス可シ即チ螺旋ノ距離愈々大ナレハ電流ハ益々微弱トナル者ナリ其他「ファラデー」氏電流ハ鐵核(Eisenkern)ノ轉移ニ由テ増劇セラル、者ニシテ鐵核ヲ第一螺旋ニ嵌入スルコト愈深キトキハ益々流通ハ増強スル者ナリ

○「ガルハニ」氏電源ヲ以テ試驗セントスルトキハ初メ消極 (Kathode.) (negative Zink Pol.) チ檢セントスル神經或ハ筋肉ニ接スベシ

○亞鉛、炭ノ電流ヲ充實スルニハ左液ヲ用ユ即チ重格魯謨酸加里七〇、〇水九〇〇、〇強硫酸一七〇、〇ヲ以テシ而シテ常ニ亞鉛ヲ混和保存セシムルカ爲メ一〇、〇ノ硫酸々化汞ヲ加フベシ

○兩極ヲ檢査スルニハ導線ノ一端ヲ沃度加留謨強溶液中ニ浸入スヘシ積極ナレハ遊離セル沃度ニ由テ藍色ノ雲絮ヲ生ス」或ハ單ニ導線ノ一端ヲ水中ニ浸漬スヘシ

シ則チ發生スル水素瓦私泡沫ノ浮昇スルトキハ消極ナルヲ知ルベク積極ナレハ遊離セル酸素ニ由テ速ニ酸化シ毫モ瓦私泡沫ヲ生ズルコトナシ

徐々ニ電流ノ強度ヲ増盛シツ、其最小強度即チ電流ヲ閉鎖スルヤ直チニ最微ノ搖動ヲ發スルノ力度ヲ定ムベシ(消極閉時搖動  $K_nSZ.$ ) 流通強度ヲ認知スルニハ供用セル「エレメント」ノ數ニ由ルカ或ハ豫メ嵌入セル「ガルハニ」計ヲ以テスベシ

而後、開キタル鏈線ケツキニ於ケル電流ヲ變向セシメ(正規位置  $V.$  ヨリ變位  $W.$  ニ至ル)之ニ由テ刺戟電流ヲ積極 (Anode Positive, Kohl-oder Kupfer Pol.) トナス而シテ閉時(積極閉時ノ搖動)及開時(積極開時ノ搖動)ノ最小度ノ搖動ヲ定ムヘシ流通ノ閉時及開時ハ固定保持ニ於テ斷絶セル電流ニ於テ檢知スベシ

正規ノ關係ニ在テ漸次、變換スル電流ノ刺戟成績ハ左ニ示スカ如シ即チ

- (一)消極閉時ノ搖動即チ  $K_nSZ.$
- (二)積極開時ノ搖動即チ  $A_nOZ.$
- (三)積極閉時ノ搖動即チ  $A_nSZ.$
- (四)消極開時ノ強直即チ  $K_nST.$  ( $K_nS.$  於テハ持續セル收縮)

(五)積極開時ノ搖動即チ  $K_{a}OZ.$

然レ此則ハ神經ヨリスル間接刺戟ニ於テノミ適スル者ニシテ直接ニ電氣ヲ筋肉ニ使用スルトキハ多クハ單ニ閉時搖動ヲ發スルノミトス而シテ積極閉時搖動  $A_{a}SZ.$ ハ消極閉時搖動  $K_{a}SZ.$ ニ同一トナリ或ハ尙勝越スルニ至ル

搖動ハ短ク電擊狀ニシテ神經并ニ筋肉ヲ興奮セシムル者ナリ

「オーム」氏ノ規則ニ從ヘハ流通強度(J)  $J = \frac{E}{W}$  則チ強弱ハ電氣發動力(E)即チ「エ

レメント」ノ數ニ正比例シ流通ニ現在スル抗抵ノ増加ニ倒比例ス、今「アムペール」

氏ノ流通強度(J)ハ電氣發動力  $E = 1 \text{ volts}$ 、由テ一流通ニ於テ抗抵  $W = 1 \text{ ohm}$ 、ヲ發

起スル者ヲ云フ故ニ「アムペール」氏強度ハ  $= \frac{1 \text{ volt}}{1 \text{ ohm}}$ 、即チ「マニール」氏「エレメン

ト」電氣發動力ノ  $1 \text{ volt} = \frac{9}{10}$  ナリ即チ  $1 \text{ Ohm}$  ハ百〇六「センチメートル」ノ長ニシ

テ「ミリメートル」平方ノ水銀柱ノ抗抵ニ均シ醫療上ノ目的ニハ只、電流強度ハ最

モ高キモ「アムペール」氏ノ千分ノ二十ヲ用ユルノミ (milli) 消極閉時ノ搖動  $K_{a}SZ.$

ハ正規淺在ノ運動神經ニ在テハ一乃至三 mA. ノ強度ニ於テ發スルノミ

○乾燥上皮ノ抗抵ハ初メ甚タ大ナルモ久シク「ガルハニ」氏電流ヲ通シ正シク濕潤

セシムルキハ抗抵著シク減降ス即チ檢査ノ初メ毫モ搖動ヲ發セスト雖モ久シク流通ヲ閉止スルキハ「エレメント」ノ數ヲ變スルコトナキモ抗抵ノ減少ニ由テ増強シ得ヘシ即チ疼痛ヲ感シ著シク搖動ヲ發スル者ナリ

○電氣興奮性ノ分量的變化 Quantitative Veränderungen. 即チ亢進及減退ハ

身體ノ他半部ト比較スルニ由リ或ハ健康人ニ於テ興奮性ヲ呈スル同一點ノ試驗ニ

由テ探檢スベシ即チ亢進ハ一定ノ電原數ヲ以テ健康側ニ施用スルモ一モ攣縮ヲ發

セス然ルニ病側ニ於テハ消耗閉時強直ヲ發シ且ツ永續シ消極開時攣縮ハ稍々速ニ

發現ス減退ハ消極閉時攣縮ヲ發セス減退ノ度大ナレハ積極開時攣縮ヲ發シ而シテ

消極閉時攣縮ヲ發セシムルニ強度ノ流通ヲ要ス之レヲ檢スルコトハ前頭神經、頸部

ニ於テ副神經ニ於テスルカ或ハ尺澤上部ニ於テ尺骨神經、膝關節及腓骨小頭ノ間

ニ於テ腓骨神經ニ就テ試檢スヘシ此際皮膚ノ傳導性抗抵ハ各異ノ身體部分及各人

ニ由テ差異アルコトヲ忘ルベカラス

電氣興奮性ノ單ニ亢進セル者ハ強直ニ發シ單ニ減退スル者ハ久時存在セル麻痺ニ

於テ發スル者ニシテ變性セサル單純ノ筋肉消耗ニ由ル例令ハ卒中后、關節病ノ筋



肉消耗ノ如シ

○電氣興奮性ノ性質的變化 Qualitative Veränderung 即チ變性反應 (E.R.)

Entartungsreaktion. ハ榮養中樞(脊髓ノ前角、腦神經ノ灰白核ヨリ來ル運動性末梢神經ニ疾患ヲ發シ或ハ切斷セラル、カ或ハ營養中樞自家ニ疾患ヲ發スルキハ運動麻痺ヲ起シ神經ハ變性シ其變性(變性的消耗)ハ此ノ神經ノ分布セル筋肉ニ波及スルモノナリ神經ノ電氣的興奮性ハ「フアラデー」氏及「ガルハニ」氏電流ニ向テ共ニ減降シ殆ト二周日ノ后ハ廢止ス即チ神經ハ意識及ヒ電氣刺激ニ向テ導達不能トナリ又筋肉ノ直接「フアラデー」氏興奮性ハ下降廢止ス之ニ反シテ二周乃至三週間「ガルハニ」氏電流ニ向テ筋肉興奮性ノ亢進ヲ發シ僅微ノ強度ニシテ已ニ搖動ヲ發シ來ル者ナリ然レトモ延長弛緩ニシテ搖動ノ形狀ヲ變ス即チ積極閉時ノ搖動 A<sub>1</sub> SZ. ハ同強度或ハ微度ノ流通ニ在テハ消極閉時搖動 K<sub>1</sub> SZ. 及ヒ消極閉時ノ搖動 K<sub>2</sub> OZ. ハ積極閉時搖動 A<sub>2</sub> OZ. ニ近シトス一二月ヲ經レハ「ガルハニ」性筋肉興奮性モ亦減降シ數月后ニハ同シシ廢絶シ、治癒スルキハ最初ニ再ビ筋肉緊張性及隨意運動ヲ發シ爾后、漸次、電氣的關係モ再ビ健康ニ復歸ス

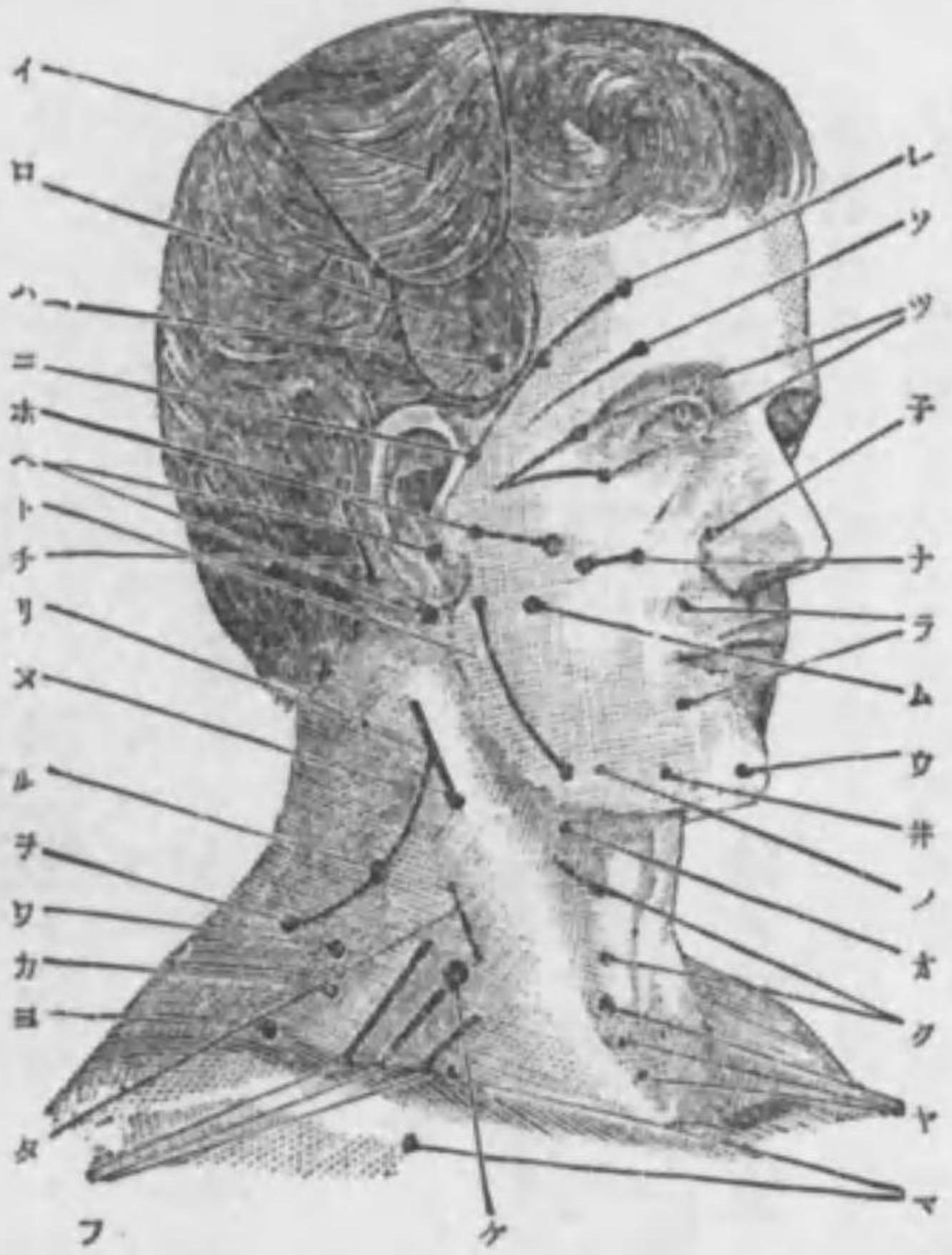
此ノ完全變性的反應 Complete Entartungsreaktion. ハ只、神經ノ劇シキ損害ニ由テ發スル者ナリ(橫斷、重症ノ癱瘓質斯性顔面神經麻痺)重症ナラサル變性症狀ニ於テハ毫モ局部變性的反應ヲ發セサルカ或ハ不充分ニ發スルノミ乙ハ其興奮性ハ神經ヨリ保存セラレ亦直チニ「フアラデー」氏ノ筋肉興奮性モ然リトス、筋肉ヲ直チニ「ガルハニ」的刺戟スレハ過度興奮性及搖動ノ變狀、搖動ノ緩徐ヲ發ス其緩徐ハ變性反應 E.R. ノ固有徵トナスヘシ

○變性反應ハ運動神經ノ末梢損害ニ發ス則チ外傷性、癱瘓質斯性、神經炎性、實布埜里性ニ來リ其他脊髓前角、延髓灰白核ノ病ニ發ス例之、小兒脊髓麻痺、鉛毒麻痺ノ如シ又進行性筋肉消耗、延髓球麻痺、筋肉萎縮性側索硬化、脊髓炎等ヲ發ス之ニ反シテ變性反應 E.R. ハ諸般ノ腦髓麻痺(例之、卒中ノ如シ)及其原因榮養神經中樞ニアル脊髓麻痺ニ發シ其他單純ノ筋肉麻痺(例之、筋肉ノ假性肥大)ニ發スル者ナリ

麻痺筋ノ榮養狀況モ全ク電氣的關係ハ均一ニ前角灰白質ノ疾患并ニ之ヨリ末梢ニ至レル運動神經ノ損傷ハ變性的萎縮ヲ發スト雖モ其因、前角灰白質ヨリ中心ノ運動纖維ニアル所ノ麻痺ハ唯久時ノ后、麻痺筋ノ微弱ナル削瘦(非働性萎縮)ヲ發スルノミ

左ニ電氣應用點ヲ示ス

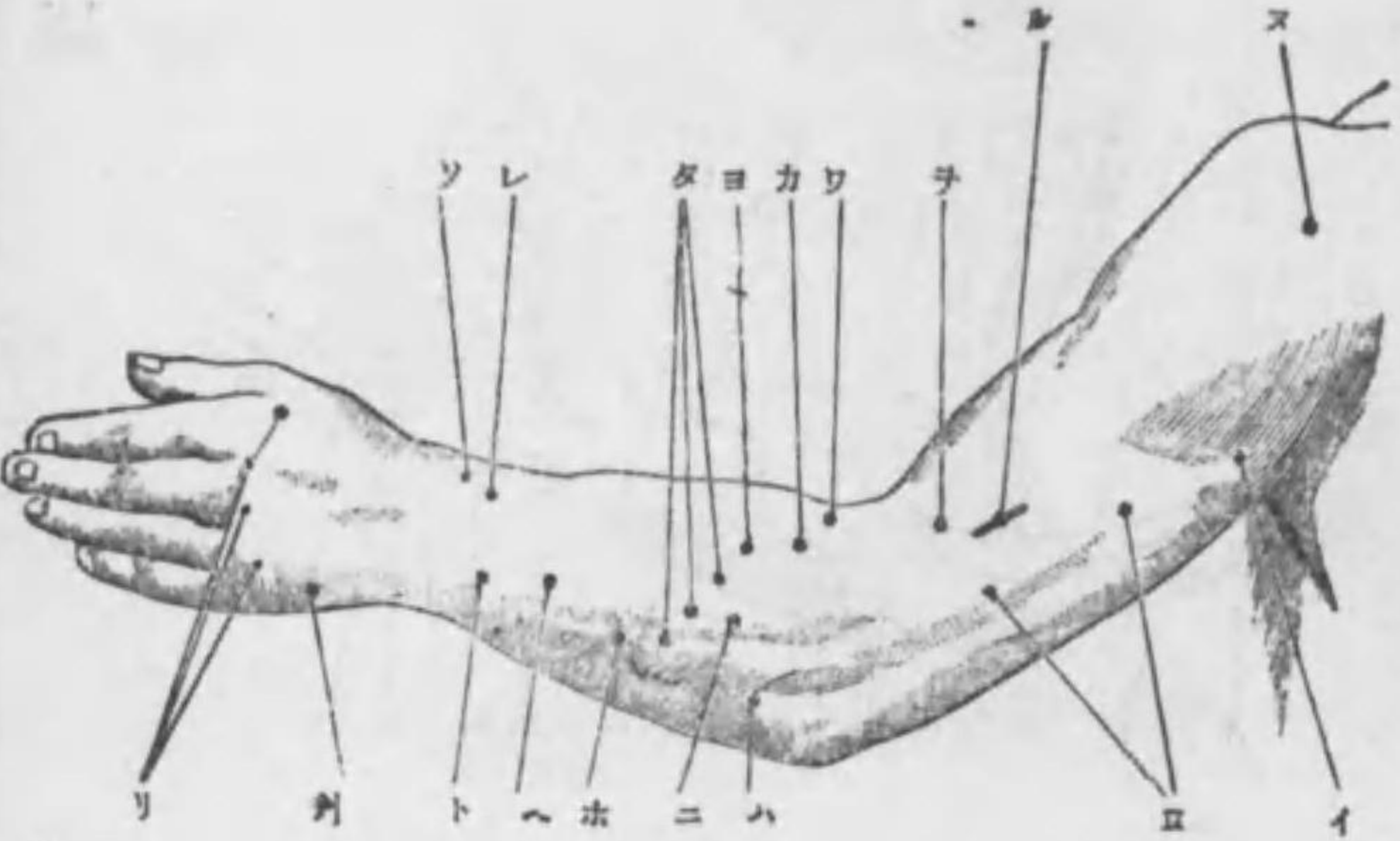
第五圖



第五圖解

- (イ) 中央回轉部 (ロ) 第三前額回轉部 (ハ) 額頭筋
- (ニ) 顔面神經上枝 (ホ) 同其中枝 (ヘ) 同神經幹
- (ト) 同其下枝 (チ) 耳后神經 (リ) 項筋 (ク) 胸鎖
- 乳頭筋 (レ) 副行神經 (テ) 僧帽筋 (ヤ) 肩胛背神
- 經 (カ) 腋窩神經 (ヨ) 長胸廓神經 (タ) 橫隔神經
- (フ) 勝神經叢 (ニ) 前頭筋 (ソ) 上眼瞼鑿筋 (ツ) 眼
- 瞼輪匠筋 (子) 上唇舉筋 (ナ) 額骨筋 (ラ) 口唇輪
- 匠筋 (ム) 頰筋 (ウ) 舉頤筋 (ヰ) 方形頤筋 (ノ)
- 三角頤筋 (オ) 舌下神經 (ク) 淵頸筋 (ヤ) 舌骨筋
- (マ) 前胸廓神經(大胸筋) (ケ) エルブ氏ノ鎖骨上
- 點(三角筋、二頭膊筋、內膊筋、回后長筋、肩胛下筋、等)

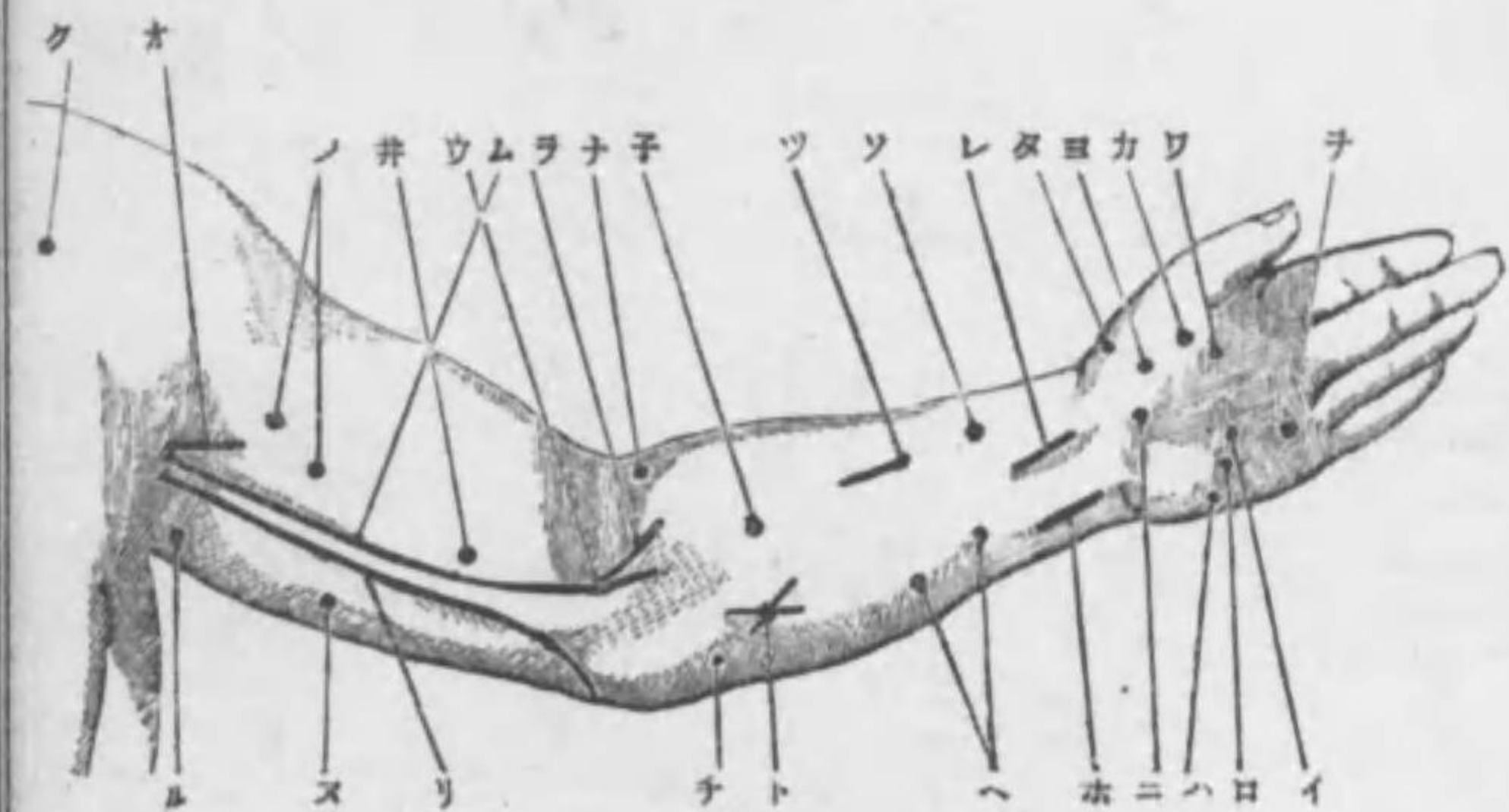
第六圖



第六圖解

- (イ) 三頭膊筋ノ長頭 (ロ) 同筋ノ外
- 頭 (ハ) 尺骨伸筋 (ニ) 回后短筋 (ホ)
- 小指伸筋 (ヘ) 示指伸筋 (ト) 拇指長
- 伸筋 (チ) 外轉小指筋 (リ) 背側骨間
- 筋 (ク) 三角筋ノ后半部 (ル) 橈骨神
- 經 (ナ) 內膊筋 (ヤ) 回后長筋 (カ)
- 橈骨長伸筋 (ヨ) 橈骨短伸筋 (タ)
- 總指伸筋 (レ) 長外轉拇筋 (ソ) 短伸
- 拇筋

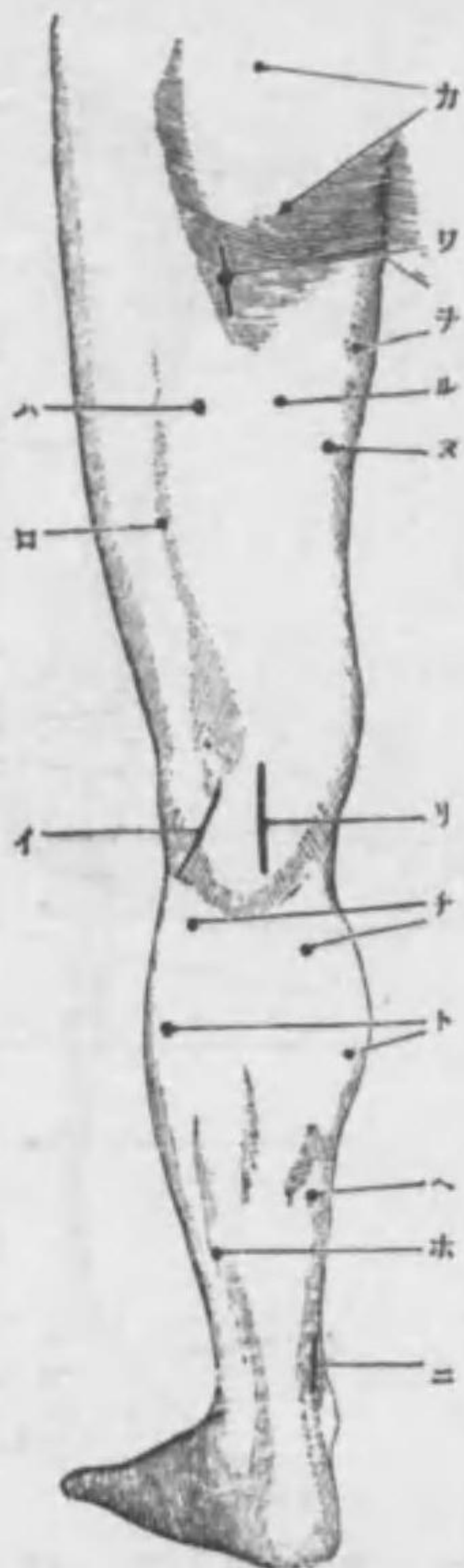
第七圖



第七圖解

- (イ)小指球筋 (ロ)屈筋 (ハ)外轉筋
- (ニ)短掌筋 (ホ)尺骨神經 (ヘ)淺總指屈筋 (ト)深總指屈筋 (チ)尺腕屈筋 (リ)尺骨神經 (ヌ)三頭膊筋内頭筋 (ル)三頭膊筋長頭 (カ)虫樣筋 (ワ)短外轉拇筋 (カ)短屈拇筋 (ヨ)拇指球筋 (タ)短外轉拇筋 (レ)正中神經 (ソ)長屈拇筋 (ツ)示指屈筋 (子)橈腕屈筋 (ナ)回后長筋 (ラ)回前圓筋 (ム)正中神經 (井)内膊筋 (ウ)二頭膊筋 (オ)筋皮下神經 (ク)三角筋ノ前半部

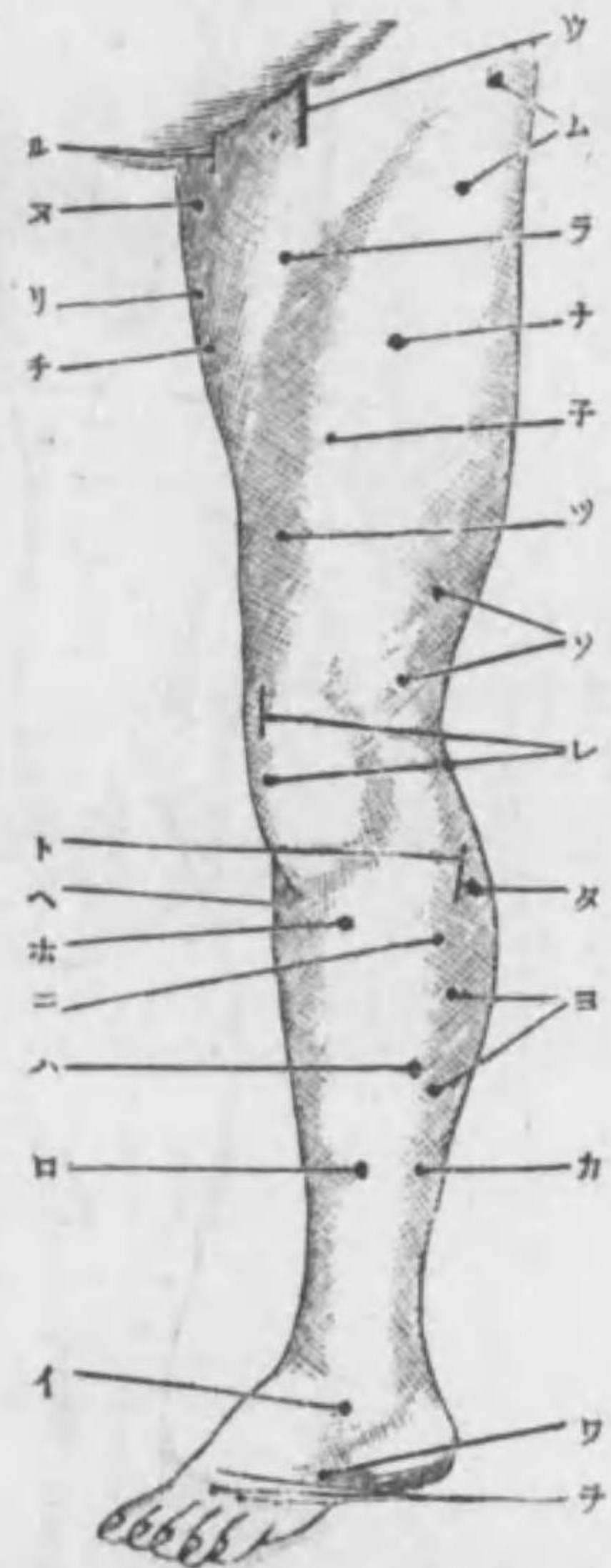
第八圖



第八圖解

- (イ)腓骨神經 (ロ)二頭股筋短頭 (ハ)同筋ノ長頭 (ニ)脛骨神經 (ホ)長屈拇筋 (ヘ)長總趾屈筋 (ト)比目魚筋 (チ)二頭腓腸筋 (リ)脛骨神經 (ヌ)半膜樣筋 (ル)半腱樣筋 (カ)大外轉筋 (ワ)坐骨神經 (カ)大臀筋(臀神經) (ニ)ヨリ(チ)マテハ皆脛骨神經ナリ

第九圖



第九圖解

- (イ)短總趾伸筋 (ロ)長伸拇筋 (ハ)
- 短腓骨筋 (ニ)長腓骨筋 (ホ)長總
- 趾伸筋 (ヒ)前脛骨筋 (ト)腓骨神
- 經 (チ)長外轉股筋 (フ)大外轉股
- 筋 (ス)恥骨筋 (ル)陰部神經 (チ)
- 背側骨間筋 (ワ)小趾外轉筋 (カ)
- 長伸躡筋 (ヨ)比目魚筋 (タ)二頭
- 腓腸筋外頭 (レ)內大腿筋 (ソ)外
- 大腿筋 (ツ)中大股筋 (子)直股筋
- (ナ)方形股筋 (ヲ)縫匠筋 (△)股
- 鞘張筋 (ウ)股神經

第十二章

○電氣用藥液

茲ニ掲クルハ大學醫院ニ於テ日用使用スル二十電池ニ要スル分量ナリ

第一 平流電氣

硫酸々化汞 三〇、〇

硫酸 八〇、〇

水 一〇〇〇、〇

第二 感傳電氣

重クローム酸加里 三〇、〇

硫酸 二、〇

水 一八〇、〇

第三 感傳電氣 「スーヘル」氏

重クローム酸加里 八、〇

硫酸 一〇、〇

硫酸々化汞 一、〇  
水 一〇〇、〇

### 第四 焼灼電気

重クロロム酸加里 一七〇、〇  
硫酸 一二〇、〇  
水 七〇〇、〇

## 第十三章

### ○皮下注入薬液

注射器ハ「アラバット」氏製ノ一、〇ヲ十度ニ分畫セル者ヲ用ヒ注入薬液ハ一回ノ注入量ヲ分明ナラシムル爲メ可成的、小數係ニ由テ配合スルヲ良トス例之一ノ五ニ於ケル一ノ二十ニ於ケル（通常本邦ノ製ハ上記ノ度ニ分畫スル者ナリ）用量ハ皆一回ノ注入量ヲ示ス者トス但シ分量ハ「プロフェツツルドクトル、オイレソング」氏方ニ從フ

〔一〕樟腦 一分 酒精 少許 阿列布油 四分

〔用量〕 一、〇—二、〇故ニ眞量〇、一—〇、二〔興奮〕

〔二〕依的兒 〇、五

〔用量〕 〇、五〔興奮〕

〔三〕鹽酸謨兒比涅一分ヲ取り温ヲ加ヘテ十分ノ屈利設林ニ溶解シ之ニ十分ノ餽水ヲ和シタル者

〔用量〕 〇、一—〇、六故ニ眞量〇、〇〇五—〇、〇三〔一歳ノ小兒ニハ

〇、一故ニ眞量〇、〇〇五〔鎮痛、神經症〕

〔四〕硫酸謨兒比涅 一分 餽水 二十分

〔用量〕 鹽酸謨兒比涅ニ同シ〔鎮痛〕

〔五〕鹽酸必魯加兒必涅 一分 餽水 二十分

〔用量〕 一、〇—二、〇故ニ眞量〇、〇二—〇、〇四〔發汗ヲ要スル諸症〕

〔六〕鹽酸亞剎謨兒比涅 一分 餽水 百分

〔用量〕 大人ニハ〇、五—一、〇故ニ眞量〇、〇〇五—〇、〇一初生兒一歳ノ者ニハ〇、一五故ニ〇、〇〇一五稍大ナル小兒ニハ〇、三故ニ〇、〇〇三〔吐劑〕

〔七〕硝酸斯篤里規尼涅 一分 餾水 百分  
〔用量〕 〇、三—一、〇故ニ〇、〇〇三—一〇、〇一硫酸斯篤里規尼涅モ亦之ニ同シ

〔麻痺諸病〕

〔八〕鹽酸コカイン 一分 餾水 二十分

〔用量〕 〇、二—一、〇故ニ眞量〇、〇一—〇、〇五 〔局所麻酔〕

〔九〕石炭酸 三分 餾水 百分

〔用量〕 〇、五—一、〇故ニ眞量〇、〇一五—〇、〇三 〔丹毒〕

〔十〕硫酸亞篤魯比涅 一分 餾水 五百分

〔用量〕 〇、二—〇、故ニ眞量〇、〇〇四—〇、〇〇一 〔ヒロカルピン中毒〕

〔十一〕鹽酸或硫酸規尼涅 一分 虞利設林 五分 餾水 五分

〔用量〕 一、〇故ニ眞量〇、一 〔泥瘴性病〕

〔十二〕純格魯保兒母 一、〇

〔用量〕 一、〇 〔麻酔〕

〔十三〕樟腦或枸橼酸咖啡涅 一分 餾水 五分

〔用量〕 〇、五—一、〇故ニ眞量〇、一—〇、二 〔利尿〕

〔十四〕コルヒチニーム 一分 餾水 五十分

〔用量〕 〇、五—一、〇故ニ〇、〇〇一—〇、〇〇二 〔痛風〕

〔十五〕矢毒<sup>ツラ</sup> 一分 虞利設林及餾水 各五十分

〔用量〕 一、〇—五、〇故ニ眞量〇、〇一—〇、〇五 〔強直症〕

〔十六〕硫酸シユホイシ<sup>ン</sup> 一分 餾水 五百分

〔用量〕 〇、一—〇、二故ニ〇、〇〇一—〇、〇〇三 〔瞳孔散大〕

〔十七〕溶性枸橼酸エルゴチ<sup>チ</sup> 千分ノ一ヲ含有スル溶液

〔用量〕 〇、三—一、故ニ眞量〇、〇〇〇三—〇、〇〇一 〔止血〕

〔十八〕麥角越幾斯 一分 虞利設林 餾水 各五分

〔用量〕 一、〇—二、〇故ニ眞量〇、一—〇、二 〔止血、陣痛微弱〕

〔十九〕過格魯兒水銀 一分 餾水 五百分

〔用量〕 〇、五—一、〇故ニ眞量〇、〇〇五—〇、〇一 〔梅毒〕

〔二十〕亞砒酸加留母液 一分 餾水 四分

- 〔用量〕 〇、五—一、〇故ニ〇、一—〇、二〔林巴腫〕
- 〔廿一〕蛋白化汞 一分 餾水 百分
- 〔用量〕 〇、五—一、〇〔梅毒〕
- 〔廿二〕サルチル酸フイツスチグミーチ 一分 餾水 五百分
- 〔用量〕 〇、二—〇、五故ニ眞量〇、〇〇〇四—〇、〇〇一〔瞳孔收縮〕
- 〔廿三〕依的兒精 依的兒ニ同シ
- 〔廿四〕印度大麻丁幾 〇、二—〇、五
- 〔用量〕 〇、二—〇、五〔鎮痙〕
- 〔廿五〕湧刺篤里涅 一分 稀酒精 百分
- 〔用量〕 〇、二—〇、五故ニ眞量〇、〇〇二—〇、〇〇五〔神經痛〕

### 第十四章

#### 〇蒸氣吸入藥液

此ニ記載セル吸入液ハ「シユニツレル」氏ノ吸入器ニ從テ製セシ者ニシテ「ジীগレ

ル」氏ノ吸入器ヲ用ヒント欲セハ其量ヲ倍セサルヘカラズ一回ノ吸入時間ハ五分乃至三十分時ニ病症ニ從テ一日一二回若クハ數回施用スヘシ

- 〔一〕 安息酸 〇、五—一、〇 酒精 一〇、〇 餾水 九〇、〇〔肺勞〕
- 〔二〕 石炭酸 〇、五—一、〇 餾水 一〇〇、〇〔肺壞疽、腐敗性氣管枝炎〕
- 〔三〕 乳酸 一、〇—二、〇 餾水 一〇〇、〇〔實布埤里〕
- 〔四〕 鞣酸 一、〇—二、〇 餾水 一〇〇、〇〔氣管枝粘液漏〕
- 〔五〕 亞硝酸亞蜜兒 二滴乃至五滴ヲ布片ニ滴シ吸入〔痙攣性偏頭痛〕
- 〔六〕 加爾基水及餾水 各適宜〔實布埤里〕
- 〔七〕 結麗阿曹篤水 一、〇—五、〇 餾水 一〇〇、〇〔肺勞〕
- 〔八〕 老利兒水 三、〇—五、〇 餾水 一〇〇、〇〔氣管枝炎〕
- 〔九〕 臭素加里臭素 各〇、二 餾水 一〇〇、〇〔實布埤里〕
- 〔十〕 鹽酸コカイン 〇、五 餾水 一〇〇、〇〔喉頭炎、氣管枝炎〕
- 〔十一〕 苦扁桃水 五、〇 餾水 一〇〇、〇〔氣管枝炎〕
- 〔十二〕 別刺敦那越幾斯 〇、〇—一、〇、〇五 餾水 一〇〇、〇〔喘息〕

- (十三) 非沃斯越幾斯 〇、〇五—〇、二 餾水 一〇〇、〇 [氣管枝炎]
- (十四) 貌魯謨化加留謨 一、〇—三、〇 餾水 一〇〇、〇 [喉頭及氣管枝炎]
- (十五) 格魯兒酸加留母 三、〇—五、〇 餾水 一〇〇、〇 [格魯布]
- (十六) 過滿俺酸加留母 〇、一—〇、二 餾水 一〇〇、〇 [格魯布]
- (十七) 沃度化加留謨 一、〇—二、〇 餾水 一〇〇、〇 [喘息]
- (十八) 結麗阿曹篤 二滴 餾水 一〇〇、〇 [肺壞疽、肺勞]
- (十九) 鹽酸謨兒比涅 〇、一 餾水 一〇〇、〇 [氣管枝炎]
- (二十) 安息酸那度留母 一、〇—二、〇 餾水 一〇〇、〇 [氣頭枝炎]
- (廿一) 重碳酸那度留母 三、〇—五、〇 餾水 一〇〇、〇 [喉頭氣管枝炎]
- (廿二) 印度大麻丁幾 〇、五—一、〇 餾水 一〇〇、〇 [喘息]

### 第十五章

#### 淋疾尿道注射藥液

淋疾尿道藥液注射法ハ時期、藥石及ヒ用量、攝生法各其當ヲ得レハ有効ノ療法ニシテ

其目的ハ收斂、腐蝕、麻醉ノ効ヲ收ムルニアリ

〔注射法〕 藥液ヲ患部ニ直接セシムル爲メ尿利直后ニ於テシ或ハ一筒注射シ直ニ排出セシメ膿汁ヲ洗滌シ而シテ后チ注射シ示拇兩指間ニテ尿道唇ヲ閉塞シ二三秒時ヨリ二三分時間、藥液ヲ尿道中ニ止メ后チ排出セシム又注射ノ際大氣ヲ器中ヨリ驅除スル爲メ藥液ヲ注射器中ニ吸攝セシメ后チ上向シ液ノ一小部分ヲ出スヘシ若シ然ラサルトキハ大氣膀胱中ニ竄入シ膀胱痙攣ヲ發シ或ハ膀胱炎「バクテリア」ヲ發スルヲ侵入ノ爲メアレハナリ

〔注射度〕 初期ハ一日ニ三回少量ヲ徐々ニ注射シ病勢稍々減退スレハ量ヲ増加シ一日五六回、施スヘシ又淋疾ハ尤モ再發シ易キ故ニ病殆ト治スルモ毎日或ハ隔日一回行フヘシ

〔注射量〕 尿道注射料トシテ通常與フル全量ハ一五〇、〇乃至三〇〇、〇ニシテ一回ノ注射量ハ一〇、〇乃至二〇、〇ナリ

#### ○急性及ヒ次急性淋疾注射藥液

〔一〕 沃度仿謨 三、〇 皓礬 〇、三 水 一五〇、〇



- 〔二〕 明礬 皓礬 石炭酸 各〇、五 水 五〇〇、〇
- 〔三〕 皓礬 一、〇 阿片丁幾 二、五 水 一〇〇〇、〇
- 〔四〕 皓礬 〇、二二 鉛糖 〇、五 水 一〇〇〇、〇
- 〔五〕 五百倍明礬水 稀ニ二十五倍迄  
用ユルヲアリ 一〇〇〇、〇
- 〔六〕 五百倍皓礬水 稀ニ百五十倍迄  
用ユルヲアリ 一〇〇〇、〇
- 〔七〕 六十倍鉛糖水 一〇〇〇、〇
- 〔八〕 五百倍鞣酸水 三百倍迄用ユル  
ヲアリ 一〇〇〇、〇
- 〔九〕 鉛糖 〇、八 鞣酸 〇、四 水 一五〇〇、〇
- 〔十〕 鉛糖 一、八 薔薇水 一八〇〇、〇
- 〔十一〕 五百倍格魯兒亞鉛水 二百五十倍迄  
用ユルヲアリ 一〇〇〇、〇
- 〔十二〕 鞣酸 三、〇 屈利設林 一〇、〇 水 一五〇〇、〇
- 〔十三〕 鞣酸 二、〇 皓礬 一、〇 水 一五〇〇、〇
- 〔十四〕 三千倍乃至五千倍昇汞水 水 一〇〇〇、〇
- 〔十五〕 二百倍安息酸曹達水 一〇〇〇、〇

- 〔十六〕 百倍「ヒドロヒノン」水 一〇〇〇、〇
- 〔十七〕 百倍「レアルチン」水 一〇〇〇、〇
- 〔十八〕 百倍鹽酸「コカイン」水 一〇〇〇、〇
- 〔十九〕 百倍鹽酸「モルヒチ」水 一〇〇〇、〇
- 〔二十〕 五十倍抱水「コロラール」水 一〇〇〇、〇
- 〔廿一〕 二十倍硫酸「タルリン」水 一〇〇〇、〇

○慢性淋疾注射薬液

- 〔廿二〕 百倍乃至五十倍次硝酸蒼鉛水 一〇〇〇、〇
- 〔廿三〕 千倍乃至三千倍硝酸銀水 一〇〇〇、〇
- 〔廿四〕 五百倍硫酸銅水 一〇〇〇、〇
- 〔廿五〕 百倍酸化亞鉛水 一〇〇〇、〇
- 〔廿六〕 六十倍赤葡萄酒水 一〇〇〇、〇
- 〔廿七〕 鞣酸 二、〇 赤葡萄酒 二五、〇 餾水 五〇〇、〇
- 〔廿八〕 二千倍乃至五百倍過酸化滿俺酸水 一〇〇〇、〇

(尤モ分解シ易キ故ニ用ニ臨ミ調製スルヲ要ス)

- 〔廿九〕 格魯兒石灰 一、〇 阿片洎蘭芙丁幾 二、〇 餾水 二〇〇、〇
- 〔三十〕 麻質古葉浸 (一五、〇) 一〇〇、〇 骨拜拔撒謨依的兒油 一、〇
- 〔卅一〕 過格魯兒鐵液 十滴 餾水 一〇〇、〇
- 〔卅二〕 格魯兒酸加留謨 一、五 餾水 一〇〇、〇
- 〔卅三〕 硫酸カドミウム 〇、五 餾水 一〇〇、〇

### 第十六章

#### ○瀉腸藥劑

瀉腸藥劑ヲ分テ瀉下瀉腸劑、藥液瀉腸劑及滋養瀉腸劑ノ三種トナス瀉下瀉腸劑ハ粘膜ヲ滋潤シ蠕動機ヲ催進ノ通便ヲ得セシムルニ在リ藥液瀉腸劑ハ收斂、止血、止瀉、麻酔、衝動、等ヲ以テ目的トノ行ヒ滋養瀉腸劑ハ食管狹窄、牙關緊急、精神病者ノ胃病ニ由テ口腔ヨリ食物ヲ攝取スル能ハサル時ニ行フ者ナリ一回ノ瀉腸量ハ瀉下瀉腸ニ在テハ大人ハ二百瓦乃至三百瓦稍長シタル小兒ニ在リテハ百瓦乃至百五十瓦幼兒ニ

在リテハ五十瓦乃至百瓦ヲ要シ藥液瀉腸及滋養瀉腸ハ右ノ半量或ハ尙少量ヲ以テ足レリトス

#### 第一 瀉下瀉腸劑

- 〔一〕 加里石鹼 四、〇 水 二〇〇、〇 蜂蜜 四、〇
- 〔二〕 食鹽 四、〇 溫湯 二〇〇、〇 蜂蜜 一〇、〇
- 〔三〕 加蜜列浸 (二〇、〇) 二〇〇、〇 阿麻仁油 三〇、〇 食鹽 一五、〇
- 〔四〕 常水 攝氏八度乃至十度ノ者 二〇〇、〇
- 〔五〕 阿列布油 一五、〇 護謨漿 一五、〇 溫湯 二〇〇、〇
- 〔六〕 蓖麻子油 一五、〇 護謨漿 一五、〇 溫湯 二〇〇、〇

#### 第二 藥液瀉腸劑

- 〔七〕 阿片丁幾 各〇、五 餾水 一〇〇、〇 [赤痢]
- 〔八〕 阿片丁幾 〇、五 澱粉漿 一二〇、〇 [虎列刺]
- 〔九〕 阿片丁幾 一、〇 亞兒答煎 (八、〇) 二五〇、〇 澱粉 一五、〇 [腸潰瘍]
- 〔十〕 硝酸銀 〇、三 芳香阿片酒 十五滴 餾水 三〇、〇 [腸潰瘍]

- 〔十一〕 硫酸規尼涅 〇、五 收斂依的兒 四滴 罌粟煎 一〇〇、〇 〔腦膜炎〕
- 〔十二〕 過格魯兒化鐵 〇、八 餾水 一五〇、〇 〔腸出血〕
- 〔十三〕 「アンチピリン」二〇、〇 水 一五〇、〇 〔解熱〕
- 〔十四〕 沒食子丁幾五、〇 護謨漿 一〇〇、〇 阿片丁幾一、〇 〔腸出血、腸加苔兒〕
- 〔十五〕 鞣酸 三、〇 護謨漿 五〇、〇 阿片丁幾 三十滴乃至五十滴 加蜜列浸 (二〇、〇)二〇〇、〇 〔虎列刺〕
- 〔十六〕 皓礬 一、〇 水 一〇〇、〇 〔腸潰瘍〕
- 〔十七〕 纈草浸 (一、〇)二二〇、〇 阿魏 三、〇 雞子黃 一箇 〔疝痛〕
- 〔十八〕 阿魏 五、〇 阿列布油 八、〇 蜀葵煎(四、〇)九〇、〇 〔歌私的里、疝痛〕
- 〔十九〕 加蜜列浸 (一〇、〇)二〇〇、〇 醋 三〇、〇—二二〇、〇 〔腦出血〕
- 〔二十〕 石炭酸 亞兒箇兒 各一、〇 餾水 五〇〇、〇 〔腸加苔兒〕
- 〔廿一〕 帝列並底油 八、〇 雞子黃 一箇 大麥煎(二〇、〇)二〇〇、〇 〔腦出血〕
- 〔廿二〕 麝香 〇、五 纈草 一五、〇 澱粉 二、〇 溫湯 二〇〇、〇 〔腦出血〕
- 〔廿三〕 沃度化加留謨 一、五 沃度丁幾 一五、〇 餾水 二〇〇、〇 〔赤痢〕

- 〔廿四〕 格魯々保兒母 〇、五 雞子黃 一個 餾水 二〇〇、〇 〔鉛毒疝〕
  - 〔廿五〕 抱水格魯刺兒 二、〇 餾水 護謨漿 各五〇、〇 〔破傷風〕
  - 〔廿六〕 貌魯謨化加留謨 四、〇 餾水 一〇〇、〇 〔破傷風〕
  - 〔廿七〕 過格魯兒鐵液 二〇、〇 亞麻仁煎 (二〇、〇)二〇〇、〇 〔赤痢、痔出血〕
- 第三 滋養瀉腸劑** 此劑ヲ用ユルニハ必ス豫メ微温湯ヲ以テ洗滌シ通利后ニ於テスルヲ要ス
- 〔廿八〕 肉腓瀉腸 牛肉 一五〇、〇 牛腓 五〇、〇 採リ脂肪ヲ除キ細剉搗碎シテ温湯一〇〇、〇ヲ加ヘ糜粥狀トナシ用ユヘシ
- (注意)牛腓ハ之ヲ貯フルニ腐敗ヲ防カサル可ラス其法牛腓ヲ細剉シ屈利設林 二五〇、〇ヲ加ヘ搗磨シテ貯ヘ、用ルニ臨テ其三分ノ一ヲ採リ之ニ牛肉百瓦乃至百五十瓦ヲ加フヘシ然ルキハ數日ヲ經タル腓ト雖モ其効新鮮ノ者ニ讓ラズ此劑ハ其肉膨脹シテ瀉腸ニ困難トナル故ニ用時必ス此貯腓ニ肉ヲ混和スヘシ 牛腓一個ハ三回ノ瀉腸ニ適スヘシ
- 〔廿九〕 雞卵瀉腸 雞卵四分水一分ヲ漸次ニ攪和シテ乳汁様ノ液トナシ冷處ニ貯置スルヲ十二時間ニ及ヒ之ヲ濾過シテ三十五度ニ温メ瀉腸スヘシ一回ノ量ニハ雞卵二三箇ヲ用ヒ再度ノ瀉腸ニハ前回ノ養分吸收セラレタル時ニ於テ行フヘシ大人ニハ一

日雞卵十二個ヲ用ユルヲ常トス

〔三十〕 肉羹汁灌腸 牛肉或犢牛肉一〇〇、〇乃至一八〇、〇ヲ以テ製セル所ノ一〇

〇、〇乃至一五〇、〇ノ肉羹汁ニ雞子黃一個澱粉四、〇ヲ加ヘ溫暖トナシ用ユヘシ

〔以上食管狹窄、牙關緊急、精神病〕

第十七章

○浴湯溫度表

- 第一 寒冷浴 攝氏 十度乃至二十度
- 第二 冷 浴 攝氏 二十度乃至二十八度
- 第三 微溫浴 攝氏 二十八度乃至三十四度
- 第四 溫 浴 攝氏 三十四度乃至四十度
- 第五 熱 浴 攝氏 四十度乃至四十五度

第十八章

○人工浴

全身浴ハ凡ソ頸部ニ達スルヲ度トシ大人ニ在テハ其量二百乃至四百「リートル」小兒ニアリテハ五十乃至二百「リートル」ヲ要ス

半身浴ハ心窩ニ達スルヲ度トシ百乃至百五十「リートル」ヲ要シ坐浴ハ二十乃至三十「リートル」ヲ以テ足レリトス又局處浴ハ身體各部ニ依リ同シカラス假令ハ足浴ハ十「リートル」ヲ以テ足レリトスルカ如シ

第一 亞爾加里浴

全身浴○粗製剝篤亞斯 百乃至五百瓦

局處浴○全 五乃至十瓦

第二 芳香浴

全身浴○「カミルレ」 五百乃至千瓦

全 ○薄荷草 五百乃至千瓦

全 ○蔞藤根 三百乃至五百瓦

第三 格魯兒加爾基浴

全身浴○格魯兒加爾基 五百瓦  
局處浴○全 十瓦

第四 鐵浴 (小兒ニ在テハ四分一ヲ以テスヘシ)

全身浴○精製硫酸鐵 三十乃至六十瓦  
精製剝篤亞斯 二十瓦  
全 ○精製硫酸鐵 三十瓦

食鹽 六十瓦

重碳酸那篤留謨九十瓦

第五 沃度浴 (浴槽ハ木器ヲ用ユヘシ)

全身浴○沃剝 五十乃至百瓦  
全 ○沃剝 二十瓦

純沃度 十瓦

局處浴○沃剝 五乃至十瓦

第六 粉槽浴

全身浴○小麥粉一乃至一半「キロ」瓦ヲ五「リ」テル「ノ」水ニ投シ半時間煮  
沸スヘシ

第七 食鹽浴

全身浴○食鹽或海水二乃至四「キロ」瓦又ハ一「キロ」瓦ノ食鹽ト同量ノ油

汁鹽

第八 硫黃浴 (浴槽ニハ決シテ鑛器ヲ用ユヘカラス)

全身浴○硫酸那度留謨 五十乃至百瓦

全 ○硫化加留謨 五十乃至百瓦

第九 石鹼浴

全身浴○家用石鹼或ハ白色加里石鹼或ハ芳香石鹼百乃至四百瓦若シクハ

石鹼精五十乃至百瓦

第十 芥子浴

全身浴○芥子末百瓦乃至二百瓦ヲ冷水ニ攪和シ之レヲ浴湯ニ投スヘシ

○芥子油二瓦 酒精二十五瓦

第十一 海水浴

全身浴○海鹽五乃至八「キロ」瓦

第十二 曹達浴

全身浴○粗製炭酸曹達二百乃至五百瓦

局處浴○粗製炭酸曹達百乃至二百瓦

第十三 昇汞浴

全身浴○昇汞二瓦乃至十瓦亞爾簡兒五瓦ヲ水二百瓦ニ溶解シ后チ浴桶中

ニ投スヘシ

第十四 鞣酸浴

全身浴○鞣酸十瓦乃至五十瓦 水二百瓦

全 ○檫皮、榆皮、栗皮ノ煎汁半「キロ」瓦ヲ二「リ」テ「ル」ニ投スヘシ

第十九章

○温泉療法 又日本鑛泉論

温泉浴ノ療病ニ効アルヤ主トシテ其泉中ニ含有スル成分及温度ニ由ルト雖土地ノ氣候、高低、地質ヨリ身體ノ運動、精神上ノ關係、浴用法、飲用法等各其宜キヲ得サレハ其奏効ヲ期スベカラス然レモ此ノ諸件及生理的効用ヲ詳論スルハ小冊子ノ能クスル所コアラサルヲ以テ茲ニ略シ其成分及醫療的應用ノ例トシテ日本鑛泉誌及衛生局雜誌ヨリ分析表及醫療的應用ヲ抄録シ以テ之ヲ示ス

○温泉浴ノ通則

〔一〕此療法ヲ行フニ最良ノ時季ハ主トシテ夏季六七八ノ三ヶ月ナリトス本邦ノ如ク氣候暖ナル地ハ四月ヨリ十月ニ至ルヲ得ヘシ暖地ニ在テ冬時入浴スルニハ隙風ヲ防クヲ要ス

〔二〕此療法ヲ施ス時日ノ長短ハ甚タ豫定シ難シト雖モ概シテ三周ヲ以テ通則トナス然レモ連續シテ四周乃至六七周ニ至ルヘカラス

〔三〕浴數ハ病症ニ從ヒ異ナリ老人ハ一日一回壯者ハ二三回トス時間ハ午前八時ヨリ午後一時ヲ良トナシ或ハ五六時ヲ最良トス而シテ時候寒冷ニシテ感冒ノ恐アルハ夜間臨臥ニ於テ入浴スヘシ食后直ニ入浴スルハ良ナラス少クモ一時間ヲ隔ルヲ要ス

ス殊ニ入浴中ニハ游泳スルヲ良トス

〔四〕一浴ノ時間ハ泉性、病症等ニ由テ均一ナラスト雖モ概シテ十分時ヨリ漸次、延長シテ五六十分時ニ達スヘシ尤モ熱湯、冷浴ハ十分時ヲ越ユヘカラス

〔五〕飲服ノ量ハ亦泉ノ性質ト病症、體質如何ニ從テ異ナリ飲用ハ初ハ少量ヨシテ一回ニ六十瓦ヨリ始メ其量ヲ増加シ一日四百瓦ニ至ルベシ而ノ一日ノ極量千瓦ヲ越ユルヲ禁ス飲服ノ時刻ハ朝夕兩度空心ニ於テ徐々ニ服用スヘシ若シ一回ニ二三盞ヲ用ヒントセハ每盞ノ間二十分時ヲ隔ツヘシ服用后ハ逍遙運動ヲナスヘシ

〔六〕溫泉ノ温度ハ病症ニ由リ稀ニ高度ノ者ヲ用ユルヲアリト雖モ華氏ノ九十八度乃至百度ヲ適當トス其熱度ヨリ過クルモ決シテ常水ヲ加ヘ藥氣ヲ稀薄ナラシム可ラズ久シク放冷シテ適度ニ至ラシムヘシ

〔七〕此溫泉療法ハ入浴、服用共ニ年齢ニ於テハ禁忌スヘキナシ然レモ老人小兒及妊婦ニハ注意ヲ加フヘシ但シ妊婦ハ内服ノ量ヲ減スヘシ

〔八〕溫泉療法中ハ堅ク攝生ヲ護リテ過食、暴飲及過房ヲ禁制スヘシ

〔九〕各泉條下ニ記載スル効用ニ的中セル病症ノ者ト雖モ各其原病ニ從テ適當ノ療法

ヲ加ヘ入浴或ハ飲服スヘキハ言ヲ待タズ是レ溫泉ハ醫療ヲ補助スルニ過キサル者ナレハナリ

〔十〕右ニ掲ル條件ハ一般ノ方法ナルカ故ニ溫泉場ノ撰擇、日常ノ攝生等ハ必ス主治醫、浴場醫ノ指導ニ從フヘシ

### 本邦溫泉ノ區別、分析表及醫療的應用

左ニ日本鑛泉誌ニ從テ全國ノ溫泉ヲ分テ單純泉、酸性泉、炭酸泉、鹽類泉及硫黃泉ノ五種トナシ登載ス

但シ温度ハ華氏檢温器ニ從フ

### 第一 單純泉

此泉ハ多少高温ヲ有スル尋常ノ水ニノ唯僅ニ千分中、凡〇、五分以下ノ鹽類ヲ溶存スル者ヲ云フ但シ硫化水素瓦斯、炭酸瓦斯或ハ他ノ瓦斯類ヲ含存スルコトナシ

○上野國西群馬郡湯上(六十一度)

○相模國足柄下郡湯本(百度)同郡堂ヶ島ノ夢想湯(百十八度)神仙湯(百三十二度)

○伊豆國賀茂郡下田町赤間(八十五度)田方郡吉奈(百〇五度)

- 駿河國安倍郡梅ヶ島(百十度)
- 甲斐國東山梨郡平等村岩下湯(八十九度)同南都留郡瑞穂村尾垂(五十七度)
- 信濃國東筑摩郡岡本村、上淺間湯(百十一度乃至百廿七度)同、下淺間湯ノ寶湯(百十六度乃至百廿六度)目ノ湯(百度)同國小縣郡別所村ノ大湯(百十一度)玄齊湯(百十一度)
- 美濃國土岐郡釜戸村釜戸湯(七十一度)
- 越中國婦負郡下茗村下茗湯(七十六度)同、下新川郡平野村西鍾釣湯(温度未詳)
- 三河國東賀茂郡笹戸村笹戸湯(六十八度)
- 伊勢國三重郡菰野村(八十五度)同國一志郡柳原村湯ノ山、柳原湯(七十五度)
- 紀伊國東牟婁郡湯川村在ノ内ノ濱湯(百〇二度)
- 陸中國稗貫郡湯口村大澤湯(百十六度乃至百四十六度)
- 磐城國東白川郡湯岐村湯岐湯(百度)同國石川郡田畑村泉(冷)(五十七度)同國檜葉郡折木村、鷲ノ湯(六十八度)同國田村郡谷津作村谷津湯(八十一度)
- 越後國岩船郡湯澤村高瀬湯(百五十度)同國、南蒲原郡矢田村矢田泉(冷)(六十度)

- 同國、南魚沼郡湯澤村湯澤湯(百二十度)同北魚沼郡大湯(百二十度)
  - 出雲國仁多郡湯村三澤湯(百〇七度)
  - 石見國那賀郡上有福村上有福湯(百〇八度)
  - 備後國奴可郡油木村油木湯(七十二度)
  - 長門國大津郡深川村湯本禮湯(九十二度)恩湯(九十一度)同國同郡俵山村湯町ノ新湯(九十二度)猿湯(同度)
- 伊豫國溫泉郡道後村湯月町道後湯
- (一ノ湯) 半透明無臭無味ナリ其反應ハ亞兒加里性ニシテ含有スル所ノ各成分左ノ如シ精密ノ分析表ナキヲ以テ暫ク之レヲ掲ク

亞兒加里	少量	礬土	痕跡	鐵	痕跡	硫酸	僅微
鹽酸	痕跡	硼酸	同上	硅酸	同上	炭酸	僅微
合計	〇、三四瓦	温度	百十度 <small>一日間ト雖モ寒暑晴雨ニ由テ昇降アリ</small>				

- (二ノ湯) 百度 (三ノ湯) 九十度 (養生湯) (新湯) 八十度 (牛馬湯)



七十度

○位置最况 此地ハ高燥コノ山巒ヲ負ヒ田圃ニ面シ綠樹森鬱タリ一水、東ヨリ來リ其中ヲ貫流ス該地ノ氣候ハ温和コソ寒暑計三十五度ヨリ九十三度ノ間ニ在リ浴室ヲ六區ニ分チ一ノ湯二ノ湯三ノ湯共ニ一屋中ニ在リ湯槽ハ花崗石ヲ登シ廣狹各異ナリ泉源ハ一ノ湯東北隅ノ地ニ在リ其上ニ白様ニ穿テタル巨石ヲ三層ニ疊積シテ壺形ヲナシ土人湯釜ト稱ス泉水其中ヨリ沸騰シ石筧之ヲ受ケテ各槽ニ分派ス諸湯共ニ樓ヲ浴室ノ上ニ造リ酒菓ヲ供ノ客ヲ遇ス第四第五ヲ養生湯ト爲シ亦一屋ヲ以テ之ヲ構フ浴槽ノ四周石ヲ登シ庭ニ白砂ヲ敷キ一ノ湯ノ末流ヲ受ケ又沙底ヨリモ涌出ス病者多ク之ニ浴ス第六ヲ牛馬湯トナス諸湯ノ流末ヲ合滌シ別ニ屋舎ノ設ナシ新湯ハ近歲ノ創設コソ室ヲ四區ニ畫シ浴槽亦花崗石ヲ以テ之ヲ作り最華麗ナリ其傍、井水ヲ引キ鹽嗽ノ用ニ供シ更ニ三層樓ヲ起シ風詠ノ處ト爲ス眺望佳絶ナリ市街戸數凡三百旅店ヲ營ム者亦多シ道路ハ松山ニ至ル十八町三津濱港ニ二里餘

(鑛泉誌ニ從フ)

牛馬ノ浴スル者  
三千〇七十八頭

他所繁盛ノ浴場ニ比スルモ人員過多ナルカ如シ然レモ今縣記ニ由ル

○筑前國御笠郡武藏村湯町武藏湯(百十四度)同國鞍手郡脇田村脇田湯(八十二度)

○筑後國下妻郡尾島村東古賀原泉(冷)(六十四度)同國上妻郡藤田村藤田泉(冷)

(六十二度)同國御井郡高良内村葛尾泉(冷)(五十九度)

○肥前國小城郡上熊川村熊ノ川湯(二百度)同國同郡古湯村ノ古湯(九十六度)新湯

(温度未詳)

○肥後國山鹿郡熊入村大坪湯(九十六度)

○薩摩國薩摩郡市比野村市比野湯ノ上ノ湯(六十度)下ノ湯(九十一度)花立湯(七

十四度)同國出水郡武木村湯川内湯ノ上ノ溫泉(九十七度)中ノ溫泉(九十七度)

下ノ溫泉(九十八度)

○大隅國桑原郡木場村栗野嶽湯ノ前ノ湯(百六十四度)後ノ湯(百九十三度)

○醫療的應用

單純泉ハ其含有成分ノ少キヲ以テ殆ト尋常ノ溫湯ニ均シキカ故ニ用法其宜シキヲ得サレハ單ニ身體ヲ清潔ナラシムルノミニ止レリト雖モ適當ノ方法ニ由テ應用スルヲ

得ハ廣ク諸般ノ疾病ニ用ユルヲ得ヘシ是レ此泉ニハ特効アル成分ヲ含マサレハナリ

(イ)種々ノ慢性癱瘓麻痺斯及假性關節強直或癱瘓質斯性筋肉攣縮症及慢性痛風

(ロ)諸炎症或ハ創傷后ノ滲出物或組織肥大例ヘハ慢性肋膜炎子宮周圍蜂窠織炎、

骨盤内腹膜炎等ノ滲出或肥厚

(ハ)神經機亢盛ノ諸症或ハ各種神經ノ麻痺、經久ノ中風、知覺過敏、依ト昆垚兒、歇

私的里、神經衰弱症等但シ新發ノ腦出血、脊髓勞、腦腫瘍ヨリ來ル漸次麻痺ニハ

禁スヘシ

(ニ)婦人生殖器ノ慢性諸病

(ホ)貧血諸病及萎黃病、腺病、重病后ノ恢復期

(ヘ)慢性皮膚病、頑固ノ潰瘍、遲鈍性創傷、癩瘡、骨瘍

(ト)慢性靨雷篤病、腎孟加苔兒、膀胱加苔兒、其他經久梅毒、水銀療法后ノ患者等

〔第二〕 酸性泉 又酸性硫泉

此泉ハ多量ノ遊離硫酸、亞硫酸、鹽酸、綠礬、硼酸等ヲ含ミ特異酸性ヲ有スル者ナリ而  
ノ之ヲ三項トナス即チ主トシテ遊離硫酸或亞硫酸或ハ鹽酸ヲ有シ多量ノ瓦斯ヲ含マサ

ル尋常酸性泉、此遊離酸ノ他、多量ノ綠礬或ハ硫酸礬土ヲ含メル酸性收斂綠礬泉、他  
ノ遊離酸ノ他更ニ硼酸ヲ有スル酸性發烟泉是ナリ

○下野國鹽谷郡湯本鹽原村中ノ湯 (百六十七度)

無色透明無臭コノ甚タ微ニ酸性反應ヲ呈シ固形分一、二七三瓦ヲ含有セリ其各

成分及量左ノ如シ

硫化水素	痕跡	重碳酸加兒叟謨	〇、二九〇四
重碳酸麻屈涅叟母	〇、〇六七〇	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇〇二八
硫酸加兒叟謨	〇、〇五三〇	硫酸麻屈涅叟謨	痕跡
硫酸那篤留母	〇、五八七七	格魯兒加留母	〇、〇八六一
格魯兒那篤留母	〇、一八四七	硅酸	〇、二〇二六
磷酸	痕跡		

固形分合計一、四七四三瓦

同國那須郡湯本村那須湯ノ鹿湯(百七十二度)

同行入湯(百六十二度)

○上野國吾妻郡草津村

瀧ノ本湯(百四十八度) 熱ノ湯(百四十四度) 鷺ノ湯(百四十度) 地藏ノ湯(百四十一度) 御座ノ湯(百四十七度) 無色透明ニシテ硫化水素臭ヲ有シ酸味及鐵氣アリ反應ハ強キ酸性ナリ左ニ諸湯ノ分析表ヲ掲ク

泉名	熱湯	鷺湯	地藏湯	御座湯	瀧湯
硫酸亞酸化鐵	〇、二二八〇	〇、二六八八	〇、二六八九	〇、一六六三	〇、一九二八
硫酸礬土	一、一八〇〇	〇、〇二一五	〇、七一九八	〇、三〇五一	〇、二五八四
硫酸石灰	〇、二五五〇	〇、六三八九	〇、六〇四九	〇、七三八三	〇、六七三一
含硅酸	〇、二九九〇	〇、二三三一	〇、二一八七	〇、〇一五〇	〇、三〇八四
硫酸苦土	〇、四二〇〇	〇、二四〇〇	〇、二〇五〇	〇、四八六〇	〇、二〇三五
硫酸曹達					
硫酸加里					
酸性磷酸石灰		未	定		
磷酸		〇、〇七二八	〇、〇四五〇	〇、〇一三二	〇、〇〇七二

總量	硫酸	遊離鹽酸	有機物	有機物	總量
四、三九五三	一、三三九〇	〇、八五三〇	痕跡	同	四、〇八八六
四、〇八八六	一、八六七四	〇、七四六一		同	四、七一七六
四、七一七六	一、七五七八	〇、八八七五		同	四、七一〇八
四、七一〇八	二、一三八四	〇、八四八五		同	四、五六四五
四、五六四五	二、一一八一	〇、八〇三〇		同	

此ノ五湯ハ固形成分含有ノ量各々同シカラスト雖モ其主タルモノハ硫酸及ヒ硫酸礬土等ニシテ甚シキ収斂、防腐、下泄ノ能力アリ

○位置景況 本村ハ山間ニ在リ東北ニ面シ海面ヨリ高キヲ凡四千五百尺土地硫黃山ニ屬スル故ニ隨處ニ泉竅アリ浴舎數十戸アリ道路ハ前橋ニ二十里餘伊香保ニ十三里半

○信濃國下高井郡平穂村香野組、澁湯

大湯一名(百六十三度) 目洗湯(百廿九度) 新目瀧ノ湯(百二十九度) 飛湯(百四十九度) 旭湯(百八十八度) 大瀧湯(百四十五度) 温泉寺湯(百四十八度) 初湯、笠ノ湯(百四十九度) 綿ノ湯(百四十九度)

- 位置景況 本村東ハ上野國吾妻郡入山村西ハ本郡夜間瀬村ニ界シ南ハ白根ノ山脈起伏シ北方亦山嶽相連ル海面ヨリ高キヲ凡千六百四十三尺餘、客舎三十二戸同州浴場中此村ヲ最繁盛トス氣候ハ夏熱殊ニ甚シク冬期積雪三四尺ニ過キス道路ハ本村ノ中央ヨリ長野ニ至ル七里餘、來往運輸共ニ便ナリ上野草津ニ至ル七里餘
- 能登國珠洲郡狼煙村金ケ崎狼煙湯(五十度)
- 羽後國雄勝郡高松村泥湯ノ中ノ湯(百五十八度) 元湯(百六十七度) 川向ノ湯(百五十六度)
- 岩代國安達郡永田村深堀(百五十度) 同國信夫郡庭坂村熱湯(百十三度) 瀧ノ湯(同度) 同國伊達郡湯ノ村橋本湯(百十六度)
- 羽前國南村山郡高湯村酸川湯(百〇二度)
- 羽前國和氣郡三石村三石湯(温度未詳)
- 豐後國速見郡鐵輪村ノ溢ノ湯(百十一度) 同國同郡鶴見村 明礬地藏湯(百九十七度)
- 薩摩國川邊郡坊村長瀬湯(六十七度)

○醫療的應用

酸性泉ハ一般ニ其收斂刺戟ノ性强キヲ以テ之ヲ應用スルニハ注意スヘシ之ヲ服用スルニハ倍量ノ水ヲ加ヘ稀釋シ用ユヘシ又外用ニハ布片ニ浸シ瘡處ニ貼布スヘシ此類ノ鑛泉ハ歐洲ニハ甚ク少キカ故ニ其効用ヲ詳記セシ者アラスト雖モ大略左ノ如シ

- (イ) 劇性ノ粘液漏及慢性加苔兒
- (ロ) 癩病梅毒性潰瘍及頑固ノ潰瘍
- (ハ) 腺病惡液及粘膜ノ弛緩ヨリ來ル下利
- (ニ) 疥癬其他慢性皮膚病
- (ホ) 虛性出血等是ナリ

〔第三〕 炭酸泉

此泉ハ多量ノ炭酸ヲ有シ振盪スレバ甚シク氣球ヲ生ス

- 〔一〕 主ニ多量ノ遊離炭酸ヲ含ミ而シテ固形鹽類ヲ有スルヲ却テ僅少ナル炭酸泉此泉ハ弱酸性ナレトモ煮沸ノ后中性反應ヲ現ハス者ナリ
- 〔二〕 多量ノ炭酸外更ニ多量ノ炭酸加爾基ヲ含ミ其表面ニ白色ノ炭酸加爾基ノ皮膜

ヲ生ス

〔三〕 多量ノ遊離炭酸ヲ含ムノ外更ニ多量ノ炭酸那篤留母重炭酸那篤留母ヲ含ミ亞

兒加里性ニシテ煮沸スレハ至強ノ亞兒加里反應ヲ現セル亞兒加里性泉

〔四〕 尋常ノ亞兒加里泉ノ如ク多量ノ炭酸及炭酸那篤留母ヲ含ミ且多量ノ食鹽ヲ有

シ鹹味ヲ帶ヘル食鹽亞兒加里泉

〔五〕 多量ノ炭酸ト重炭酸鐵トヲ含有シ其表面ニ抱水酸化鐵ノ茶褐色被膜ヲ生シ之

ヲ煎熬スレハ多量ニ不溶解ノ抱水酸化鐵ヲ得ヘキ含鐵炭酸泉

○下野國鹽谷郡鹽原村字福渡、岩ノ湯(百度)

○上野國吾妻郡本宿村鳩ノ湯(百〇九度) 同國同郡田代村鹿澤湯加兒基炭酸泉(百十六

度)

○遠江國豐田郡虫生村虫生(四百三度)

○甲斐國西山梨郡稻門村有馬(七十三度)

○信濃國北安曇郡中土村小谷ノ新湯(百廿二度) 元湯(百十四度)

熱湯(百二十九度乃至百八十五度) 眼ノ湯(九十一度) 奉納湯(九十一度) 同

國同郡安曇村白骨ノ本湯(九十五度) 綿ノ湯、 疝氣ノ湯(共ニ同上) 同國小

縣郡沓掛村小倉(九十七度)

○飛彈國吉城郡上寶村平湯(百八十六度)

○越中國礪波郡西明寺村西明寺泉(六十度) 同郡祖山(百〇二度)

○加賀國河北郡松寺村松寺湯(五十三度)

○三河國北設郡夏燒村夏燒(五十二度)

○伊勢國度會郡野後(五十七度) 同郡阿曾(七十四度)、 同國三重郡西阪部村御

館(六十度)

○紀伊國日高郡龍神村龍神湯(百〇二度)

紀伊國西牟婁郡瀨戶鉛山村字濱通、瀨戶鉛山

崎ノ湯(百三十六度) 濱ノ湯(百〇六度) 元ノ湯(八十二度) 尾形ノ湯(百廿

二度) 礪湯(百〇九度) 疝氣湯(百廿二度) 粟湯(九十三度) 目洗湯(温度未

詳)

(崎ノ湯) 無色透明ニシテ臭ナク其味軟甘ニシテ且鹹シ亞兒加里反應ヲ呈シ振蕩ス

レハ氣泡ヲ生ス煮沸スレハ其性ヲ増ス「リートル」中固形分四、四二四瓦ヲ含  
有セリ各成分及其量左ノ如シ

硫酸加里	〇、〇〇七八	格魯兒加里	〇、一四五八
格魯兒曹達	一、七五四〇	重碳酸曹達	二、九五七〇
重碳酸石灰	〇、一八四一	重碳酸苦土	〇、一四三七
硫酸礬土	〇、〇一四九	硅酸	〇、二二〇八
硼酸	痕跡	沃度	痕跡
臭素	痕跡	鐵	痕跡
有機物	痕跡		

固形分合計 五、四二八一瓦

炭酸總量 二、二二〇五

遊離及半抱合炭酸二、三四九三

○山城國葛野郡上山田村嵐山(五十七度) 同村天龍寺(六十七度)

○丹後國竹野郡木津村木津(九十度)

○大和國吉野郡入之波村入之波(九十一度)

○攝津國八部郡奥平野村湊山(七十一度) 神戸兵庫ニ近接ス 同國神戸山本通五丁目諏訪山

(七十一度) 同山本通一丁目飛越(六十七度) 同焼口(七十五度)

○同國有馬郡湯山町杉ヶ谷鐵砲水(五十七度)

無色透明ニシテ硫化水素ノ微臭ヲ有シ刺戟酸味ヲ帶ヒ酸性反應ニシテ之ヲ煮沸ス  
レハ亞兒加里性ヲ呈シ「リートル」中固形分〇、一三六二瓦ヲ含有シ各成分及  
其量左ノ如シ

重碳酸那篤榴母	〇、一二一〇	格魯兒那篤榴母	〇、〇〇三八
格魯兒加榴母	〇、〇〇七六	硫酸加兒叟母	〇、〇〇七七
重碳酸加兒叟母	〇、〇二六六	重碳酸苦土	〇、〇〇四三
礬土	少量	重碳酸亞酸化鐵	〇、〇一二五
重碳酸亞酸化滿俺	〇、〇〇二一	硅酸及溶解 難キ硅酸鹽	〇、〇〇六五

有機性物

少量

合計 〇、一九二二瓦

同郡有野村五社(五十七度) 同宅原村淺谷(五十九度)

○同國武庫郡伊曾志村武庫山(五十五度)

白濁無臭ニノ味、軟甘強鹹ヲ有ス弱亞兒加里性ニシテ氣泡ヲ生ス煮沸スレハ強ク發泡シテ多量ノ白垢ヲ生シ其性ヲ加フ「リットル」中固形分二、一〇九〇瓦ヲ有ス各成分及量左ノ如シ

食鹽	一、七〇五八九	重碳酸那篤留母	一、六八四二
格魯兒加留母	一、一五三二〇	重碳酸加兒叟母	二、三二五四七
重碳酸苦土	〇、二九一〇九	矽酸	〇、〇八五三八
礬酸	僅量	礬土	〇、〇四五九二
格魯兒	著明	重碳酸亞酸化鐵	微量
碳酸	多量	有機物	少量

固形分合計 二二、六四五〇六瓦

武庫山麓ノ松林中ニ在リ車馬往來便利ナリ

○播磨國飾西郡鹽田村鹽田(六十度)

○陸奥國西津輕深浦村鹽申湯(八十六度)

○陸中國鹿角郡小坂村湯ノ臺(温度未詳)

○羽後國雄勝郡島等村小安(百〇四度) 同國南秋田郡湯本(百二十九度)

○陸前國玉造郡大口村川度(百二十三度)

○岩代國信夫郡土湯村下ノ町下ノ湯(百〇九度)

○羽前國最上郡角川村支村今熊野(九十三度) 同郡南山村支村肘折ノ疵湯(百五十度)

○越後國北蒲原郡瀧谷村蟹湯(百五十度) 同國北魚沼郡時水村時水(六十四度)

同郡櫻町村櫻町(温度未詳) 中頸城郡關山村關山(温度未詳) 同郡一本木新田

字赤倉赤倉ノ本湯(温度未詳) 西頸城郡大所村薄原(七十五度) 伯耆國久米郡

關金驛關金(百十六度) 同國河村郡三朝村三朝(百三十七度)

○備中國賀陽郡西山内村字湯ノ原、西山内(六十六度)  
 ○美作國真島郡仲間村眞賀(百〇四度)  
 ○土佐國土佐郡圓行寺村字奈路、圓行寺(掲ケナシ)  
 ○伊豫國喜多郡宇川村字小藪、宇和川(六十四度)  
 ○豊後國速見郡別府村別府ノ楠湯(百度) 不老ノ湯(百二十五度)  
 長石ノ湯(百〇九度) 中津屋ノ湯(百卅二度) 野田湯(百十三度) 本村ハ海ニ瀕シ海陸來往便利ナ  
 同郡濱脇(百二十五度) 同郡川上村湯ノ坪(百二十五度) 乙丸(百二十七度)  
 同郡川北村沼川(百四十一度) 同國直入郡有氏村地藏(百〇七度) 疝癩湯(百十四度) 同郡長湯村湯原ノ御前湯(百〇九度) 下ノ湯(百〇七度)  
 ○肥前國杵島郡武雄村柄崎驛柄崎(百十八度)  
 無色透明ニシテ硫化水素ヲ有シ微ニ鹹味アリ弱亞兒加里性ニシテ煮沸スレハ其性ヲ加フ含有スル各成分及量左ノ如シ

重碳酸那篤留母  
重碳酸苦土

〇、五四八九  
痕跡

重碳酸石灰  
食鹽

〇、〇一四五  
〇、一六四八

格魯兒加留母  
硫化水素

〇、〇〇八八  
痕跡

硅酸

〇、〇三七〇

合計 〇、七七四〇瓦

○位置景況 四面皆山ニシテ山脈起伏シ平地ニ斗出スルヲ蓬萊山高サ凡ソト云フ泉ハ其麓、岩石ノ間ヨリ湧出シ泉池ニ滿チ石筧ヲ以テ七所ニ分派ス其浴池家屋ノ構造稍佳ナリ旅舎四十餘戸、山上ハ田野山林ヲ一望シ風景明媚ナリ浴客ノ多キヲ伊豫道後ニ次テ本邦中第二ニ位ス同國藤津郡上宿村嬉野(二百〇三度)  
 ○肥後國阿曾郡河野村地獄(百〇四度) 同郡長野村湯ノ谷ノ一ノ湯 (百八十五度) 同郡滿願寺村滿願寺湯(百〇四度) 同國球摩郡宮原村舟川(七十八度)  
 ○日向國西諸縣郡昌明寺村湯ノ元(百〇二度)  
 ○薩摩國阿多郡伊作郷湯ノ浦(百五十二度) 同國薩摩郡入來郷副田村木場(温度未詳) 同柴垣(六十九度)  
 ○大隅國桑原郡中津川村折橋(百十一度) 同郡宿窪田村鹽浸シホビタリノ中ノ温泉(百二十度) 下ノ温泉(百二十八度) 同村安樂(百二十九度) 同村新湯(百二十九度)



○醫療的應用

此泉ハ數種ノ小別アルカ故ニ各其効用ヲ掲ルコト左ノ如シ

(甲) 單純炭酸泉

單純炭酸泉ハ本邦ニ至テ希ナリ多クハ冷泉ニシテ清涼飲料ニ供スル者トス之ヲ飲用スレハ口内ニ一種刺戟様ノ美味ヲ覺ユ胃中ニ至レハ輕ク胃粘膜神經及筋層ヲ刺戟シ胃液分泌ヲ増シテ消化ヲ催進ス又泌尿ヲ增加スルカアリ

(服用)熱性病者ノ消渴劑、傷食ニ由ル惡心、嘔吐、胃病ニ由ル眩暈、頭痛ニ効アリ

(浴用)皮膚ノ神經ヲ刺戟シ或ハ麻痺セシメテ以テ新陳代謝、血液循環榮養、分泌機能ヲ催進スヘキ諸病就中、皮膚ノ知覺過敏、癢痒、神經痛、痙攣等ニ應用ス

(乙) 加爾基炭酸泉

此泉ハ極テ多量ノ炭酸ヲ含有シ冷泉ヲ多シトス稀ニ左ノ諸症ニ用ユ則チ稍收斂性アルカ故ニ浴用トシテ諸般ノ皮膚病、内服ニハ消化不良、腺病、佝僂病等ナリ

(丙) 亞兒加里性炭酸泉

此泉ハ内用浴用共ニ最モ緊要ナル泉ニシテ殊ニ飲用ヲ効アリトス之ヲ浴用スレハ

皮膚ヲ刺戟シ皮脂ヲ石鹼化スルカアリ其病症ハ左ノ如シ

(イ)慢性胃加苔兒、酸性泡釀ノ消化不良及胃ノ圓形潰瘍等殊ニ慢性胃加兒ニ早

朝嘔吐ヲ發スル者ニ効アリ

(ロ)慢性腸加苔兒及下腹充血

(ハ)肝充血見及膽石

(ニ)喉頭咽喉ノ慢性加苔兒及慢性氣管枝加苔兒

(ホ)慢性肺炎及胸膜或ハ腹膜内ノ滲出物

(ヘ)尿道膀胱及腎盂ノ加苔兒

(ト)腎石及膀胱結石

(チ)婦人生殖器ノ慢性加苔兒

(リ)痛風、蜜尿病

(ヌ)腺病、肥胖病及多血病等ニ應用ス

(丁) 食鹽性亞兒加里泉

此泉ハ食鹽ヲ含ムヲ以テ殊ニ有効ノ者トス其用法ハ丙種ニ同シ、食鹽ハ胃液分泌

ヲ促シ食思ヲ進メ腸ノ蠕動ヲ催シ大便ヲ通利スルカアリ故ニ内用ニ適ス其應用ス  
ヘキ諸病左ノ如シ

(イ)各種ノ肺患、喉頭及咽頭ノ慢性加苔兒

(ロ)慢性氣管枝加苔兒、喘息等

(ハ)肝、胃、腸諸病及婦人生殖器加苔兒其他亞兒加里性泉ヲ用ユル諸病ニ効アリ

(戊) 含鐵炭酸泉 即チ鋼鐵泉

此泉ハ鐵及炭酸ノ外、多量ノ鹽類或ハ亞兒加里鹽類ヲ含有スルカ故ニ鹽性含鐵炭  
酸泉、亞兒加里性含鐵炭酸泉、加兒基性含鐵炭酸泉、ニ區別ス第三ハ多ク冷泉ナリ  
鹽性含鐵炭酸泉ハ内服スルニ鐵ノ効用ノ他、下利ノ功アリ亞兒加里性含鐵炭酸泉  
モ稍下利ノ効アリ一般ニ含鐵炭酸泉ハ内用外用共ニ稱用シ左ノ諸病ニ用ユ

(イ)貧血、痔疾或ハ外傷ニ由リ大ニ出血シタル後又ハ一時大ニ出血セサルモ經久  
ノ出血后及萎黃病

(ロ)貧血性消化不良及慢性下利

(ハ)白血病、脾臟腫大

(ニ)貧血ニ因スル慢性水腫及失荷兒陪苦

(ホ)快復期ノ遲慢ナル者

(ヘ)依ト昆瑤兒、歇私的里ノ諸病

(ト)胃痛、三叉神經痛及腰腎痛

(チ)一般神經病及月經不調

(リ)未タ月經ヲ見サル婦人ノ鬱憂病及胃弱ニ因スル全身疲勞

凡ソ鐵泉ハ皮膚ヨリ吸收セラル者ニアラサルカ故ニ主トノ飲用ヲ行フヘシ

#### 〔第四〕 鹽類泉

此泉ハ一般ニ多量ノ鹽類例之食鹽、硫酸那篤留母、硫酸苦土等ヲ含ミ而シテ多量ニ硫化  
水素或炭酸ヲ有セサル者ニシテ左ニ掲ルカ如シ

(一) 反應中性ニシテ苦鹹ノ味ナク適宜、鹽分ヲ含メル弱鹽類泉

(二) 亞兒加里性食鹽泉ニ均シク亞兒加里反應ヲ有シ煮沸スレハ殊ニ其性ヲ加ヘ稍  
刺戟鹹味アル亞兒加里鹽泉

(三) 他ノ鹽類ノ外、多量ノ硫酸那篤留母ヲ含有スル芒硝泉

〔四〕 他ノ鹽類ノ外、多量ノ硫酸麻屈涅叟母ヲ有スル苦味泉

〔五〕 他ノ鹽類ノ外、多量ノ硫酸加兒基即石膏ヲ有シ其性硬ナルカ故ニ洗濯ニ供用スル克ハサル石膏泉

〔六〕 他ノ鹽類ノ外、多量ノ食鹽ヲ有シ鹹味アル食鹽泉

〔七〕 食鹽ノ外、沃度或貌魯謨ノ痕跡著明ナル沃度或臭素泉

○下野國鹽谷郡下鹽原村鹽ノ湯ノ岩ノ湯(百十三度) 冷ノ湯(百二十五度) 中ノ湯(温度未詳) 那須郡湯本村相ノ湯(百二十九度) 同國同郡板室村鹽澤(百〇二度)

○上野國西群馬郡伊香保村(原泉八所) (百二十一度)

無色透明無臭ニシテ鐵性及弱鹹味ヲ有ス反應ハ弱酸性ニシテ固形分一、六三二六瓦ヲ含有セリ各成分及量左ノ如シ

重碳酸石灰	〇、四四五八	重碳酸苦土	〇、一五九一
重碳酸亞酸化鐵	〇、〇二一四	硫酸石灰	〇、四四九八
硫酸苦土	〇、一三五〇	硫酸那篤留母	〇、三二二九

格魯兒那篤留母	〇、一八四三	格魯兒加留母	〇、〇〇七四
硅酸	〇、一一六七		

合計 一、八八七四瓦

○位置景况 本村ハ山腹ニ位シ正北ヨリ漸ク東ニ面シ南方、山ヲ背ニス海面ヨリ高キヲ凡三千尺、泉ハ人家ヨリ西南八町許ノ山後ノ溪間凡二丁以内ノ處八所ニ湧出ス浴戸十四宇皆層樓ヲ構フ其他客舎數十戸道路ハ至便、東京ニハ三十五里十七丁余高崎ニハ七里二十二丁余

同國吾妻郡四萬村ノ新湯(百八十三度) 山口湯(百三十五度) 日向見湯(百三十二度) 同郡上澤渡村澤渡(百〇二度乃至百二十七度) 同國碓氷郡松井田六反田(六十五度) 同國新田郡藪塚村藪塚(六十度)

○上總國望陀郡黃和田畑村(六十度)

○相摸國足柄下郡底倉村字宮ノ下 三日月湯(百四十度) 熊野ノ湯(百廿五度) 吉田湯(百十四度)

其含有スル各成分及量左ノ如シ

三 派 泉 名	吉 田 ノ 湯	熊 野 ノ 湯	三 日 月 ノ 湯
硫酸曹達	〇、〇三一〇	〇、〇三五八	〇、〇六五六
食鹽	一、七二七九	〇、七〇五六	一、五八八八
格魯兒加里	〇、〇三九二	〇、〇六六四	〇、〇〇五二
格魯兒苦土	〇、〇三六〇	痕跡	痕跡
玻酸	〇、〇八八七	〇、〇六五八	〇、一二六二
炭酸亞酸化鐵	痕跡	同	同
有機物	痕跡	同	同
格魯兒加兒叟謨	〇、〇八五八	〇	〇
炭酸石灰	〇	〇、一九八一	〇、一八一八
炭酸苦土	〇	〇、〇〇九〇	〇、〇六二三
貌魯謨加里	〇	痕跡	〇

磷酸  
礬土  
硫酸石灰  
硫化水素

總

量

一、〇〇八六

一、〇八〇七

二、〇五六八

同

痕跡

〇、〇二五二

〇、〇〇一七

○伊豆國賀茂郡熱海村

無色透明ニシテ臭ナク鹹シ中性ノ反應ヲ呈シ「リットル」中固形分九、二三五瓦  
ヲ有シ其各成分及量左ノ如シ

含有成分	大湯(二百〇九度乃 至二百廿六度)	蒸氣水(「リ ットル」中成分)	目ノ湯(百四十三度)
食鹽	五、四〇九	〇、三九五二	四、七八八
格魯兒加榴母	〇、三五四	〇、〇八四三	〇、三五四
格魯兒石灰	二、八九三	〇、〇二九八	二、五九八
格魯兒苦土	〇、〇一四五	痕跡	〇、〇四二

硫酸石灰  
 重碳酸亞酸化鐵  
 重碳酸石灰  
 硅酸  
 第一鹽化滴俺  
 貌魯母那篤留母  
 貌魯母加留母  
 有機物

〇、一三二三  
 〇、〇〇二  
 痕跡  
 〇、五二四八  
 痕跡  
 同上  
 同上  
 同上

〇  
 〇  
 〇  
 〇、〇〇〇七  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇  
 〇

〇、一四五  
 〇、〇〇一  
 〇、〇〇五  
 〇、一五一  
 痕跡 但シ酸化  
 満俺  
 〇 貌魯母痕跡  
 〇  
 痕跡

合計九、三二八七瓦

蒸氣二百十度乃至熱度二百二十六度

合計八、〇八八四瓦

○位置景況 本村ハ州ノ東北隅ニシテ伊豆山ノ南、日金山ノ東麓ニ在リ温泉二十餘所市街ノ間ニ湧出ス大湯ハ上町ニ在リテ海面ヨリ高キヲ七十四尺ナリ湯池疊石ノ間ニ湧出口アリテ一定ノ時期ヲ刻シ熱湯ト蒸氣トヲ交互ニ湧出ス其初メ沸騰ノ響、地底ニ發シテ雷鳴ノ如ク漸々熱泉ヲ迸出シ其盛ナルニ當リ一丈餘ヲ距

ル前面ノ石ニ注射ス暫クニノ勢、減シ次テ蒸氣ヲ噴出シ地底亦鳴動シ蒸烟四方ヲ蔽ヒ殆ト咫尺ヲ辨セス少頃ニ蒸氣衰ヘ再ヒ熱湯ヲ出シ復蒸氣トナル此ノ如キ間凡一時半ニ止ム一晝夜凡五次トス是レ定期噴泉即チ「ガイシル」ナリ氣候ハ温和ニシテ晴雨降雪ハ東京ト大差ナシ夏秋最モ繁盛ニシテ冬春モ亦寒ヲ避ルニ宜シ風ハ春ハ西風多ク次テ東風ニ南風最モ少シ夜間ヨリ朝マテ東風ナリ但シ三月ヨリ烈キ西風ヲ起スヲアリ此時チ一年中ニ最モ不穩ノ候トス夏ハ午前東風、午後南風、アリ道路ハ東京ニ二十八里二十八丁餘小田原ニ七里三島ニ五里

○同國同郡伊豆山(百四十四度) 同郡松原ノ猪々人ノ湯(百十八度)

○同蓮臺寺藥師湯(百二十度) 同郡谷津村立岩(百四十度)

○同國君澤郡修善寺村

本泉含有スル各成分及量左ノ如シ

含有成分	獨鈷湯(百四十度)	眞湯 (百二十度)	河原湯(百四十七度)
食鹽	〇、五一〇八	〇、五七七五	〇、四六〇七

格魯兒加留母	〇、〇一九五	〇、〇三九八	痕跡
硫酸那篤留母	〇、四一五一	〇、四一五五	〇、四四六五
炭酸那篤留母	〇、〇二八三	〇、〇一六六	〇、〇五八一
炭酸加兒叟謨	〇、〇八七八	〇、〇一〇〇〇	〇、〇六三九
硅酸	〇、〇五六五	〇、〇六二〇	〇、〇五一九
貌魯母加留母	痕跡	痕跡	痕跡
炭酸亞酸化滿俺	同上	同上	同上
炭酸苦土	〇	痕跡	同上
有機物	痕跡	同上	同上
合計一、一一八〇瓦	合計一、二二一四瓦	合計一、〇八一瓦	

以上三湯ノ他尙十二湯アリ其温度百十四度乃至百八十五度ナリ同郡古奈(百三十一度)

〇駿河國志太郡志太村鹽場ヶ谷(七十六度)

〇甲斐國西山梨郡上府中組愛宕町三藤(六十六度) 同郡大宮村新湯(九十二度)

〇信濃國下高井郡平穗村安臺ノ開化湯(百三十二度) 疝氣湯(百三十三度) 同郡佐野村角間(百三十一度乃至百四十二度) 同國東筑摩部里山邊村白絲(百〇五度) 同郡下諏訪(百〇七度乃至百十八度)

〇美濃國武儀郡立花村湯ノ洞(五十度)

〇越中國婦負郡山田(百度) 同下新川郡山崎村小川新湯(二百廿五度)

〇越前國丹生郡天谷村天谷(六十七度)

〇加賀國石川郡湯涌村(百度) 同能美郡辰口(七十八度) 同江沼郡山中(百十八度) 同郡山代(百六十五度)

〇能登國鹿島郡和倉(百八十度)

〇伊勢國多氣郡丹生村潮ノ湯 (五十八度)

無色透明無臭ノ味ハ軟甘ナリ中性ノ反應ニシテ煮沸スレバ亞兒加里ヲ呈ス其一「リットル」中各成分及量左ノ如シ

硫酸加里	痕跡	格魯兒加里	〇、〇三五〇
格魯兒那篤留謨	〇、九五六六	硼酸曹達	著明

重碳酸曹達  
重碳酸苦土  
礬土  
炭酸

〇、二八六六  
〇、一〇四三  
〇、〇三五四  
著明

重碳酸石灰  
重碳酸亞酸化鐵  
硅酸  
有機物

〇、二七二六  
痕跡  
〇、〇五二三  
少量

總量 一、八四二八瓦

○位置景況 本村ハ飯高郡松坂ノ西南ニノ山峯遠ク四面ヲ圍ミ地勢平坦風景稍佳ナリ泉ハ市街ノ路傍ヨリ湧出シ石ヲ以テ井狀ヲナス道路ハ松坂ヲ距ル凡四里、相可村ニハ二里許甚ク險ナラス

○攝津國有馬郡湯山町有馬 一ノ湯 二ノ湯(百度)

冬時ハ含水酸化鐵、亞酸化鐵ノ游離セルカ爲メ水中全ク混濁シテ赤茶褐色ヲナシ夏時ハ澄清ニシテ遊離炭酸少許ヲ含ミ味甚ク鹹ク澁齧ナリ弱酸性ニシテ之ヲ煮レハ亞兒加里性ヲナシ「リートル」中ノ各成分及量左ノ如シ

格魯兒那度留母  
格魯兒加留母

一四、七一七  
一、二八一

貌魯母那篤留母  
格魯兒安母紐母

〇、一〇五  
〇、〇一三

格魯兒利胃母

痕跡

格魯兒麻苦涅留母

〇、二四一

格魯兒加兒叟母

二、八九六

硫酸加兒叟母

〇、〇一四

格魯兒亞兒蜜鳥母

〇、〇二九

酸化滿俺亞酸化滿俺重碳酸亞酸化滿俺ト爲リテ水中ニ溶解スル者

〇、〇五五

酸化鐵重碳酸マ化鐵トナリテ水中ニ溶解スル者

〇、二四六

硅酸

〇、〇五八

有機物

僅量

此泉ハ獨逸國「コロウキツナグ」ノ鐘泉ヨリ鹽類ヲ含ムヲ特ニ多ク鐵分ヲ溶化スルヲ八倍多シトス

○位置景況 東西南ノ三面ハ連山ニノ北ハ開濶、田野ヲ望ム海面ヨリ高キヲ凡千百五十五尺浴場ハ一區ニシテ二分シ其南チ一ノ湯北チ二ノ湯ト稱ス旅舍壯麗ナリ道路ハ兵庫神戸ニハ車馬往來ニ便ナリ住吉、大坂ニハ險惡ニシテ僅ニ肩輿ヲ通ス

○但馬國城崎郡湯島浴場十一所アリ(百七度ヨリ百四十度ニ至ル)  
同國二方郡湯村(百七十二度)

- 陸奥國東津輕郡淺虫浴場八所(百三十四度乃至百七十度)アリ
- 南津輕郡藏館(百五十四度)
- 陸中國稗貫郡臺村字湯ノ澤(百五十八度)
- 羽後國北秋田郡十二所町大瀧ノ鶴湯(百四十五度) 芒ノ湯(百四十三度) 新ノ湯(百三十六度)
- 磐城國刈田郡藏本村鎌先(百二十度) 同郡宮村遠刈田ノ中ノ湯(百十四度) 東ノ湯(百二十四度)
- 陸前國柴田郡前川村青根ノ大湯(百度) 新湯(百廿度) 名號湯(百二十七度)
- 同宮城郡作並新湯(百三十二度) 同黒川郡吉田村臺ヶ森(六十六度) 同玉造郡大口村赤湯(百二十五度) 同栗原郡花山村温湯(百二十七度)
- 岩代國信夫郡上飯坂村鯖湖(百〇五度) 伊達郡湯野村新湯(百〇九度) 同耶摩郡磐根村西窪(六十六度) 同國北會津郡湯本村居平ノ目洗湯(百十一度) 漣湯(百二十四度) 瀧ノ湯(百二十度) 同郡同村狐湯(八十二度)
- 羽前國南村山郡脛ノ温湯(百廿五度) 冷ノ湯(百三十度) 同東置賜郡赤湯ノ

大湯(百十一度)

- 越後國南魚沼郡三俣村貝掛(百度)
- 因幡國高草郡吉岡ノ上ノ温泉(百三十四度) 同岩井郡岩井(百十七度) 八上郡曳ヶ田村湯谷(九十三度)
- 出雲國意宇郡玉造(百四十九度)
- 石見國安濃郡志學(百〇八度) 同邇摩郡温泉津(百十五度)
- 美作國勝南郡湯郷(九十六度) 大庭郡湯本(百〇七度)
- 長門國豐浦郡川棚村鍵湯(九十一度)
- 周防國吉敷郡下宇野領村湯田(百十度)
- 豊後國速見郡南立石村觀海寺(百四十二度) 同郡鐵輪ノ熱ノ湯(百廿七度) 同郡龜川村平田(百三十六度) 同所谷川村湯ノ平、浴場五所(百廿五度乃至百九十七度)アリ
- 肥前國南高來小濱浴場五所(百三十一度乃至二百十二度)アリ
- 肥後國阿蘇郡河陽村檜本(百〇二度)小里林湯山(九十一度) 球摩郡林(百〇四



度)

○薩摩國揖宿郡十町村六反田(百三十二度) 同國日置郡市來郷湯田村市來ノ上ノ湯(百十八度) 下ノ湯(百十六度)

○大隅國桑原郡三體堂村關平(百二十七度) 同栗原郡中津川村栗川(百五十二度) 大隅郡櫻島有村(百〇二度) 同有村新湯(百十三度)

○醫療的應用

鹽類泉ハ其含有スル主成分ニ從テ之ヲ分テ左ニ適症ヲ示ス

- 〔一〕「普通ノ弱鹽泉」ニ其鹽分ノ量千分ノ二以下ナルハ其効單純泉ト大差ナシ
- 〔二〕「芒硝泉」ハ内服、外用共ニ苦味泉ト同効ヲ有ス即チ
  - (イ) 脂肪過多症
  - (ロ) 慢性便秘即常習便秘殊ニ坐業者ノ便秘
  - (ハ) 全身多血及逆上
  - (ニ) 肝臟肥大、充血、門脉閉塞及痔疾
  - (ホ) 腸ノ慢性加苔兒及神經性弛緩、下腹充血

- (〜) 依ト昆涇兒及歇私的里家ノ便秘
- (ト) 或ル心臟病

〔三〕「苦味泉」ハ内外兩用皆芒硝泉ニ同シ

〔四〕「義布斯泉」又石膏泉内服ハ希ナレバ外浴ハ種々ノ慢性皮膚病ニ稱用ス

〔五〕「食鹽泉」ハ多量ノ食鹽ヲ含マサル者ハ内用外用共ニ佳ナリ

- (イ) 消化不良、慢性胃加苔兒、胃潰瘍、食思欠乏、胃壁弛緩及胃擴張症
- (ロ) 慢性腸加苔兒、常習便秘、腸管弛緩及下腹充血
- (ハ) 肝臟病、脾腫大及腺病、多血病、肥胖病
- (ニ) 慢性氣管枝加苔兒、咽喉、喉頭加苔兒、助膜滲出物
- (ホ) 子宮腫脹及潰瘍、子宮周圍蜂窠織炎后、子宮周圍腹膜炎后及腹膜炎后ノ滲出物或ハ病的新生物ヲ解散ス
- (〜) 骨諸病、骨瘍、腐骨疽、佝僂病ノ類、水腫病
- (ト) 總テ慢性ノ滲出物、水脈腺腫、慢性子宮炎、卵巢炎、攝護腺炎、乳腺炎等ニ効アリ

(十) 浴用ト爲スヘキ皮膚病ハ乾癬、汗ノ分泌過多、皮脂流溢黃班、慢性蕁麻疹、急性發疹病ノ恢復期、鞏皮症、鱗癬及腺病家、貧血家ノ濕疹等

(六) [沃度或ハ貌魯謨ヲ含メル鹽類泉]ハ左ノ諸症ニハ内服外用ニ供スヘシ

(イ) 腺病

(ロ) 諸内臓ノ滲出物

(ハ) 儂麻質斯性滲出物

(ニ) 慢性皮膚病

(ホ) 經久梅毒及慢性腺腫

(ヘ) 子宮腫瘍及硬結等

〔第五〕 硫黃泉

此泉ハ多量ノ硫化水素ヲ含有シ臭氣アリ或ハ亞兒加里性硫化金屬ヲ含有スル者ニシテ左ニ掲ルカ如シ

(一) 多量ノ硫化水素瓦私ヲ含有シ而シテ鹽類ヲ溶解スルコト僅少ナル單純硫黃泉

(二) 多量ノ硫化水素ヲ含ミ多量ノ鹽類ヲ含メル鹽類性硫黃泉

(三) 多量ノ硫化水素ヲ含ミ且多量ノ炭酸那篤留母或重炭酸那篤留母ヲ含メル亞兒加里性硫黃泉

○下野國上都賀郡日光湯本ノ河原湯(甲)百四十九度 裸湯(百十六度)

純子湯又藥師湯(百五度) 瀧ノ湯(百十八度)

(御所ノ湯) 無色稍混濁シ硫化水素ノ強臭アリ殆ト無味ニシテ極微ノ酸性ヲ呈ス其各成分及量左ノ如シ(百四十九度)

硫化水素	〇、〇四五三	重炭酸加兒叟母	〇、〇六二四
硫化加兒叟母	〇、四七四七	硫酸麻屈涅叟母	〇、〇二五四
硫酸加留母	〇、〇五九三	硫酸那篤留母	〇、二八五六
格魯兒那篤留母	〇、一三三五	硅硫	〇、〇九二五
不溶解物 <small>硫黃及炭酸加兒基</small>	〇、〇一二二	鐵	痕跡

合計 一、一九一五瓦

(温度前ニ同シ) 笹湯(百四十五度) 中湯(百二十三度) 荒湯(百五十六度) 自在湯(前ヨリ低度) 蓼ノ湯(百二十二度)

○相摸國足柄下郡蘆ノ湯ノ仙液湯(百七度) 達摩湯(九十八度)  
(蘆ノ湯) 其一千立方仙迷中、含有セル成分及量左ノ如シ

硫酸那度留謨	〇、一一一三	游離硫化水素	〇、〇三一八
硫酸加留謨	〇、〇一八〇	游離炭酸	〇、一〇八八
硫酸石灰	〇、二一九五	格魯兒	痕跡
重碳酸石灰	〇、〇一五〇	次亞硫酸	少量
重碳酸苦土	〇、一二五五	礬土	少量
硅酸	〇、一六〇〇	鐵	痕跡
硫酸安母紐謨	〇、〇一九二	有機物	稍多量

固形分合計 〇、六二二〇瓦

○信濃國下高井郡平穗村湯田中ノ大湯(百六十三度) 脚氣湯(百五十八度) 鶴湯  
綿湯、鷲ノ湯、瀧ノ湯(百三十七度乃至百五十四度) 千代ノ湯(百六十八度) 同  
郡豊郷村ノ總湯(百四十六度) 新田湯(甲)百四十八度 河原湯(百四十九度) 寺  
湯(温度未詳) 麻釜ノ湯(百六十七度乃至百九十六度) 桐湯(百六十八度) 瀧

湯(百六十五度) 上照湯(百五十度) 同國諏訪郡上諏訪浴場十二所(百二十二  
度乃至百八十三度)アリ

同小縣郡別所村院内ノ石湯(百十三度) 久我湯(百五度) 大師湯(百十一度)  
倉澤湯(百〇八度) 同郡田澤村那須ノ草湯(百五度) 仙人湯(百四度) 有乳湯  
(九十九度)

○加賀國能美郡粟津(百十六度)  
○紀伊國東牟婁郡湯ノ峯ノ光明湯(百六十八度)

同郡勝浦村赤島

無色透明ニシテ硫化水素臭ヲ有シ不快ノ鹹味アリ亞兒加里ノ反應ヲ呈シ煮沸ス  
レハ其性ヲ加ヘ稍混濁ス其各成分及量左ノ如シ

硫酸加留謨	〇、〇一二九八	格魯兒加留謨	〇、一二〇一二
格魯兒那篤留謨	一、六四六一三	格魯兒加兒叟母	〇、四八七二〇
貌魯母麻屈涅叟母	〇、〇〇〇一五	次亞硫酸加兒叟母	〇、〇四八二二
礬土	〇、〇〇二四八	硅酸	〇、一〇三九六

利智母  
沃度  
有機物

痕跡  
痕跡  
痕跡

硼酸  
鐵

痕跡  
痕跡

固形分合計量 二、四二〇九三瓦

以上成分ノ他硫化水素瓦斯 〇、〇三六八 炭酸總量 〇、〇八一四瓦游離及半抱合  
炭酸 〇、〇五三二瓦ヲ含有セリ

○陸奥國中津輕郡常盤野村嶽ノ湯(百十三度乃至百八十三度)

○陸中國南岩手郡繫村(百六十九度)

○羽後國仙北郡生保内村黒湯ノ熱ノ湯(百六十六度) 冷ノ湯(百七十四度) 同國

由利郡金浦村(五十九度)

○陸前國玉造郡鳴子村瀧ノ湯(二百十二度) 同鬼魯村荒湯(百四十五度)

○岩代國耶摩郡蠶養村沼尻(百五十度)

○羽前國度置賜郡赤湯(百十一度) 西田川郡温海(百五十一度) 同郡湯野濱村ノ

上ノ湯(百十七度) 下ノ湯(百十三度) 新湯(温度未詳)

○越後國北魚沼郡上折立村椽尾又村(温度未詳)

○肥前國南高來郡小濱村温泉嶽ノ延曆湯(百四十九度) 明治湯(二百〇四度) 金

華湯(百六十七度)

○肥後國山鹿郡山鹿ノ龍湯 (百度)

龍ノ湯 無色透明無味ニシテ微ニ硫化水素ノ臭ヲ有シ弱亞兒加里反應ヲ呈シ  
沸スレハ其性ヲ増シ「リートル」中ニ含有スル各成分左ノ如シ

重碳酸那篤留母 〇、一六五八

重碳酸加留母

痕跡

重碳酸亞酸化鐵

痕跡

格魯兒那篤留母

〇、〇一四六

硫酸加兒叟母

〇、〇一七二

硫酸麻屈涅叟母

痕跡

硅酸

〇、〇三七二

磷酸

〇、〇〇二三

硫化水素

痕跡

合計 〇、二三七二瓦

櫻湯(前湯ニ同温度) 瘡治湯(九十三度)

○大隅國桑原郡下中津川村硫黃谷(百四十一度) 同明礬山(百三十度乃至百五十四度) 同榮之尾(百六十七度) 同噲啖郡福山宮ノ下(六十八度) 福山宮ノ脇(六十八度) 大隅郡海瀉村飛岡(八十四度)

○醫療的應用

此泉ハ左ノ諸症ニ内服、外浴共ニ用ユルヲ得ヘシ

- (イ) 慢性筋痲麻質斯及強直、慢性痛風
- (ロ) 各種神經病ノ痲麻質斯ニ由ル者、痛風
- (ハ) 慢性皮膚病例之疥癬、白癬、禿瘡、髭瘡、癩風濕疹、乾癬、痊瘡、慢性潰瘍、膿疹及慢性丹毒等
- (ニ) 經久ノ梅毒ニ適ス而ノ潜伏セル梅毒ヲ發現セシメ沃度劑若クハ水銀劑ヲ用ヒテ之ヲ驅除スルニ宜シ則チ此泉ニ浴スレハ忽チ蓄薇疹等ヲ發スルヲ常トス因リテ梅毒性皮膚潰瘍、護謨腫、梅毒性骨膜炎及橫痃等ニ浴用スレハ効アリ
- (ホ) 下腹充血、全身多血、肝臟腫大及鉛、水銀等ノ慢性中毒ニ内服セシム

- (ヘ) 喉頭、咽頭ノ慢性加苔兒及氣管枝加苔兒ニ吸入セシメ効アリ
- (ト) 子宮及卵巢ノ慢性加苔兒
- (チ) 月經不調
- (リ) 慢性關節炎、骨病、創傷ノ炎遺殘、癰癤等

第二十章

○海水浴

海水浴ヲ行フニハ左ノ諸項ヲ知ラサルヘカラス

- (一) 海水浴ノ性質
  - (イ) 海氣 (ロ) 海水 (ハ) 波動、
- (二) 海水浴ノ用法
  - (イ) 冷浴 (ロ) 温浴
- (三) 海水浴ノ療法
  - (イ) 海水浴場ノ選擇 (ロ) 浴ヲ行フニ適セル時期

- (ハ) 浴ヲ行フ日數ノ長短及每一浴ノ時間
- (ニ) 浴ヲ行フニ適セル一日中ノ時 (ホ) 飲食攝生及浴場醫師
- (ヘ) 運動遊戲

〔第一〕 海水ノ性質

海水ハ醫療上ニハ一種ノ鑛泉即鹽類泉ト看做ス可キ者ニシテ百分中二分半或ハ三分ノ鹽類ヲ含有セリ而シテ其主成分ハ格魯兒那篤留母ナレド亦格魯兒加兒叟母、格魯兒麻苦涅叟母、硫酸曹達、硫酸加兒基及極少量ノ沃度抱合物、貌魯母抱合物ヲ含有シ有機物及其變物タル安母尼亞モ亦タ海水ニ存セルコト僅少ナラス

「ムルデル」氏ノ試驗ニ由レハ海水ノ成分ハ左ノ如シ

食鹽	二五、二	炭酸石灰	二、四
格魯兒化麻屈涅失亞	三、四	炭酸麻屈涅失亞	〇、四
硫酸麻屈涅失亞	二、九	硫酸石灰	〇、二

其他、沃度、臭素、加留謨、鐵、滿俺ノ五品ハ痕跡ヲ存スルノミ

海水浴ハ其海水ノ直ニ皮膚ニ及ホス所ノ効用ノ他更ニ生理的醫療ニ關スル次ノ三件

即チ海氣、海水及波動ニ注意セシメテ要ス

- (一) 海氣 海氣ノ性質ニ注意ス可キ者ハ左ノ四項ニ在リ
- (イ) 空氣ノ濃密 海氣ハ其窒素、酸素ノ混合ニ於テハ固ヨリ陸氣ニ異ナルコトナシト雖モ其濃密ニ至リテハ之ヲ山間大陸ノ空氣ニ比スレハ甚タ濃密ナリトス故ニ同量ノ海氣ト山氣トニ就テ測レハ海氣ハ其含メル酸素ノ量多シ是ヲ以テ海濱ニ呼吸スルルキハ其肺ニ引ク所ノ酸素自ラ多量ヲ收ムルコト得ヘシ
- (ロ) 空氣ノ清潔 海氣ハ清潔ニシテ炭酸ヲ含有スルコト少ク 殆ト陸氣ノ半量ニ過キス 瘴氣有害ノ瓦斯及有機物ノ浮游セル者モ亦甚タ少シ且海氣ハ阿巽ニ富ミ之カ爲メ防腐清潔ノ力ヲ有ス
- (ハ) 空氣ノ濕潤 海氣ハ陸氣ニ比レハ濕潤ナリトス屢海氣濕潤ノ度ヲ測リテ之ヲ陸氣濕潤ノ度ニ比較スルニ平均、水蒸氣ヲ含メルコト陸氣ヨリ半倍多キヲ徵セリ海氣及海濱ノ空氣ハ其中ニ食鹽分子ノ痕跡ヲ浮游シ又鹽酸瓦斯ノ痕跡ヲ混ス貌魯母、沃度ノ痕跡ヲ存スルコト未之テ化學的ニ徵知シ得スト雖モ然レド或ル化學士ハ海氣ニ沃度ノ痕跡ヲ含ムトノ說ヲ主張セリ

(ニ)温度ノ均一 海氣ハ其温度常ニ均一晝夜變スルヲナシニシテ陸氣ノ如ク時々變スルナシ是レ海水ノ温ノ陸地ヨリモ均一ナルニ從フ者ナリ

「ベチケ」氏嘗テ試験チ行ヒテ海氣ノ人ノ尿素分泌チ増シ而シテ尿酸磷酸ノ分泌チ減スルチ證セリ此ニ據レハ海氣ノ感得ハ人體ノ酸化作用チ催進シ其新陳代謝チ盛ナラシムル者ナルヲ明ナリ同氏又試験ニ因リテ海氣ノ食機チ興奮シ且體重チ日々増加シテ多少ノ高度ニ達セシムルヲ發見セリ

此「ベチケ」氏ノ試験ハ他人ノ實驗スル所ニ於テモ亦同一ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ單一ノ海氣ノミニノ既ニ大ニ醫療上ノ効用アルヲ知了ス可シ其効用ハ即チ酸化作用チ助ケ新陳代謝チ盛ニスルヲ以テ能ク人體ノ生活機チ興起スルニ在リトス然レ海濱即海水浴場ハ常ニ風力強キカ故ニ病ノ性質ト輕重トニ由リ浴場ノ選擇ニ注意シ癩麻質斯、呼吸器粘膜炎ノ慢性加苔兒及虛弱チ患フル人ハ背後ニ山若クハ高阜アリテ寒風或ハ烈風ヲ防ケル海濱チ撰ヒテ浴スヘシ

(二)海水 海氣中ニ棲息スルノミニノ既ニ前述ノ効用アリト雖レ海水ニ浴スルハ更ニ偉効アル者トス而シテ其浴チ行フノ初ニ在ル感得ハ大抵寒戰、悸動及呼吸短促

ナリ然レ此不快ノ感覺ハ僅ニ一瞬間ニシテ后チ忽チ快適ノ温氣チ覺エ神身和暢シ四肢活潑トナリ食鹽旺進ス

「ベネケ」氏ノ生理的試験ニ據ルニ海水浴ノ殊効ハ(イ)大ニ皮膚ノ蒸發チ増ス(ロ)尿ノ分泌量チ減ス (ハ)尿中尿素ノ分泌チ増シ而シテ尿酸鹽、磷酸鹽ノ分泌チ減ス(ニ)多少體重チ増ス(ホ)食機及新陳代謝機大ニ旺盛スルノ諸件ニ在リ而シテ海水浴ノ此ノ如キ有力ノ効用チ人身ニ致ス所以ノ因ハ果シテ何ニ在ルカ、是レ蓋シ海氣ノ助アルト冷ナル海水及其波動ノ皮膚チ刺戟スルトチ以テ尿管末梢ノ血行活潑ト神經末梢ノ作用興奮トチ致スニ在ルナリ

「フネホー」氏ハ精密ニ海水浴ノ作用チ檢査シ體温、脉搏、呼吸及體重チ測リテ次ノ成績チ得タリ

海水浴ノ作用ハ之チ第一期ト第二期トニ分ツ即チ第一期ノ作用ハ(イ)大ニ身體殊ニ其表面ノ温チ消却ス(ロ)尿管ノ末梢急ニ收縮シ一時其血行歇止スルヲ以テ血液内臓ニ充積スルニ在リ第二期ノ作用ハ(イ)數回ノ浴チナスノ后ハ大ニ一般ノ血行チ増進ス(ロ)代謝機亢盛シ動物温ノ發生増進ス(ハ)食機旺盛ス(ニ)尿素ノ分泌増

進シ尿酸鹽及磷酸鹽ノ分泌減少スルニ在リ

(二)波動 波動ノ搏撃ニ應スル筋ノ運動及筋ノ努力ハ海水浴ニ於ケル體運動ト認メ做スヘク且波動ハ更ニ神經ヲ興奮スルノ力アリテ衰弱甚シキ人ハ注意シテ直ニ強キ波動ニ接スヘカラス何トナレハ其神經系ヲ衝動スルヲ強劇ニ過キ之カ爲メ眩暈ヲ發スルヲ有レハナリ

〔第二〕 海水浴ノ用法、

海水浴ヲ別テ冷浴ト温浴トノ二法ト爲ス

(一)冷浴ハ左ノ三類ノ病ニ用フ可キ者ナリ

滋養不給ニ原因スル諸病 神經衰弱ニ原因スル諸病 皮膚弛緩ニ原因スル諸病

(イ)滋養不給ニ原因スル諸病ニ屬スル者ハ即、腺病輕症ノ腺病、腺病性ノ子、佝僂病、腺病性貧血症、腺病性萎黃病ナリ就中佝僂病ニハ殊効アリ

(ロ)神經衰弱ニ原因スル諸病ニ屬セル者ハ即チ胃腸ノ弛緩神經衰弱ニ因ル、全身或ハ局部

ノ筋衰弱、筋萎小ノ初起、筋麻痺ノ或ル種類、神經系ノ感觸過敏及歇私的里ノ各種ナリ

(ハ)皮膚弛緩ニ原因スル諸病ニ屬セル者ハ即チ佝僂質斯、皮膚過敏、感冒ノ習癖、筋強直、粘膜殊ニ呼吸器ノ慢性加苔兒、扁桃腺腫脹ノ各種ナリ

心臟病、危篤ニ進ミタル結核病、或ハ極テ脆弱ナル體質ノ人ニ於テハ海水浴ヲ用フヘカラス利ナクシテ却テ大ニ害アルヲ有リ

(二)温浴ハ温ナル鹽類泉ト其主治チ一ニシ冷浴ニ堪ヘサル患者ニ効アリ又人ノ性質ニ隨ヒ冷浴ヲ行フノ前先ツ温浴ヲ取り漸ク微温浴ト爲シ后直ニ海ニ入りテ冷浴ニ就ク可キヲ有リ乃チ温浴ヲ用フ可キ者ハ左ノ如シ

脆弱ナル人及腺病質ノ小兒 虛弱ナル歇私的里性ノ婦人

短氣ニ苦ム人温浴ヨリ始メテ漸ク冷浴ニ移ル可キ者

〔第三〕 海水浴ノ療法

(一)浴場ノ選擇 海水ハ其成分處ニ隨ヒテ差異アルヲナシト雖モ浴場ヲ開設スルノ地ヲ撰ムニハ左ノ數件ノ景況ニ注意ス可シ

(イ)浴場ノ位置 凡ソ大洋中ノ孤島ニシテ陸地ヲ隔タル處ハ陸地ノ海濱ヨリモ海水浴ノ効力大ニ優レリトス氣候モ亦孤島ニ在リテハ整一ニ頓ニ冷ナル晚風



チ生スル懾ナク陸地ノ海濱ニ於ケルカ如キニ非ス此故ニ大洋中ノ孤島ニソル浴場ハ海濱ノ浴場ニ比スレハ其効甚タ偉ナリトス只一ノ困難ト爲ス可キ者ハ患者ノ單身航旅ニ就クト注船ヲ恐怖スルト或ハ船舶ノ震盪ニ堪ヘサルト是レナリ

(ロ)海水波動ノ強弱 海潮ノ干満甚シクノ波動ノ強キ處ハ亦他ノ波動ノ弱キ處ニ比スレハ海水浴ノ効用大ニ優レリトス此理ニ據ルキハ本邦東西ノ海濱若クハ近海ノ孤島ニ於テハ海水浴ノ効用内海ヨリモ偉ナル可シ然レモ虛弱ナル人ハ内海ノ浴場ヲ取ルチ良トス

(ハ)浴場氣候ノ寒暖及強風ノ有無 北風ヲ防キ東南ノ海濱ニ位セル處及南海ノ海濱ニ位セル處ハ氣候ノ溫度均一ニ其北方ニ近ク高山隆阜ヲ以テ圍擁シタル者ハ殊ニ暖和ナリトス

大平洋中ノ孤島即チ小笠原島ノ如キハ氣候ノ均一ナルヲ他ノ各地ニ勝ルチ以テ儂麻質斯、貧血症及氣道慢性加苔兒等ノ患者ノ避冬場ト爲スニ最妙ナリ然レモ其本陸トノ距離頗ル遠ク土地產物ノ不給ナルハ實ニ便ナラストス

本邦ノ西北ニ面セル海濱ハ海水浴場ニ適セサルヲ多カラシ何トナレハ其海水ノ

波動ハ強シト雖トモ氣候不整ニノ數々變換シ且道路未ダ開ケスノ運輸ノ便チ缺クアルチ以テ病者ノ行旅太タ困難ナレハナリ新潟等ノ如キ地ニ於テハ小海水浴場ヲ開設シテ土人ノ用ニ供シ以テ他ノ浴場ニ就クノ勞チ除ク可シト雖モ然レモ壯大ノ海水浴装置ハ總テ西北ノ海濱ニ適セス唯東南海濱ニ於テ設置スヘキ者トス

海濱ト雖モ其地質岩石多ク細砂チ以テ平布シタル斜面ノ地ニ非サレハ假令氣候善良ナルモ亦浴場ニ適スヘカラス兵庫神戸ノ地ノ如キハ氣候均一ニノ北方ニ山ヲ帯ヒ寒氣チ防キ其海濱ハ白砂チ布キテ平斜面チナシ岩石ノ危險チキチ以テ海水浴場ヲ開クニ最佳ナリトス海水ノ波動ハ大洋中ノ如ク強カラスト雖モ其潮勢亦此浴チ用ユヘキ病者ニ適スルニ足レリ

海水浴ハ本邦ニ於テ未ダ其効驗チ實試セル者アラサルチ以テ今此浴場ヲ開設スルニハ先多數チ要セス只一場或ハ二場ノ善ク整理セル浴場チ適當ノ地ニ設ケ以テ漸次ニ人民チノ海水浴ノ効驗チ知ラシメ且ツ之チ用フルヲチ習慣ト爲サシメンヲチ勉ム可シ

(二)浴ヲ行フニ適セル時期 本邦ニ於テ海水浴ヲ行フ時期ハ七月、八月、九月、及ヒ十月(初旬)ヲ良シトス若シ其浴場ノ結構整頓シテ温浴、微温浴等ノ裝置モ亦タ完備セルトキハ七月以前ニ始ムルヲ得ヘシ九州地方ノ薩摩肥前等ニ於テハ既ニ六月ニ浴スルヲ得ヘシ要スルニ浴場地空氣ノ温度ト其海水ノ温度ト大差ナキヲ以テ度トナスニ在ルナリ故ニ假令差異アルモ攝氏ノ五度ヲ超ユ可カラス虛弱ノ人ハ殊ニ此ニ注意スヘシ

浴地ニ赴クニハ其旅行中可成的、快暢ヲ主トシ精神及ヒ身體ノ疲憊勞動ヲ避ケ酒色ヲ禁ス可シ旅中ニ在リテ此ノ如ク其日常ノ生活習慣ヲ變スルノ一事ハ既ニ較著ノ良効ヲ奏スル者ナリ又假令ヒ温暖ノ地方ニ赴クニモ外套、蒲團等ヲ携フルコトヲ遺ル可カラス若シ此等ノ用意ナキハ高キ地勢ノ處ニ至リテ薄夜不意ニ寒冷ニ襲ハル、ノ危険ニ遇フコアリ毛織物「フラネル」ノ襯衣ハ旅行中時ヲ撰ハス必ス携フ可キ者ナリ若シ海路ノ汽船ニ乘ラスシテ陸地ヲ取ルキハ日暮ニ及ヒテ行程ヲ貪ル可ラス寧ロ日暮ハ早ク投宿シテ寢ニ就キ味爽ニ早發スルヲ良シトス

(三)浴ヲ行フ日數ノ長短及每一浴ノ時間 浴ヲ行フ日數ノ長短ハ之ヲ一定スルコト

甚ク難シ何トナレハ各病症ニ隨ヒテ之ヲ斟酌シ且其奏効ノ度ニ隨テ伸縮スヘケレハナリ然レモ概スルニ二十五日乃至三十日ヲ通常トス但シ人ニ隨ヒ之ヨリ長キ者或ハ短キ者アルヘシ浴ヲ行フノ初ハ一日一浴ニ過キス而ノ初日ニハ久シク海中ニ在ル可ラス一浴ノ時間ハ五分時以上長キモ十分時ニ過クヘカラス浴中若シ不快ノ現症例ヘハ窘迫、動悸、眩暈、嘔氣等ヲ發スルコトアルキハ直ニ浴ヲ止メ后再ヒ行フニハ先ツ醫師ヲ頼ミテ其指揮ニ從フ可シ久シク海水中ニ在ルキハ(特トニ虛弱ノ人)第二ノ寒戰ヲ發スルコト有リ但シ其寒戰ノ感覺ハ稍各人必現ノ第一寒戰即初海水浴ニ就クノ際發シテ直ニ消散スル所ノ感覺ニ類似スル者ナリ此第二ノ寒戰ヲ覺ユル時ハ速ニ浴ヲ出テ次テ入浴スル時モ亦其時間ヲ縮ム可シ

強壯ノ人ハ海水浴ノ中期或ハ末期ニ於テ一日二回ノ浴ヲ爲シ得ヘシ然レモ二回ノ浴ヲ爲スルハ其一回ノ時間ヲ縮メテ五分時ニ過クヘカラス

凡ソ浴ヲ行フニハ初靜ニ海水中ニ投シ次テ游泳走動ニ因リ體軀ヲ運動スルヲ務ム可シ

(四)浴ヲ行フニ適セル一日中ノ時 強壯ノ人ハ午前八時ヨリ十時十一時マテヲ最

良トス但食后直ニ浴ス可カラス半時乃至一時ヲ過ク可シ  
 虛弱ノ人、神經性ノ人或ハ歇私的里性ノ婦人ハ午后四時ヨリ六時マテ最良トス  
 是レ人、虛弱ナレハ大抵午前ハ多少不快ヲ覺エ怯懦ノ心ヲ生スル者多クレハナリ  
 浴前ハ疲倦スル事ヲ爲ス可カラス神思ヲ挑動ス可カラス汗ヲ發セシム可ラス可成  
 的、神思及身體ヲ鎮靜シ然ル后ヲ浴ス可シ又日中極熱ノ時ニ浴ス可ラズ  
 浴ヲ出ルノ后ハ鬆疎ナル浴巾ヲ以テ強ク全軀ヲ摩擦スヘシ強壯ナル人ハ浴后更  
 ニ冷ナル常水ノ雨浴或ハ傾瀉浴ヲ行フ數秒時ニ后ヲ全軀ヲ摩擦シ衣服ヲ着ス  
 可シ此浴后ノ冷浴ハ大ニ効チ神經系ニ奏スル者トス  
 浴后ハ半時或ハ一時ノ散步ヲ勉ム可シ然レモ久シキニ過キ或ハ嶮岨ヲ攀躋シ疲勞  
 スルニ至ルヘカラス虛弱ナル人、神經性ノ人ハ始テ浴スルニ當リ直ニ海中ニ入ル  
 ニ堪ヘサル者アリ斯ノ如キ人ハ初ニ先ツ毎朝攝氏三十度許ノ微溫度ヲ用ヒ漸々冷  
 浴ト爲シ慣ル、ニ從ヒテ終ニ海中ニ浴スルニ至ル可シ  
 (五)飲食攝生及浴場醫師 海水浴ヲ始ムルニハ其前先ツ胃ノ機能ヲ調理スルヲ要  
 ス即チ平素、酒ヲ嗜ム人ハ之ヲ禁ス可シ假令全ク之ヲ斷チ克ハサルモ減制シテ極

少量トナシ諸種ノ充血及神經系ノ刺衝ヲ避ケサル可カラス開豁ナル氣中ノ散步殊  
 ニ愜意ノ友人ヲ伴フハ最モ妙ニノ頗ル健康ヲ助クル者トス但シ行路遠キニ過キ或  
 ハ嶮岨ヲ冒シテ疲勞ヲ致シ遂ニ衰憊發熱スルニ至ラシム可カラス  
 衣服ハ其地ノ氣候ニ應シテ充分ニ被フヘシ殊ニ浴場ノ地ハ日暮ニ際シ濕霧ヲ生ス  
 ル者ナレハ若シ薄衣ニシテ其霧中ニ在ルハ大害アリ又日暮久ク外氣中ニ在ル可カ  
 ラス夜ハ九時、十時ニ及ハ、早ク寢ニ就キ翌朝六時、七時ノ早起ヲ爲スヘシ早朝ノ  
 空氣ハ日暮ニ比スレハ必ス清潔ニシテ健康ニ益アル者トス  
 虛弱ナル人ハ力ヲ深ク呼吸スヘシ尋常ノ呼吸ハ淺クシ空氣充分ニ肺中ニ達セサ  
 ルト多シ此運動ヲ肺運動ト稱シ大ニ有効ナル者ニシテ貧血諸病、胃及腸ノ慢性加苔  
 兒ハ之ニ因リテ屢々奇効ヲ見ルアリ今其深息ノ方法ヲ言ハシ先ツ可成的、深  
 ク呼吸シ其極度ニ至ラシメテ一瞬間之ヲ保チ而シテ稍力ヲ加ヘテ呼吸ス可シ此法  
 ヲ反復スルヲ凡ソ十回ニシテ五分時間休止シ復タ深息スルヲ十回スノ如ク日々反復  
 シ呼吸筋ヲ練習シテ漸ク強健ナルニ至ラシムヘシ  
 疲倦ヲ極ムルニ非サレハ晝間睡眠ス可カラス毎朝七時ニ簡單ナル滋養食餌ヲ取ル

ヘシ即チ米飯、麵包、一二盞ノ牛乳、一二箇ノ半熟卵ハ最モ適當ナル朝餐トス而シテ  
朝餐ニハ必ス煮熟セサル蔬菜及消化シ難キ副食ヲ取ル可カラズ浴后ニ適宜ノ散歩  
ヲナシ正午ニ及ヒテ午餐ヲ取リ午后六時或ハ七時ニ晚餐ヲ喫ス可シ總テ膩味難化  
ノ物例ヘハ豆類、生蔬菜、脂肪多キ豚肉、煮熟シタル卵、醃藏魚類、豆製菓子等ヲ食  
フ可ラス適當ニ食餌トナス可キ者ハ則チ米飯善ク焼キタル麵包瘦牛ノ肉、犢牛ノ  
肉、兎肉、鯉、鱒、新鮮ノ海魚、芋類、軟熟ノ果實、煮熟シタル蔬菜等ナリ

牛乳及一二盞ノ善良ナル骨喜、一二杯ノ善良ナル佛國葡萄酒ニ水ヲ和シタル者ハ  
海水浴ヲ行フ期ニ用フヘキ最良ノ飲料ナリ茶、酒、燒酒ハ之ヲ用フルヲ戒ム可シ煙  
草モ亦多ク喫セサルヲ宜シトス

海水浴場ハ各種病客ノ膺集スル處ニシテ豫メ飲料及食餌ヲ一定スルヲ難キカ故ニ必  
ズ浴場ニ一人ノ良醫アリテ之カ指揮ヲ爲サ、ル可ラス而シテ浴場ノ醫師ハ多年ノ實  
驗ヲ以テ能ク各種ノ病客ニ對スル飲食ノ利害ヲ熟了シ且其他海水浴療法ノ諸規則  
ヲ實行スルヲ病客ニ勸奨スルニ極テ必要ナル者ナリ本邦ニ於テハ未ダ浴場醫師  
ヲ設ケタルノ地アラズ常ニ許多ノ患者ヲ滯宿セシメテ繁盛ナル温泉場ト雖モ適當

ノ良醫アルハ未ダ稀ナリ抑々一二ノ醫師ヲノ専ラ鑛泉學ヲ研究セシメ以テ浴場醫  
師ノ任ニ就カザルハ甚ク難事ニ非ル可シ

(六)運動及遊戲 適宜ノ運動ト諸種ノ遊戲トハ亦海水浴場ニ於テ浴客ノ爲メ必要  
ナル者ナリ

日常操業ノ始終同調ナルヲ一轉シテ浴場ニ遊旅シ以テ其變更シタル所ノ空氣ヲ  
呼吸スルハ器質ノ變化ナキ病患ニ倖効ヲ奏スル者ナリ又攝生法ヲ轉シ日常、家ニ  
在リテ習慣セル所ノ舊癖ヲ脱スルハ其生活ノ機能ヲ旺盛セシメテ善良ノ健康ヲ致  
ス者ナリ

適宜ノ運動即チ散歩、游泳、騎馬、操舟ノ如キハ其度ヲ越ヘサルキハ極テ有益ナリ  
トス但シ此際ニ於テハ體質ノ強弱ニ注意シ疲勞ニ至ラサルヲ以テ度トナス可シ總  
テ浴場ヲノ整頓セシムルニハ必ス快適ノ散歩場、及遊戲場ヲ設ケ且ツ借馬賃舟等  
ノ便ヲ與ヘ又室内運動ノ場ヲモ設ク可シ

又心思ヲ舒暢スルノ注意モ欠ク可カラサルノ要事トナス家ニ在リテ常ニ心思ヲ使  
役スルノ慣習アル人ハ浴場ニ於テ若シ心思ヲ他ニ誘導スルノ物即チ遊戲ノ具ナク

レハ無事ニ一月ヲ消シ得ルヲ稀ナルヘシ故ニ其チノ時々生活ノ調ヲ變シ常ニ快適  
 娛樂ノ意ヲ失ハサラシメンコトヲ要ス是ヲ以テ浴場ノ客舎ニハ諸種ノ冊子及全國  
 中ノ新聞等其他各種ノ遊樂ノ具例之甚、將棋等ヲ備フ可シ又屋蓋アル投球場ヲ設  
 ケテ雨天ノ日ト雖モ多少ノ運動ヲ爲シ得可キ便ヲ計ルヘシ浴場近圍ノ道路平坦ニ  
 ノ馳驅ノ便アルキハ借馬及良製ノ人力車等ヲ備ヘテ浴客ノ需用ニ供ス可シ兒童ノ  
 爲ニハ鞦韆、桔槔板及體操ノ諸器、婦人ノ爲ニ歌舞音曲場ヲ設ルヲハ亦缺ク可ラサ  
 ル事ナリトス或ハ浴場ニ種々ノ藝人ヲ集メテ浴客ノ消遣ニ供スルモ可ナリ又雜品、  
 玩弄物、寫真及諸海產等ノ販賣舖モ亦一時ノ消遣ト爲リテ頗ル必要ナリトス上述  
 ノ如ク浴場ニハ運動娛樂ノ用ニ供ス可キ具アランヲ欲スト雖モ然レモ淫行博戲  
 等ノ端緒ト爲ル可キ事件ハ精密ニ注意シテ之ヲ禁セサル可ラス(衛生局雜誌ニ從フ)  
 海水浴場ニ適スルハ凡ソ東南ニ面セル海濱ニシテ其背後ニハ夥多ノ樹木(例之松  
 樹)アル地方ヲ最良トス是レ本篇ニ詳論セルカ如シ  
 本邦ニ於テ現ニ世上ニ海水浴場トシテ知ラレタル地名ハ左ノ如シ  
 相模國鎌倉由井ヶ濱ノ海濱院同江之島、同大磯、三浦郡大津浦

常陸國水戸大洗、伊勢國二見浦、播磨舞子ヶ濱等ナリ

就中、諸般裝置ノ整頓セル者ハ鎌倉由井ヶ濱ノ海濱院ニシテ實ニ本邦ニアル海濱  
 院ノ創始トス

### 第廿一章

#### ○急性中毒症候及療法

(「ドクトル、オスカル、リープライヒ」氏ニ從フ)

##### ○依的兒(硫酸依的兒)

(症候) 嗜眠、全身知覺脫失、心臟及呼吸器麻痺、呼氣ハ依的兒臭アリ

(解毒劑) 人工呼吸法(橫隔神經ヲ平流電氣ヲ以テ刺戟ス) 心臟麻痺ニハ「ストリキ  
 ニーチ」(〇、〇〇一)ヲ皮下注射シ心部ニ芥子泥ヲ貼ス

##### ○亞兒加里鹽類(腐蝕及炭酸ノ加里、曹達、安母尼亞、石灰)

(症候) 口内及舌ノ腐蝕、口内咽頭ノ劇キ灼痛、吐物ハ分解セル血液ヲ呈シ強ク亞兒  
 加里性ヲ反應シ痙痛、血液下利ヲ發ス

(解毒劑) 乳漿、乳汁、稀薄枸橼酸、氷片、血液下利ニハ氷水灌腸ヲ反覆ス

○亞兒箇保兒

(症候) 全身知覺脫失、嘔吐、瞳孔縮小、昏睡、粘膠寒冷ノ皮膚、口吻ニ泡沫ヲ含ミ口内ヨリ「アルコール」及「アルデヒット」臭ヲ發シ脈細徐ナリ

(解毒劑) 寒冷灌注法、頭上ノ氷罨法、注意シテ安母尼亞ヲ吸入セシメ手足ノ熱浴ヲ施ス

○安知母尼(吐酒石、硫化「アンチモニ」金硫黃)

(症候) 過劇ノ嘔吐、胃腸ノ灼痛、冷汗、劇烈ノ渴意、痙攣ヲ發ス

(解毒劑) 冷水多服、氷片、粘滑飲料、乳汁、鞣酸、阿片、胃唧筒

○砒石

(症候) 胃部劇痛、惡心、嘔吐、下腹痛、下利、自覺的ニハ灼熱ノ感アルモ皮膚ハ寒冷ナリ脈ハ細疾ニシテ呼吸ハ努力ヲ頻數ナリ搖擗スルコトアリ砒化水素ニ在テハ血尿ヲ漏ラス吐物ニ水ヲ加フレバ亞砒酸ハ重キヲ以テ器底ニ沈降ス水ニ溶解スル砒酸ハ同時ニ認知スル能ハス

(解毒劑) 吐劑、(硫酸亞鉛)新ニ調製セル含水酸化鐵、含糖酸化鐵、苦土化合物、砒石

解毒劑(藥局方中ニ在リ)胃唧筒ヲ用ユ亞兒箇保兒ヲ避クヘシ

○重土鹽(腐蝕重土、格魯兒拔留謨)

(症候) 嘔吐、下利、頭痛、眩暈、複視、搖擗、尿閉ヲ發ス

(解毒劑) 甚稀薄トナセル硫酸亞兒箇保兒ヲ用ユ

○青酸(藏化加留謨、藏化金屬)

(症候) 痙攣性呼吸、搖擗、知覺脫失、心臟及呼吸器ノ麻痺、藏化加留謨及青酸ニ於テハ青酸臭アリ(重金屬ノ藏化抱合物ハ強酸類ヲ灌注スルハ初テ青酸ノ臭アリ)

(解毒劑) 吐劑、格魯兒水、格魯兒石灰水、注意シテ格魯兒ヲ吸入セシメ、人工呼吸法(亞篤魯比涅)、寒冷灌注法、興奮藥、格魯兒水ニ代テ新製ノ含水酸化鐵ト炭酸曹達ヲ用ユ

○鉛(酸化鉛、鉛糖等)

(症候) 口内乾燥、上腹痛、嘔吐、疝痛、四肢麻痺ヲ發ス

(解毒劑) 硫酸及磷酸亞兒箇保兒鹽、吐劑及下劑、后ニハ阿片及温浴ヲ處ス

○蕃木髓(「ストリキニーチ」「プルナネ」)

(症候) 牙關緊急、強直、呼吸困難ヲ發ス

(解毒劑) 格魯仿謨吸入、抱水格魯刺兒或ハ「クヲレ」皮下注射ヲ施ス

○吐根(エメチン)

(症候) 劇烈ノ虚脱、嘔吐ヲ發ス

(解毒劑) 氷片、炭酸含有飲料、胃唧筒、阿片ヲ用ユ

○歇苔利斯

(症候) 嚥下時、口内咽頭、胃ニ劇痛ヲ覺ヘ口内及舌ニ水泡ヲ發シ異常ノ渴意嘔吐運動、尿鬱滯、血尿、陰部ノ強度刺戟、頭痛、眩暈、譫語、間代性及強直性痙攣ヲ發起ス

(解毒劑) 吐劑、胃唧筒、粘滑飲料ニ氷片ヲ加ヘ用ヒ、樟腦、阿片ヲ用ユ脂肪ヲ禁スヘシ

○石炭酸

(症候) 上腹部ノ劇痛、嘔吐、昏睡ヲ發ス

(解毒劑) 吐劑、胃唧筒、石灰乳、含糖石灰、氷片、硫酸鹽

○格魯兒

(症候) 劇烈ノ聲門痙攣、血咳ヲ發ス

(解毒劑) 新鮮空氣、注意シテ安母尼亞ヲ吸入セシメ温水蒸氣浴ヲ行フ

○抱水格魯刺兒

(症候) 心臟麻痺ノ徵候ヲ發ス

(解毒劑) 皮膚刺戟、「ストリキニーチ」皮下注射

○格魯仿謨

(症候) 心臟及呼吸器麻痺

(解毒劑) 人工呼吸法、「ストリキニーチ」皮下注射、皮膚刺戟

○格加乙涅

(症候) 胃痙、惡心、嘔吐、視力乏弱、足脚疲弱不隨、大發汗、窒息感覺等

(解毒劑) 「アミールノトリット」ノ嗅入

○實菱苔利斯

(症候) 嘔吐、下利、脉搏不正、瞳孔散大、大衰弱、昏睡、搖擗

(解毒劑) 吐劑、葡萄酒、樟腦、礮砂加茴香水、芥子泥

○藤黄

(症候) 腹痛、劇ク下利スルモ鼓脹ナシ嘔吐スルコトアリ

(解毒劑) 油類、含蛋白飲料、及灌腸、阿片、樟腦油ノ皮下注射

○格魯聖篤

(症候) 劇腹痛、嘔吐、下利、渴意、遲脈、譫語

(解毒劑) 吐劑、鞣酸、刺衝劑

○毒虫刺傷

(症候) ハ種々ナレバ逐一掲ケズ

(解毒劑) 創面棘刺コ存スルキハ之ヲ除去シ安母尼亞ノ注射、氷片、冷水罨法、鉛糖水、酒精、安母尼亞溶液

○「ケレオソート」

(症候) 石炭酸ニ於ケルカ如ク解毒劑モ然リ

○銅(一般ノ銅抱合物、水ニ溶解スルト否ニ關セス)

(症候) 劇ク綠色物ヲ吐シ痙攣、裏急后重、血便、搐搦、呼吸努力、不正脈

(解毒劑) 木炭或鐵粉、蛋白溶液ヲ用ユ脂肪ヲ禁ス

○炭酸

(症候) 絶息、血液ノ検査、光彩分析ヲ行フニ由リ確診スベシ

(解毒劑) 新鮮空氣、麥奴、少クモ七百五十瓦ノ血液ヲ輸移ス

○照輝瓦私

(症候) 絶息

(解毒劑) 新鮮空氣、輸血法

○阿片及其類鹽基

(症候) 熟深ナル昏睡、知覺脱失及神識欠乏、皮膚蒼白、頭部灼熱、瞳孔ハ刺針頭大ニ縮小ス殊ニ小兒ニ於テハ強直ヲ發スルコトアリ

(解毒劑) 頭上ニ氷罨法ヲ施シ手足ニ温浴ヲ行ヒ芥子泥、氷水灌腸、濃煎咖啡、「カツフェイン」、興奮藥、硫酸亞篤魯比涅

○稀酸(同鹽類)

(症候) 嘔吐、皮膚ハ寒冷粘汗ヲ流シ脈搏ハ弱クシテ遲徐ナリ呼吸困難、間代性及強



直性痙攣ヲ發ス

(解毒劑) 石灰水、苦土

○麥奴

(症候) 流涎、惡心、嘔吐、譫語、昏睡

(解毒劑) 催吐劑、阿片及吐根

○失毒

(症候) 充全ノ神識欠亡、呼吸麻痺

(解毒劑) 「ストリキニーネ」皮下注射、「カツフェイン」

○磷

(症候) 劇キ嘔吐、腸胃炎、吐物ハ磷臭アリ暗處ニ照輝ス

(解毒劑) 帝列並底油五十滴マテ粘滑飲料ニ加用ス脂肪ヲ禁ス

○毒菌

(症候) 許多ノ菌中毒ニ於テハ腸胃炎ヲ主候トス腦症ヲ顯發シ大ニ循環器ヲ危害ス

○水銀及其鹽類

(症候) 茲ニ詳載セス(口内、咽頭、食道、胃腸ノ腐蝕、劇痛、嘔吐、下利、虛脫)

(解毒劑) 蛋白溶液、鐵粉、阿片

○薩比那

(症候) 腸胃炎、蛋白尿、血尿

(解毒劑) 下劑、粘滑飲料ニ氷片ヲ加用ス

○硝酸

(症候) 嘔吐、下利、搐搦、脈細小遲徐ナリ

(解毒劑) 阿片、氷水、興奮藥

○亞硝酸

(症候) 劇シキ腹痛、黃色物ヲ吐出シ口内粘膜殊ニ口角ノ黃色ヲ呈ス

(解毒劑) 粘滑及亞兒加里性飲料、氷片

○失鳩苔

(症候) 咽頭乾燥、譫語、昏睡、搐搦、呼吸麻痺

(解毒劑) 吐劑、醋水灌腸、回蘇劑、「カツフェイン」

○蛇毒

(症候) 論載セス

(解毒劑) 烙鐵ヲ以テ燒灼シ、石炭酸、安母尼亞及格魯兒石灰或ハ過滿俺酸加里液ヲ咬傷ニ注射ス

○硫酸

(症候) 劇痛、吐物黒色ニシテ口角及舌ハ黒變シ酸ノ濃度稀薄ナレバ白色ヲ呈ス

(解毒劑) 氷片、粘滑飲料ニ稀薄曹達滷汁ヲ加用ス

○硫化水素

(症候) 絶息

(解毒劑) 新鮮空氣、注意シテ格魯兒瓦私ヲ吸入セシム

○蔓陀羅華

(症候) 次ニ掲タル中毒ニ同シ

(解毒劑) 吐劑、下劑、注意シテ阿片或ハ謨兒比涅ヲ用ユ

○萇若(亞篤魯比涅)

(症候) 口内咽頭乾燥、強劇ノ渴意、惡心、嘔吐、皮膚甚ク乾燥シ烈ク譫語シ脈甚頻數トナリ瞳孔ハ極テ大ニ散大ス

(解毒劑) 上記ノ如シ

○狂犬毒

(症候) 久時ヲ經テ初テ發症ス(六周ノ后)

(解毒劑) 深達スル腐蝕、(格魯兒亞鉛、安母尼亞、腐蝕加里)烙鐵、大量ノ格魯兒ヲ與フ

○亞鉛

(症候) 劇烈ノ嘔吐、腸胃炎

(解毒劑) 粘滑飲料、乳汁、鞣酸、后ニハ阿片ヲ服セシム

此篇中、素ヨリ慢性中毒ノ如キハ論載セス詳細ハ須氏內科學ニ論述セルヲ以テ宜ク參考スベシ

第二十二章

○人工呼吸法

此法ハ失神及假死ノ際ニ蘇生セシムル爲メ施ス術ニシテ之ヲ要スル諸症ハ大約左ニ掲ルカ如シ

癲癇、歇私的里、諸般ノ中毒（殊ニ阿片、亞兒簡兒、炭酸瓦私、街燈瓦斯、格魯々保兒母等）急劇ノ失神（殊ニ大出血、腦振盪等）呼吸障害（縊死、窒死、凍死、溺没他物氣道ニ硬塞スル症臍帶壓迫、胎盤剝離過速等）ニシテ是ヲ行フニハ先ツ眞死ト假死ノ鑑別ヲ行ハサル可ラス是レ醫家ノ熟知ス可キ所ナリ即之ヲ鑑別スルノ要點ハ循環、呼吸及反射ノ三機能ヲ檢スルニ在リ

○假死ト眞死ノ鑒別法

(イ) 心臟ノ官能存否ヲ檢査スルハ最モ緊要ナリ即チ聽診ヲ施スヲ數回ニシテ五分乃至十分時内ニ聽取スル克ワサルキハ多クハ眞死ナリ又心動ノ有無ヲ知ランカ爲メ心尖部ニ細長ノ穿針ヲ「半ツオル」許刺入シ針端ヲ熟視スルニ其動搖スル者ハ心動ノ僅カニ存スルヲ知ル可シ

(ロ) 血液循環ノ存否ヲ檢スルニハ紐帶ヲ以テ四肢ヲ縛スルニ周邊ノ靜脈怒脹シ或

ハ織糸ヲ以テ手指ヲ緊縛スルニ未タ生活機ヲ失ハサルキハ青紅色ヲ呈シ且腫脹ス可シ此糸ヲ除クキハ其部ニ白色ノ凹溝ヲ殘留ス若シ假死ナルキハ其部暫時ニ赤色トナル又點火シタル封蠟ヲ胸上ニ滴下シ其部、潮紅スル者ハ血行ノ未タ廢絶セサル徵ナリ

(ハ) 呼吸機ノ存在スルヤ否ヲ知ルニハ鼻口部ニ冷鏡、羽毛、燭火ヲ接ス可シ若シ鏡面ニ曇翳ヲ生シ羽毛、燭火ニ顫動ヲ來タスキハ其機能ノ存在ヲ徵知ス可シ

(ニ) 反射機能ヲ檢セント欲セハ眼中ニ光線ヲ射入スヘシ則チ眞死ニアラサルキハ瞳孔收縮シ之ヲ去ルキハ又夕散大スルヲ以テ假死タルヲ知ルヘシ最モ確實ナルハ電氣ヲ通シテ筋ノ刺戟ニ由テ檢スルニ在リ 死後三時間ハ其反應ヲ存ス 又皮膚ヲ刺戟スルニ假死ナルトキハ反應性ノ赤色ヲ呈スルモ眞死ニ於テハ然ラス

○眞死ノ徵候ハ面色蒼白ニシテ 紫死ハ紫色 窒死ハ黄色 黃疸ハ黄色 體中壓迫ヲ被フル部ハ悉ク扁平トナル死後八時乃至十二時ヲ經レハ死斑ヲ生ス即チ血液ノ沈下ニ由リ生スルヲ以テ必ス體ノ下部ニ多ク見ル者ナリ六時乃至十二時ヲ經レハ冰冷トナリ四時ヨリ十二時ニ至ル間ニ死后強直ヲ發ス腐敗ハ死后數時或ハ數日ニ發ス其遲速ハ外圍ノ氣温ニ關ス

ル者ナリ

○人工呼吸ノ方法

〔第一〕 氣道ヲ刺戟スル法 葱根ヲ切り其ノ切端ヲ鼻中ニ挿入シ或ハ羽毛或藁ヲ以テ鼻孔ヲ刺戟シ或ハ諸母尼亞瓦私、醋酸、依的兒等ヲ嗅入セシメ后ヲ假死者ノ顔面及胸部ヲ冷水ニ浸シタル布片ヲ以テ輕打シ反射的ニ呼吸ヲ喚起シ或ハ皮膚ニ芥子泥、芥子精ヲ塗布シ刺戟ス可シ

〔第二〕 大氣吹入法 假死者ノ鼻孔ヲ閉テ術者ノ口ヲ直チニ假死者ノ口ニ接シ或ハ「カテーテル」ヲ以テ大氣ヲ吹入ス可シ

〔第三〕 「マルシヤルハル」氏法 假死者ノ衣帶ヲ脱シテ其體ヲ伏臥セシメ衣服ヲ卷キテ之ヲ胸廓上部ト地上ノ間ニ挿置シ術者ハ手掌ヲ開放シ左右肩岬骨間ニ當テ平等ニ壓迫シ(甲圖)ニ秒時間ニノ横臥位ヲ取ラシメ(乙圖)ニ秒時後再ヒ伏臥位トナスヲ要ス此法ハ一分時間十五回行フヘシ之ヲ横臥トナスニ左右交番ニ轉換シ行フヲ良シトス

第十圖  
マシヤルハル氏法

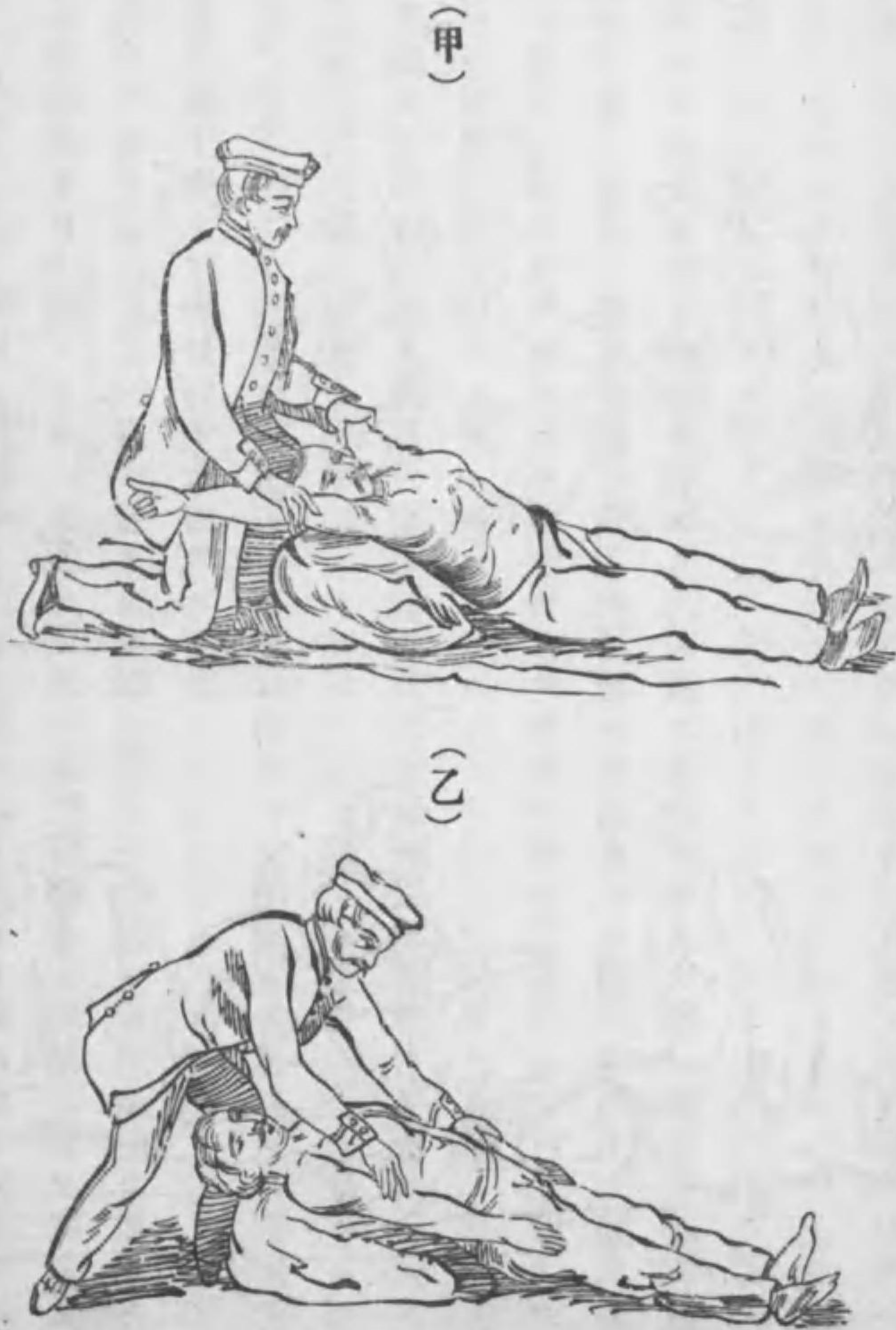
(甲)



(乙)



第十圖  
シヴエスルテ氏法



〔第四〕「シヴエスルテ氏法」假死者ノ頸部ニ枕ヲ入レ胸部ヲ高起シテ仰臥セシメ介者ヲ舌ヲ牽出セシム而シテ術者ハ患者ノ頭邊ニ立キ其兩手ノ肘關節部ヲ取り上肢ヲ強掣シ頭上ニ送り(甲圖)二秒時ノ后ヲ再ヒ腹ニ其手ヲ下降シ胸ノ側面ヲ壓低ス(乙圖)此ノ如ク上下スルヲ一分時十五回トス

〔第五〕溺者ノ人工呼吸法 先ツ溺者ノ衣帶ヲ脱去シテ伏臥セシメ其衣服ヲ卷纏シテ胃部ト地上(床上)ノ間ニ挿入シテ胃部ヲシテ最高ク口唇ハ最低位ヲ取ラシム可シ此際前額ノ地上ニ接着スルヲ防ク可シ爾后術者ハ兩手ヲ以テ溺者ノ胸部ヲ壓スルヲ毎三秒時ニ一回之ヲ行ヒ反復スルヲ兩三回ニ及ブキハ胃及氣管中ニ吞飲セル所ノ液ハ吐逆シテ口又ハ鼻ヨリ排出スルニ至ル可シ此ニ至リ却テ仰臥セシメ枕ヲ背下ニ挿入シテ胸ノ下部ヲ高處ニ支エ肩部ヲ低下シ頭部ヲ反張セシメ兩手ハ頭上ニ交叉ス可シ又介者ヲシテ布片ヲ舌ニ纏ヒ其退縮ヲ防ク爲メ固持セシメ術者ハ溺者ニ跨リ其臀部ヲ吾股間ニ夾ミ膝立シ兩手ヲ溺者ノ肋軟骨內端ノ上ニ接シテ其拇指ヲ胸骨劍尖ノ近部ニ其他ノ四指ヲ肋間ニ當テ胸部ヲ壓抵シ術者ハ其肘ヲ固定シ而シテ毎二三秒時ニ横隔膜ニ對シテ上方及背部ニ向ヒ急劇ノ力ヲ用ヒス徐々ニ壓迫シ交互ノ顔面殆ト

相接セントスルニ至テ忽チ壓迫ヲ止メテ直ニ膝立ノ位置ニ復ス可シ然キハハ壓縮セラレタル胸廓、肋骨ノ彈力ニ由テ一頓ニ擴張シテ吸氣作用ヲ起ス可シ之ヲ行フ一  
分時間ニ七回乃至十回ナル可シ此法ハ「ホワルド」氏ノ法ニシテ最モ便益アリトス

〔第六〕 電氣刺戟法 有力ノ感傳電氣ニ由テ横隔神經ヲ刺戟スル者ニ一導子ヲ鎖骨上窩ニ於テ胸鎖乳頭筋ノ后縁ト僧帽筋前縁ノ間ニ置キ他ノ導子ヲ胃窩ニ於テ横隔膜ノ附着部ニ接シ横隔神經ヲ刺戟スルキハ吸息作用ヲ發シ之ヲ開ケハ直ニ呼吸ノ作用ニ變ス此ノ如ク反覆數回ニ及ヒ呼吸ヲ催進ス可シ其開閉ハ毎二三秒時ニ一回宛行フ可シ

〔第七〕 初生兒人工呼吸法 患兒ヲ仰臥位ニ置キ術者ハ其頭部ニ坐シ兩手ヲ伸シテ初生兒ノ同側胸ノ上部ニ拇指、腋窩ニ示指ヲ接シ背部ニハ其他ノ三指ヲ固定シ而シテ兒體ヲ上下ニ轉動ス可シ即チ兒體ヲ舉上シテ術者ノ頭上ニ達スレハ再ヒ之ヲ低下シ前位ニ復シ更ニ舉上スルヲ前ノ如クス此上下運動ハ數回反復スルヲ要ス

〔附言〕大出血等ノ爲メニ急性貧血ヲ發シ心臟機能將サニ滅絶セントスル際ニ臨テハ單ニ人工呼吸法ヲ施シテ止ム可キニアラス必ス循環機能ヲ挽回スルノ方法ヲ施

サマル可カラズ其法ハニアリ

(一) ハ輸血法ニノ之ニ適スル血液中最良ナルハ人血ニ次ハ羊血ナリ犬血ハ人ノ血球ヲ壞滅スルノ危險アルヲ以テ用ユ可ラス此法ハ素ヨリ此小冊子ノ能ク盡ス可キニアラス其輸血ノ方法、用器ノ適否、及諸種血液ノ利害等ハ「エスマルヒ」氏ノ軍陣外科手術ニ就テ其詳細ヲ知ル可シ

(二) ハ食鹽液注入法ニ其溶液ハ〇、六「プロセント」食鹽〇、六「六」  
百瓦ノ比例チ有シ稍亞兒加里性トナシタル者ヲ上肢ノ動脈或ハ靜脈中ニ注入シ亡失シタル血量ヲ補ヒ尿管内容ト血液ノ關係ヲ常度ニ復スルニ在リ〇、五乃至〇、六「プロセント」ノ食鹽溶液ハ血液ヲ害スルコトナク又心臟血管等ニ障害ヲ來タスコトナシ之ニ供用スル食鹽ハ充分純粹ナルヲ要シ又蒸餾水モ清淨ナラサルヘカラス其注入ノ方法及器械等ハ全ク輸血法ト同一ニシテ溶液ハ血温ト同度ナルヲ要ス一回ノ注入量ハ五百瓦以上ヲ用ユ而シテ通常左橈骨動脈ノ末端ニ向テ注入スル者トス

上記ノ外ハ原因療法ヲ施シ且ツ症ニ從テ樟腦或ハ依的兒ノ皮下注射ヲ行ヒ赤葡萄酒武蘭垚酒等ノ興奮藥ヲ内服セシム可キハ論ヲ待タス

### 第二十三章

#### ○各年齡用量概表

凡テ用藥量ハ年齡ノ老幼、身體ノ大小強弱ニ由リ差異アリ「ガウビウス」氏ハ二十年乃至六十年ノ者ニ與フル者ヲ常量トナシ之レチ一ト定メ左ノ表ノ如ク定メタリ

一年以下者	十五分一 十二分一
一年乃至二年者	八分一
二年乃至三年者	六分一
三年乃至四年者	四分一
四年乃至七年者	三分一
七年乃至十四年者	二分一
十四年乃至二十年者	三分二

六十年以上ニ至レハ年齡ヲ加フルニ從テ漸々減量スヘシ即チ四分ノ三、三分ノ二、二分ノ一等ノ比例ヲ以テ減スヘシ

○「ヨング」氏ハ十二年以下ノ小兒ニ與フル用量ヲ記憶シ易キ爲メ左ノ法ニ由リ計算

セリ即チ小兒ノ現齡ニ十二年ヲ加ヘ其ノ總數ヲ除スルニ現齡ヲ以テセリ即チ其式

現齡  

$$\frac{\text{現齡} + 12}{4} = \text{ナリ例令ハ小兒一年、二年、三年、四年ト増加スルニ從テ} \frac{1}{1+12} = \frac{1}{13}, \frac{2}{2+12} = \frac{1}{7}, \frac{3}{3+12} = \frac{1}{5}, \frac{4}{4+12} = \frac{1}{4}$$

### 第二十四章

#### ○小兒藥量

(茲ニハ小兒ニ緊要ナル藥品ヲ示ス)

- 印度大麻越幾斯 一日三四回 〇、〇一〇、〇二〇、〇五—〇、一ト一〇〇、〇ノ者 一茶匙
- 貴若越幾斯 〇、〇〇五ヲ溶液トナシ一日三四回
- 蕃木鼈越幾斯 〇、〇〇五—〇、〇一〇一日一回
- 乳酸鐵 〇、〇二—〇、〇五
- 抱水格魯刺兒 〇、一—〇、五
- 吐根 吐劑ニハ二、〇—五、〇ヲ五〇、〇ノ浸劑トシ一茶匙宛吐スルニ至ル、祛痰劑

- 、二チ一〇〇、〇ノ浸劑トナシ一茶匙
- 吐根酒 吐劑トシテ一茶匙
- 吐酒石 吐劑ニハ〇、一―〇、一五チ九〇、〇ノ溶劑トナシ每十分時一茶匙吐スルニ至ル  
虚弱ノ小兒ニ於テハ全ク禁忌スベシ
- 吐酒石酒 吐劑トシテ每五分乃至十分時一茶匙宛用ヒ吐スルニ至ル
- 硫酸規尼涅 幼少ノ小兒ニハ每三乃至四時ニ〇、〇五チ用ヒ二歳ノ兒ニ解熱劑トシテ〇、五チ二分シ服セシム
- 硫酸銅 吐劑ニハ〇、五チ九〇、〇ノ液劑トナシ每五乃至十分時ニ一  
小兒匙ヲ用ヒ吐スルニ至ル
- 溶解性含糖酸化鐵 〇、〇二―〇、〇五
- 海葱丁幾 五滴チ九〇、〇ノ液トナシ每二時一茶匙
- 沃鐵舍利別 二、〇―五、〇チ一〇、〇ノ單舍利別ト共ニ半乃至一茶匙
- 溶解性酸化鐵舍利別 半乃至一茶匙
- 苦扁桃水 一歳以下ノ小兒ニハ五滴チ五〇、〇ノ溶液トナシ一茶匙ヲ與ヘ稍成長

セル兒ニハ滴數チ増ス

- 格魯兒化汞 〇、〇一―〇、〇二 一日二回
- 格魯兒酸加留謨 本劑ヲ應用スルニ當リ大ニ注意スルモ中毒チ發ス一日ノ極量トシテ小兒ノ一歳以下ハ一日量一、〇三歳迄ハ一日量二、〇ナリ
- 貌魯謨化加留謨 二、〇―五、〇チ一〇、〇ノ液劑トナシ一日二回一  
小兒匙漸次増量ス
- 鹽酸「アポモルヒチ」 吐劑ニハ〇、〇〇一―〇、〇〇二ニシテ〇、二%ノ液チ皮下注射ス
- 鹽酸「ピロカルピン」 〇、〇二―〇、〇三―〇、〇四チ九〇、〇  
每時一茶匙、實布姪里ニ用ユ〇、〇〇二―〇、〇〇五チ皮下注射ス
- 鹽酸「モルヒチ」 〇、〇〇〇五―〇、〇〇一 一日二回  
阿片チ參考セヨ
- 「アンチピリン」 小兒ノ年齢ニ應スル「デチグラム」量チ一回ノ灌腸トナシ三乃至六回、
- 亞格魯兒化汞 〇、〇〇二 一日二回



- 阿片越幾斯 阿片ト同量ヲ用ユ
- 亞砒酸加里液 一滴ヨリ漸々三乃至五滴ニ増加ス
- 阿片 一般ニ小兒ニハ大ニ注意シテ阿片劑ヲ用ユベシ乳兒ニハ可及的、禁忌スヘシ、〇〇二一〇、〇〇五每三時ニ與フ
- 阿片吐根散 〇、〇一〇、〇五每三時
- 阿片丁幾 一乃至五滴ヲ一〇〇、〇ノ溶液トナス(阿片ヲ見ヨ)
- 安息酸阿片丁幾 五乃至十滴
- 「サントニーチ」 〇、〇二五—〇、〇五 數夕連服ス
- 硝酸「ストリキニーチ」 〇、〇〇〇五—〇、〇〇一〇、〇〇二 一日一回
- 硝酸銀 〇、〇二—〇、〇五ヲ五〇、〇每二時 一茶匙
- 樟腦 〇、〇一〇、〇二每二時
- 鞣酸規尼涅 〇、〇二—〇、〇五 一日數回
- 支那花 幼小ノ小兒ニハ〇、五「三歲迄ハ一、〇—一、五」三乃至六歲ハ三、〇成長セル小兒ニハ四、〇

- 鞣酸 〇、〇一—〇、〇二每三時
- 實菱苔利斯葉 〇、一五—〇、二ヲ九〇、〇ノ浸劑トス每二時 一小兒匙
- 麝香 〇、〇二—〇、〇五
- 實菱苔利斯丁幾 五滴ヲ九〇、〇每二時 一茶匙
- 非沃斯越幾斯 〇、〇〇五 一日四回「〇、〇五ヲ五〇、〇每二三時 一茶匙
- 石炭酸 小兒ニ用ユルニハ大ニ注意ヲ要ス
- 柘榴根皮 二〇、〇—三〇、〇ヲ二〇〇、〇ノ煎劑トシ三分シ每半時ニ服用セシム 一歲以下ノ小兒ニハ用ユ可ラス
- 水銀軟膏 〇、二—〇、五 一日一回塗擦ス

第二十五章

○配合禁忌藥

配合禁忌タル各種藥物ヲ同時ニ處方即配合スルニハ或ハ化合シ或ハ分解シ或ハ其性ヲ變シ或ハ不良ノ形狀ヲ呈シ其効力ヲ増減シ小ハ豫期ノ全効ヲ得ス大ハ不測ノ危害

ヲ招來スル者ナリ醫家タル者處方ノ際尤モ注意ヲ加フヘシ

〔一〕酸類即チ硫酸、鹽酸、硝酸、酒石酸、等○亞爾加里及亞爾加里性液醋酸鹽類、酸化金屬等

〔二〕鞣酸含有物○炭酸亞爾加里、重炭酸亞爾加里、粘漿物、金屬鹽類、石灰水、蛋白質、膠質、格魯兒水等

〔三〕亞砒酸○酸化鐵、石灰水、苦土等

〔四〕蛋白質○酒精、酸類鞣酸、昇汞等

〔五〕亞拉比亞護謨○過格魯兒鐵、鉛鹽類、酒精、依的兒製丁幾、硼砂等

〔六〕護謨華爾斯即チ乳香、阿魏、安母尼亞屈謨、○揮發油、金屬鹽類、植物水製劑、樟腦等

〔七〕植物鹽基ノ鹽類○沃度鞣酸、炭酸亞爾加里、及ヒ土類、沃度化合物、甘草恙、水製大黃丁幾、濃稠粘液、加留謨海葱丁幾

〔八〕實幾多利斯○鉛糖、鞣酸、沃度、沃度加留謨、炭酸亞爾加里、

〔九〕阿片○炭酸亞爾加里、鞣酸、金屬鹽類沃度、格魯兒水、番木鱉、別刺敦那葉等

〔十〕麝香○酸類、酸性物、醋酸鹽、鞣酸、金屬鹽等

〔十一〕硝酸銀○鐵物酸植物酸及ヒ其鹽類、青酸、苦扁桃水、沃度、沃度加留母、臭素加留母、炭酸亞爾加里及土類、硫黃、金硫黃等

〔十二〕醋酸鉛○亞拉比亞護謨、椴椴子漿、達刺侃篤、阿片、石灰水、炭酸鹽類、礮砂、硫酸鹽類、鹽酸、硫酸、沃度、沃度加留母、鞣酸質等

〔十三〕硝酸蒼鉛○鞣酸質、金硫黃、硫黃等

〔十四〕還元鐵○蘆薈、植物煎汁、越幾斯、鞣酸質、金屬鹽、植物鹽基類等

〔十五〕鐵鹽類○植物煎汁、越幾斯、鞣酸質、炭酸亞爾加里、粘液物等

〔十六〕鹽化拔留謨○硫酸、磷酸其鹽類、酒石酸、炭酸鹽類、藥用葡萄酒、植物煮汁等

〔十七〕昇汞○炭酸鹽類、石灰水、沃度加留謨、阿片、植物煎汁、鞣酸質等

〔十八〕甘汞○酸類、酸性鹽類、炭酸亞爾加里、石灰水、礮砂、礮砂加茴香精、沃度、沃度加留謨、亞鹽化鐵、沃度化鐵、硫黃、金硫黃、苦扁桃、及乳劑、并ニ水劑植物越幾斯等

〔十九〕金硫黃○礮砂加茴香精、重炭酸那篤留謨、酒石、亞格魯兒化汞、硝酸蒼鉛等

〔二十〕吐酒石○酸類、亞爾加里類、石鹼、甘汞、鞣酸質、規那、大黃、阿片、亞拉昆亞護謨等

〔二十一〕鹽化安知母紐謨○水液、亞爾加里性物質等

〔二十二〕格魯兒石灰○有機物、揮發油、鞣酸質、硫黃、硫化金屬等

〔二十三〕格魯兒加爾叟謨○水、炭酸亞爾加里、植物酸亞爾加里、安母尼亞鹽類等

〔二十四〕格魯兒水○亞爾加里、炭酸亞爾加里、安母尼亞鹽、植物酸鹽類、硝酸銀、鉛鹽、鞣酸類、植物粘液、植物越幾斯、植物性丁幾、植物水製劑、植物煎汁、牛乳、乳劑等

〔二十五〕抱水格魯刺爾○水、炭酸亞爾加里、植物酸亞爾加里、安母尼亞鹽類等

〔二十六〕石灰水○酸類、炭酸鹽類、安母尼亞鹽類、金屬鹽類、酒石酸鹽類、植物煎汁、丁幾劑、鞣酸質等

〔二十七〕沃度○安母尼亞、澱粉、金屬鹽、脂肪油、揮發油、乳劑、抱水格魯刺爾、炭酸土類、亞拉昆亞護謨、達刺侃篤、沙列布、亞硫酸那篤留謨等

〔二十八〕沃度加留謨○酸類、酸性鹽類、植物鹽基鹽類、硝酸銀、酸化鐵鹽、鉛鹽、汞鹽、

〔二十九〕鹽素酸加留謨○鹽酸類、有機物、硫黃、炭素等  
〔三十〕醋酸加留謨○粉劑、丸劑、錠劑トスヘカラス  
〔三十一〕過滿俺酸加留謨○有機物、揮發油、酒精、偏里斯林、安母尼亞、安母尼亞鹽類、炭素、硫黃等  
〔三十二〕重炭酸那篤留謨○酸類、酸性鹽類、鞣酸質、金屬鹽、植物鹽基鹽類等

第二十六章

○瓦蘭麻、瓜、夕、比較表

ミ リ 瓦	〇、〇〇一	千分一瓦	六十分瓜一	〇、〇〇〇二六六夕強
セ ン チ 瓦	〇、〇一	百分一瓦	六分瓜一	〇、〇〇〇二六六夕強
デ ナ 瓦	〇、一	十分一瓦	壹瓜半	〇、〇〇二六六夕強
瓦 蘭 麻	一、〇	瓦位	十六瓜	〇、二六六夕強
デ カ 瓦	一〇、〇	十瓦	二兮半	二、六六夕強

瓦蘭麻、瓜、夕、比較表

五百三十一

ヘクト瓦	一〇〇、〇	百瓦	三汚二子半	二六、六 勿 强
キロ瓦	一〇〇〇、〇	千瓦	凡三十三号	二六、六、勿 强
ミリア瓦		萬瓦		二貫六百八十一 勿 强
クサントル		十萬瓦		廿六貫八百十一 勿 强

第二十七章

藥品溶解表

此表ハ攝氏十五度ニ於テ實地上應用スル諸藥ノ水、酒精、依的兒ニ溶解スル數目ノ比  
 例ヲ示セル者ナリ(其溶解セサル者ハ縦線ヲ引ケリ)

藥名	水	酒精	依的兒	藥名	水	酒精	依的兒
安息酸	四〇〇			鹽酸規尼涅	四〇		
硼酸	三〇			硫酸規尼涅	八〇〇		
石炭酸	二〇	二〇		「ピロガルス」酸	三		
枸橼酸	一	一	五〇	撒兒失兒酸	六〇〇		
				鞣酸	五	二	
				酒石酸	一	四	

明礬	二二			硫酸規尼涅	四〇		
腐蝕明礬	二五			鹽酸「コカイン」	五		
硫酸アルミニウム	二			「コッフエイン」	八〇	五〇	一〇
炭酸アンモニウム	四			硫酸銅	四		
格魯兒化學	四			硫酸鐵	五〇		
アンチフェリン	二〇〇	一〇	一〇	乳酸鐵	二		
アンチピリン	一	一	五〇	硫酸鐵	二		
アルブチン	八	一六		亞格魯兒化汞	二〇	三	
硝酸銀	一	二		亞沃度化汞	二〇	一三〇	四
硫酸アトロヒチ	一	三		藏化汞	二〇	二〇	
格魯兒那篤留母	二			沃度仿謨		五〇	六
硼砂	一八			「ヨドル」	五〇〇	三	一
貌魯謨	四〇			沃度	五〇〇	一〇	三
亞硫酸規尼涅	二二	三五		醋酸加留謨	〇、五	二	

藥名	水	酒精	依的兒	藥名	水	酒精	依的兒
重炭酸加里	四			醋酸那度留謨	三	三〇	
貌魯謨加里	二	二〇〇		安息酸曹達	二		
炭酸加里	一			重炭酸曹達	一五		
格魯兒加里	二〇	二〇〇		貌魯謨曹達	二	五	
沃度加里	一	二		炭酸曹達	二		
硝酸加里	五			沃度曹達	一	三	
過滿俺酸加里	二五			硝酸曹達	二	五〇	
硫酸加里	二			磷酸曹達	一〇		
酒石酸加里	一五〇			撒里失兒酸曹達	一	六	
炭酸「リチウ」	一五〇			硫酸曹達	四		
硫酸苦土	一			「メラツアル	一〇		
鹽酸謨兒比涅	二五	五〇		「ヒラツアル	一〇		
硫酸謨兒比涅	二〇			撒兒失兒酸	一五〇	二	
				ヒソスチグミ	三	三〇	
				醋酸鉛			

第二十八章  
○重量比較表

沃度鉛	二〇〇〇			吐酒石	二〇〇		
「サツカリ」	二五〇			硫酸「タルリン」	七	一〇〇	
白糖	〇、五			「チモール」	二〇〇	一	
乳糖	七			「ウレタン」	一	〇、六	
「ザロール」			五	「ツエラトリン」		四	
「サントニーチ」	五〇〇〇	五〇		醋酸亞鉛	三	四〇	
硝酸ストリ	一〇〇	一〇〇		硫化石炭酸亞鉛	二	二	
孕礪酒石	一			硫酸亞鉛	一		
精製酒石	二〇〇						

一ガロン 百六十号 四六〇〇、〇 一貫四百九十三匁三分餘

一 ポイント	二 十	六〇〇、〇	百八十六分六厘餘
一 ボンド	十 二	三六〇、〇	百一十一分七分七厘餘
一 弓	八	三〇、〇	九分三分三厘餘
一 弓	六 十 四	三、七五	一分六厘餘
一 乃	二 十	一、二五	三分六厘餘
一 乃	一 及 ノ 二十 分 一	〇、〇五	一厘九毛
一 滴	一 氏 弱	〇、〇五	一厘九毛 <small>每液体平均數</small>

第二十九章

○滴量表(此表ハ何滴ヲ以テ一瓦トナス可キヤ)  
ヲ示ス者ナリ數字ハ滴數ヲ現ハス)

濃 醋	一 六	鹽酸(比重一、一二四)	一 三	水 製 青 酸	一 六
鉛 醋	一 六	稀 鹽 酸	一 六	硝 酸(比重一、二八五)	一 二
醋 酸	一 六	酒 製 青 酸	三 二	磷 酸(比重一、二二〇)	一 六

強 硫 酸	一 二	格魯兒化安質母尼液	一 二	帝 列 並 底 油	二 五
稀 硫 酸	一 六	酸性硫酸混合劑	三 〇	石 油	二 五
依 的 兒	五 〇	護膜漿(一、二)	一 二	依 的 兒 精	二 五
醋 酸 依 的 兒	二 五	依的兒性扁桃油	二 〇	依的兒性格魯兒鐵精	二 五
常 水	一 六	橙皮油、ベルカモツト油	二 五	依的兒性鹽酸精	三 〇
苦 扁 桃 水	二 五	丁子油、生薑油	二 〇	依的兒性硝酸精	三 〇
酒 精 性 水	二 五	枸櫞油	二 五	酒 精 製 酒	四 〇
骨 拜 巴 拔 兒 撒 謨	二 五	巴豆油	二 五	酒 精	三 〇
百 露 拔 兒 撒 謨	一 六	茴香油	二 五	稀 酒 精	二 五
格 魯 兒 仿 謨	二 五	「ラフェンデル」油	二 五	溶 解 性 格 魯 兒 安 母 紐 母	一 二
「ケレオソート」	二 五	薄荷油	二 五	舍 利 別	一 二
過 格 魯 兒 化 鐵 液	一 二	阿列布油	二 〇	酒 精 製 丁 幾	二 五
亞 砒 酸 加 里 液	一 六	蓖麻子油	二 〇	依 的 兒 性 丁 幾	二 五
炭 酸 加 里 液	一 六	薔薇油	二 五	吐 酒 石 酒	二 〇

藥用葡萄酒

二〇

滴量ハ各液體ニ由リ異ナリト雖凡概スレバ鑛酸舍利別ハ十二滴、水、醋、稀礦酸ハ十六滴、脂肪油、重揮發油、丁幾類ハ二十滴、他ノ揮發油、格魯仿謨、醋酸依的兒、酒精ハ二十五滴、亞硝酸「アミール」、甘硝石精三十滴純依的兒ハ五十滴ヲ以テ一瓦トナスヲ得ベシ

第三十章

○容量名目比較表

食匙、茶匙等ハ藥品ノ異ナルニ從テ異重ヲ異スル故ニ小差ナキ能ハスト雖モ概スレハ左ノ如シ

茶匙  
半茶匙  
食匙

一芍  
半芍  
四芍

四、〇  
二、〇  
一五、〇

半食匙小兒匙

酒盞

茶碗

刀尖

小刀尖

二芍

凡三芍

凡三芍

半芍

十乃至十五八

七、五

一〇〇、〇

一〇〇、〇

二、〇

一、〇

第三十一章

○各國度量比較表

此篇ハ日常一般ニ稱呼スル度量ノミヲ比較シ其他ヲ略セリ

(英)ヤルト(衣服尺)  
(英)マイル(地理尺)  
(佛)ミリメートル  
(佛)センチメートル

(日本)三尺、〇一一  
(日本)十六丁五十六間一尺、八八餘  
(日本)尺、〇〇三二九餘  
(日本)尺、〇三二九餘

- (佛) デシメートル
- (佛) メートル (地球子午線四千萬分の一)
- (埃) フツス
- (埃) ツオル
- (埃) リニー
- (魯) ウオルセリ
- (魯) アルセーン
- (支) 尺
- (支) 里
- (英) バイント (酒量)
- (英) バイント (藥液量)
- (英) ガルロン (藥液量)
- (佛) リートル (海水千立方)
- (佛) リートル (千立方仙迷)
- (埃) コツス

- (日本) 尺、三二九餘
- (日本) 三尺、二九二九餘
- (日本) 一尺、〇三
- (日本) 尺、八五八強
- (日本) 一尺、〇七一強
- (日本) 尺、一四六三強
- (日本) 三尺、三四一強
- (日本) 一尺、二四三強
- (日本) 五丁十七間四尺、九五六
- (日本) 二合、六〇六
- (日本) 三合、一二八一強
- (日本) 二升五合、〇二五一強
- (日本) 五合、五〇六九強
- (日本) 七合、七七七強

- (埃) サイデル
- (魯) ウェトコジャ

- (日本) 一合、九四五強
- (日本) 六升七合、七五八四

### 第三十二章

#### ○病床檢温法

抑モ檢温器ニ由テ體温ヲ確定スルハ實地臨床上ノ目的ニ向テ卓越ノ効力ヲ有スル者ニシテ打診聽診等ノ諸法ト共ニ理學診斷的檢査法ヲ構成スルモノナリ此法ハ實地治療家ニハ最モ緊要ニシテ精密且簡易ニ其技術ト成績トヲ現ハシ得ル者ナリ而シテ體温ノ度ハ熟練ヲ積ムキハ單ニ手掌ヲ以テ按試スルモ梗概ヲ檢知シ得ヘシト雖モ更ニ精檢スルニハ檢温器ヲ要ス之ニ由テ温度一定分ニ體温ノ到達スルヲ檢スルハ診斷、豫後及其治療ニ向テ甚タ必要ノ方針ヲ與フル者ナリ病床ニ於テ使用スル檢温器ハ則チ水銀ヲ充實シ且適宜ノ太ニシテ殆ト十五乃至十八仙迷ノ長ヲ有シ其度數ハ攝氏三十度乃至四十五度ニシテ亦十分一ノ度即何分ヲモ尙測知スルヲ得ヘキ者トス温度ヲ讀



マント欲セハ檢温器ノ身體ニ接着スルノ間ニ行フヘシ是レ檢温器ヲ身體ヨリ離開スルヤ忽チ水銀柱ノ下降ヲ起セハナリ然レモ極點檢温器ハ身體ヨリ離開后尙久ク其温度ヲ讀ムヲ得ヘシ是レ此器ニ於テハ水銀柱ノ連續ヲ斷絶シタル小氣柱即チ空氣ハ之ヲ温ムレハ他ノ檢温器ノ如ク昇騰スト雖モ其放冷時ニ於テモ上方ニ位セル小水銀柱ハ一回到達セル部位ニ留止スレバナリ若シ再ヒ使用セントスルモ之ニ輕キ振搖ヲ與フベシ然ルモ上方ノ小水銀柱下降シ暫時ニ收縮セル下方ノ水銀部ニ近接スヘシ此檢温器ハ甚ク實地上ニ便ナレモ少ク高價ナリ

身體中、温度檢測ヲ行フニ最モ便利ナル部分ハ腋窩ニ於テ確定スルニアリ即チ此部ヲ豫メ能ク拭ヒタル后チ其水銀點ヲ腋窩ノ基底ニ接シ然ル后チ膊ヲ胸廓ニ固定シ十分乃至十五分時間、挿置スルヲ要ス亦檢温ノ成績ヲ迅速且確實ニ知ラントスルニハ直腸或ハ腔内ヲ良トス此部ニ使用セシニハ檢温器ニ油ヲ塗り適當ノ注意ヲ以テ殆ト五仙迷餘挿入スヘシ略五分時ニ已ニ檢温器ノ最高度ヲ讀ムヲ得ヘシ殊ニ一歳未満ノ小兒ハ直腸内ニ於テスルヲ良トス然レモ其際冷器ノ刺戟ニ由テ便意ヲ催サザルカ爲メ必ス温暖ナラシムルヲ要ス又老者其他羸衰スル者モ直腸ヲ良トス然レモ直腸或

ハ腔ニ於テ檢温ヲ行フハ私宅開業家ハ屢々障害ニ撞着スルカ故ニ不便ニシテ且穩當ナラス故ニ病者ニ稱用スヘキハ看護人ヲシテ極點檢温器ヲ實用セシムルニ在リトス爾后回診セシ醫師ハ確實ノ看護人ニ就テ温度ヲ詳ニ聞知スルヲ得ヘシ而シテ直腸ノ温度ハ常ニ腋窩ヨリハ〇、五度高シトス温度ノ檢測ハ毎日一回行ヒ或ハ疑シキ症或ハ緊要ノ際ニ於テハ二回行ハサル可カラス檢温ノ數ヲ増加スヘキハ診斷或ハ治療上ニ向テ一日中、數時ノ熱經過ヲ知ルヲ要スルモハ勿論ナリトス最モ適當ナルハ毎朝八時乃至九時ノ間毎夕五時乃至七時ノ間ニ行フニ在リトス

健康人ノ體温ハ一般ニ變化スルコトナシ其温度ハ腋窩ニ於テ攝氏三十六度乃至三十七度五分直腸ニ於テハ三十六度五分乃至三十八度ノ間ニ昇降ス此度ハ健康人ニ在テハ内外ノ感應(外圍ノ温度、勞動、飲食等)ニ由テ昇降スルコトナシ

温度ノ變更ナキハ健康ノ徵候ニシテ其度ヲ超ユルハ則チ其疾病ナルヲ示スナリ中年健康人ノ正規生理的ノ温度ハ攝氏三十七度ニシテ體温ハ一般ニ小兒及老人ニ在テハ中年ノ者ヨリハ高度ナリトス同一ノ人ニ在テモ亦其温度ハ夕ハ最モ高ク朝ハ最モ低シトス

病者ノ體温ハ通常攝氏ノ三十五度ヨリ四十三度ノ間ニ昇降スル者ニシテ此極高度ハ稀ニ亦一度或ハ一度半昇騰スルコアリ之ニ反シテ極低度以下則チ三十度以下ニ達ズルハ屢々經驗スル所ナリ

體温ノ増加ハ他ノ熱性症候ト一致ノ發スルカ故ニ恰モ温度亢進ハ熱ノ發語トシテ知了スルニ至ル之ニ反シテ體温減降シテ微弱且細小ノ脈搏等ヲ併發スル者ハ之ヲ稱シテ虚脱ト云フ檢温法ハ其疾病ノ危篤或ハ輕快ノ如ク熱經過ノ模範ヲ示スモノナリ例之室扶斯、肺炎マラリア其他稽留熱、再歸熱ノ如シ然レ亦病ノ時期ハ温度ヨリ導クコアリ即チ増進期、極期、減退期ノ如キ是ナリ攝氏三十七度以下ニ體温ノ減少スルハ惡液、精神病、器質欠損ノ心病等ニ於テ發スル者ニシテ此種ノ人ニ在テハ温度ノ亢進シテ生理的正規ノ度ニ達スルモ已ニ熱症ト看做スヘシ

虚脱温(攝氏三十六度)以下

- 〔甲〕 三十三度五分以下チ必死虚脱ノ温度トス
- 〔乙〕 三十三度ヨリ三十六度ノ間ノ虚脱温ハ猶生命ヲ保續シ得ル者ナリ
- 〔丙〕 三十五度乃至三十六度ハ更ニ危險ナラサル尋常ノ虚脱温ナリ

常温

- 〔甲〕 三十六度乃至三十六度五分ハ稍尋常ヨリ降ルノ温度ナリ
- 〔乙〕 三十六度七分乃至三十七度四分ハ安全ナル健體温度
- 〔丙〕 三十七度五分乃至三十八度ハ稍熱性ニ近キ温度ナリ

熱性温

- 〔甲〕 三十八度乃至三十八度四分ハ輕症ノ熱性病ノ温度ナリ
  - 〔乙〕 三十八度五分乃至三十九度ニシテ夕三十九度五分ニ至ルハ中等熱度ナリ
  - 〔丙〕 三十九度五分乃至四十度五分ノ重症ノ熱性病ノ温度ナリ
  - 〔丁〕 四十度六分以上ハ最重症熱病ノ温度ナリ
- 温度四十一度七分五厘ヲ越ユルコアレハ必死ノ瀕終ヲ著ハス者ナリ

### 第三十三章

#### ○諸熱性病温度圖說

病床診斷上熱ノ種類ヲ區別シテ左ノ二種トス

- (一) 稽留熱即チ一日ノ差ハ一度以上ヲ呈セス
- (二) 弛張熱即チ一日ノ差ハ一度五分以上ヲ呈セス
- (三) 間歇熱即チ一日ノ經過中ニ高度ノ熱ヨリ無熱ノ間時ヲ呈ス

○熱ノ經過ハ區別シテ左ノ三種トス

- (一) 増進期 速ニ(多クハ戰慄ヲ以テ)或ハ徐々ニ増進ス
  - (二) 極期 次ノ中間期トナルノ變移ナリ
  - (三) 減退期 熱下降ハ數日ノ經過中徐々ニ散渙ヲ發シ或ハ速ニ分利ヲ發ス
- 眞ノ分利ハ温度急ニ降り(一日以内)多クハ發汗シテ常度以下ニ降下ス  
時トノ分利ハ暫時持續セル者アリテ最高温度昇騰ニ前行ス

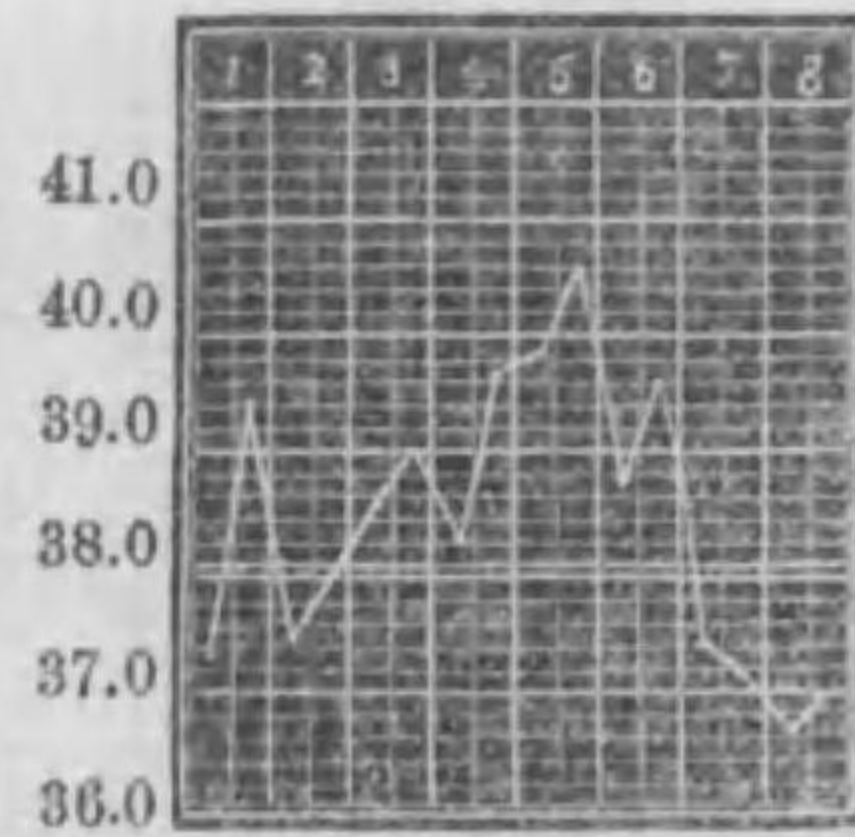
急性傳染病ニハ尙ホ潜伏期ヲ分ツ即チ傳染ノ機轉及病的現症ノ最初發現スルノ時ナリ其他殊ニ急性發疹病ニ前驅期ヲ分ツ即チ發疹ノ發現ニ前行スル最初ノ病候ナリ

○温度檢査法中殊ニ注意ヲ要スヘキハ左ノ諸病ナリ

○麻疹 (第十二圖)ノ如シ

潜伏期ハ十日ニシテ前驅期ハ三日ナリ粘膜炎ヲ特徴トス寒戰ヲ以テ高熱ヲ發シ二三

圖第二十第



圖三十第



日ニシテ皮疹、顔面ニ發スレハ輕ク下降シ后ヲ再ヒ  
鼻上ニ發疹大ニ蔓延スレバ其極度ニ達ス(熾盛期ハ  
三四日ナリ)發病六七日ニシテ分利狀ニ下降ス(次テ  
落屑ス)

○猩紅熱 (第十三圖)ノ如シ

潜伏期ハ四日乃至七日ニ前驅期ハ一二日ナリ其特  
徴ハ咽頭炎ナリ戰慄シテ急ニ高熱ニ昇ル、一日或ハ  
二日ニシテ胸部ニ發疹ヲ呈シ其蔓延タルハ温度益  
々昇騰ス解熱ハ發病ノ四日乃至七日ニ始リ皮疹ノ輕  
快ト共ニ徐々ニ三日乃至六日內ニ來ル(次テ落屑期  
トナル)

○眞痘 (第十四圖)ノ如シ

潜伏期ハ九日(九日乃至十六日)ニシテ其終ニ輕キ全  
身障礙ヲ發ス前驅期ハ二日乃至五日ニ寒戰ヲ以テ

急ニ昇ル高熱ヲ發シ時トノ二三日ニ於テ前驅發疹ヲ發シ痘疱ヲ發點スレハ急ニ温度下降ス時々初ニ輕キ熱度ノ昇降ヲ續發ス九日ニシテ更ニ昇リ(化膿熱)弛張性ノ摸範ヲ保持シ不同ナル持續后、散渙狀ニ終ル(乾燥期)殆ト十六日ニノ落屑ヲ始ム

○假痘 (第十五圖)ノ如シ

潜伏期及前驅期ハ眞痘ノ如シ只現症輕易ナルノミ第二ノ發熱期即チ化膿熱ハ欠如ス

圖 四 十 第

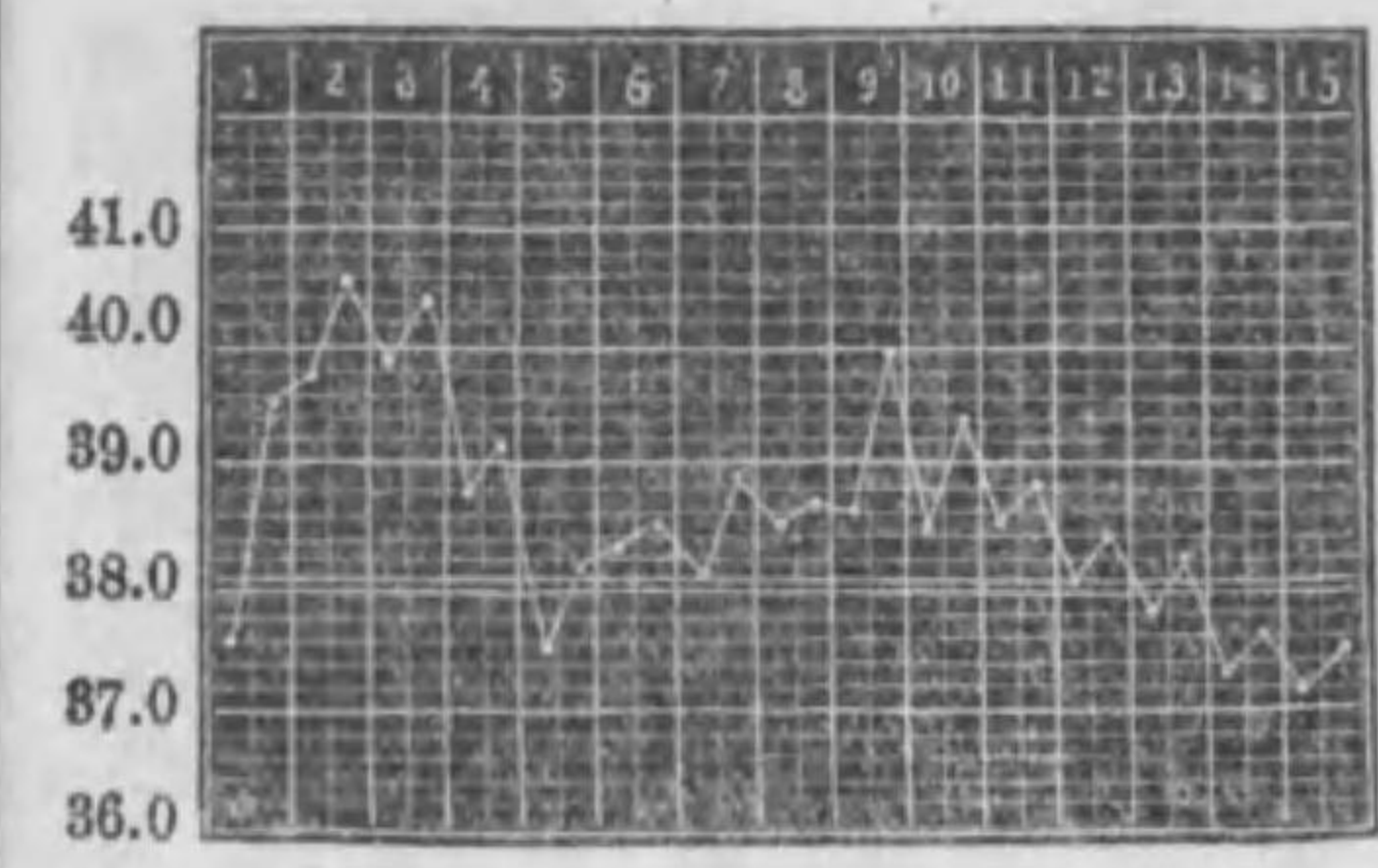


圖 五 十 第



乾燥期ハ屢九日乃至十日ニ始リ數々輕易ノ温度昇騰ヲ起ス

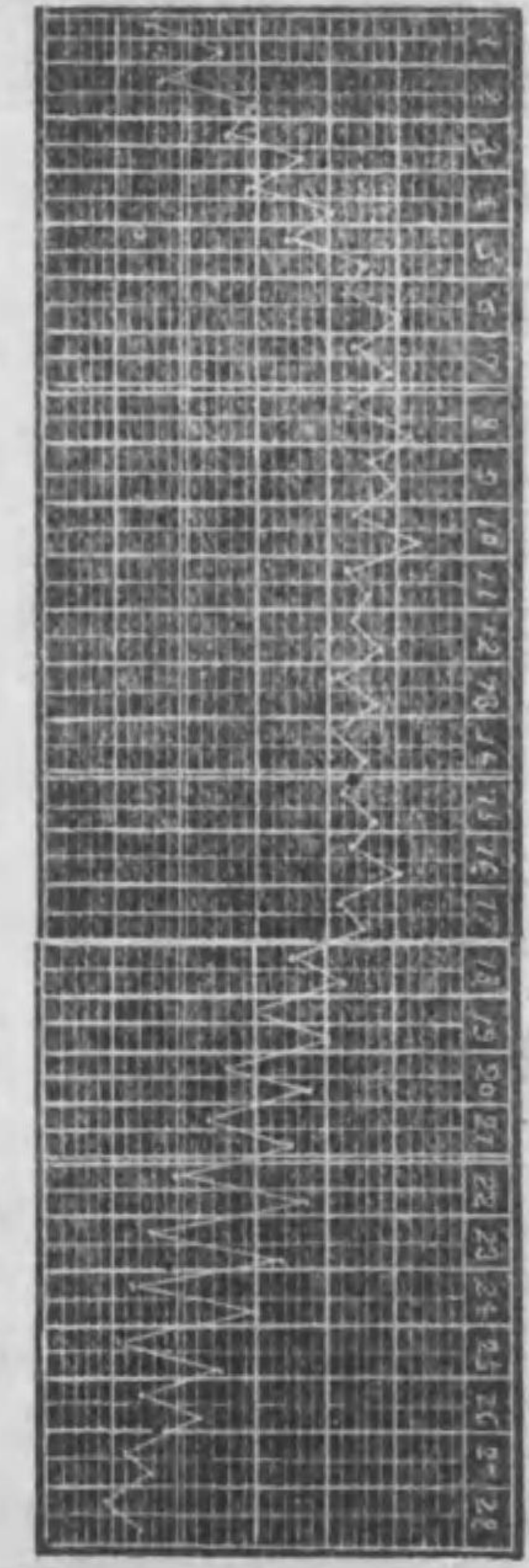
○水痘

前驅期ハ欠如スルヲ常トス實ニ輕易ノ熱度昇降ヲ以テ水泡ノ發點ヲ始ム三四日ノ後再ヒ乾燥ス

○腸窒扶斯 (第十六圖)ノ如シ

第 十 六 圖

潜伏期ハ七日乃至十二日ニ前驅期ハ數日乃至一周持續シ全身ノ違和チ呈ス本病ノ第一周ニハ温度屢數回



輕キ戰慄ヲ以テ稽子狀ニ昇リ四日乃至七日ニシテ極期ニ至ル此期ハ稽留熱トナリテ